一旦日ナミン身術館

2023年度 富山市ガラス美術館 記録集・研究紀要 Toyama Glass Art Museum Document Book and Bulletin 2023

2023 年度

富山市ガラス美術館 記録集・研究紀要 Toyama Glass Art Museum Document Book and Bulletin 2023 Vol.9

目次 Index

記録集 Document Book

- 4 ごあいさつ Foreword
- 6 展示風景 Installation View
- 30 主要印刷物 Printed Matters
- 33 展覧会 Exhibitions
 - 34 アナザーワールド: 不思議でリアルな世界 Other Worlds: Realms of Wonder and Reality
 - 44 日本近現代ガラスの源流 The Origins of Japanese Modern Glass
 - 58 宮永愛子 詳を包む MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse
 - 64 ガラスの街とやま連携展 「ガラスと生きる」富山ガラス工房と所属作家 Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition: Life with Glass-Toyama Glass Studio and Affiliated Artists
 - 68 コレクション展 Collection Exhibition
- 73 新規収蔵作品 New Acquisitions
- 76 教育普及活動 Educational Activity
- 79 その他の活動 Other Activities
- 81 資料 Appendix

研究紀要 Bulletin

- 96【資料紹介】明道長次郎関係資料について中島春香
- 103 Abstract
 New Materials Relating to MYODO Chojiro
 NAKASHIMA Haruka

富山市ガラス美術館は、2015年の開館以来、「ガラスの街とやま」を市政のひとつに掲げる富山市の芸術鑑賞の場として、現代グラスアートを中心に多様な芸術作品を紹介してまいりました。

2023 年度は、2020 年初頭から続くコロナ禍がようやく落ち着きをみせたこともあり、お陰様で20万人を超える来場者に恵まれました。長く閉ざされがちであった生活から解き放たれ、国内外から富山に観光にいらっしゃる方々や、行政を通じて視察に来られる団体が増加したこと、また開館から9年目を迎えた当館が、グラスアートに特化した美術館として、徐々に周知されてきたことなどが要因であったと考えられます。展覧会事業としましては、年3本の企画展と、富山市の3つのガラス関連施設が協力して開催する「ガラスの街とやま連携展」、そしてテーマ毎にご紹介する2本のコレクション展が中心となりますが、開館以来の恒久展示となるデイル・チフーリによる「グラス・アート・ガーデン」も、引き続き圧巻のご好評をいただいております。また例年、市内の小学4年生をお招きする「学校招待プログラム」も再開され、子どもたちのキラキラとした笑顔と感動に、私たち自身、随分と励まされました。

嬉しいニュースの一方で、2024年の元旦、家族団らんのひと時を襲った能登半島地震では、私たちも震度5強の地震を経験することになり、2週間の臨時休館を余儀なくされました。未曾有の災害に施設も作品も脅かされましたが、職員の心も大いに揺るがされました。しかしこのような有事にあっても、各自が冷静に対処し、粛々とやるべき行動に移したことは、館長として何よりの救いであり、誇りすら感じさせられました。改めて災害や地震対策を見直す契機となると同時に、気持ちを一つにするきっかけになったことも事実です。

富山市ガラス美術館は、いかなる場合でも、作家の発表の場として、また鑑賞者の豊かな感性や 好奇心を育む美術館として、今後も邁進してまいります。本誌が当館の活動をより深く知っていた だくための参考となれば幸いです。

富山市ガラス美術館 館長 土田ルリ子

Since opening in 2015, the Toyama Glass Art Museum has introduced a great variety of artworks, particularly contemporary glass, providing a space for artistic appreciation in the city of Toyoma, which has proclaimed "Toyama: City of Glass Art" as a municipal policy.

In fiscal 2023, when the COVID-19 pandemic, which broke out early in 2020, finally showed signs of calming down, our museum was able to welcome over 200,000 visitors. Many domestic and international tourists, freed at last from an extended shut-in period, came to Toyama, and government programs brought groups to visit the museum. Our museum, now in its ninth year, is gaining recognition as an art museum specializing in glass art. Our museum's exhibition program includes three special exhibitions a year plus the *Toyama*, *City of Glass Art, Collaborative Exhibition*, organized through cooperation among three glass-related institutions in the city of Toyama, and two thematic exhibitions introducing the collection. Dale Chihuly's *Glass Art Garden*, on permanent display since our museum opened, continues to receive an outstanding reception. We have also resumed our annual school invitational program, inviting fourth-graders from elementary schools in the city to participate. The children's sparkling smiles and lively reactions were a great source of encouragement for us.

All was not, however, good news. On January 1, 2024, the 2024 Noto Peninsula Earthquake struck, on a day when families were enjoying get-togethers. Our area experienced it as an earthquake with a 5+ seismic intensity, which forced us to close the museum temporarily for two weeks. That unprecedented disaster endangered our facility and the works of art and was also a great emotional shock to our staff members. But everyone responded calmly in the emergency, quietly carrying out the actions needed, which was to me, as the museum's director, both a relief and a great source of pride. While the earthquake spurred us to review our disaster and earthquake preparedness measures, it also brought us together.

The Toyama Glass Art Museum continues to move ahead, no matter what, as a venue for artists to present their work and a museum that fosters the rich sensibilities and curiosity of our visitors. We hope that this publication will be a useful reference for learning more about our museum's activities.

TSUCHIDA Ruriko
Director
Toyama Glass Art Museum

アナザーワールド:不思議でリアルな世界

Other Worlds: Realms of Wonder and Reality

























日本近現代ガラスの源流

The Origins of Japanese Modern Glass



















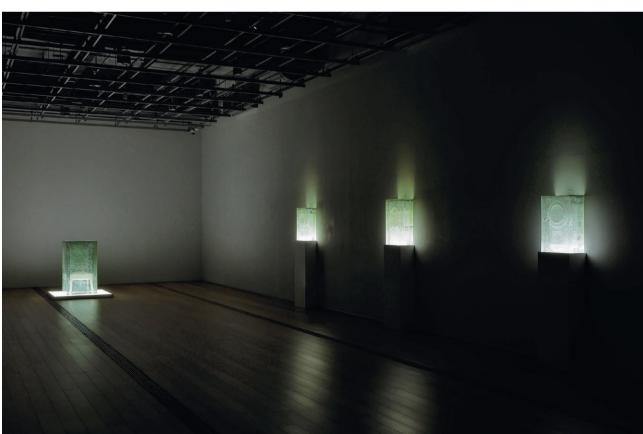






宮永愛子 詩を包む MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

































ガラスの街とやま連携展「ガラスと生きる」 富山ガラス工房と所属作家 Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition: Life with Glass-Toyama Glass Studio and Affiliated Artists









コレクション展 ガラスをめぐる自然

Collection Exhibition Nature in Glass











コレクション展 かさねのガラス Collection Exhibition Glass: Layered Depth









29

主要印刷物

Printed Matters

アナザーワールド:不思議でリアルな世界 Other Worlds: Realms of Wonder and Reality

デザイン:伊藤久恵(有限会社クロス) 印刷:株式会社山田写真製版所 Design: ITO Hisae (CROSS Inc.) Printed by Yamada Photo Process Co., Ltd.



ポスター Poster 不思議でリアルな世界 今井瑠衣子 植村宏木 木下結衣 小林干紗 高橋まき子 アナザーワールド: 不思議でリアルな世界 **Other Worlds**: Realms of Wonder and Reality 竹圆健朝 津守秀惠 203.4 = -6.18 | | 富山市ガラス美術館 | 2.3版 版写第1.3 キラリ かんか

宮永愛子 詩を包む MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

印刷:株式会社山田写真製版所 ポスター掲載作品:宮永愛子 (waiting for awakening -chair-) 2017年、撮影:木奥惠三 Design: TAKASHIMA Ayumi (MITAI Co., Ltd.) Printed by Yamada Photo Process Co., Ltd. Poster: MIYANAGA Aiko, waiting for awakening -chair-, 2017,

Photo: KIOKU Keizo ©MIYANAGA Aiko Courtesy of Mizuma Art Gallery

デザイン:高嶋鮎美(株式会社 MITAI)

カタログ Catalog

11/3(金·祝) - 1/28(日) 富山市ガラス美術館

日本近現代ガラスの源流

The Origins of Japanese Modern Glass

カタログデザイン:彼谷雅光 (有限会社ナチュラル・デザインスタジオ) ポスターデザイン:宮田裕美詠(ストライド)

印刷:株式会社山田写真製版所 カタログ表紙掲載作品:岩田藤七《花器》1960年、新宿歴 史博物館所蔵

ポスター掲載作品:各務鑛三《花器》1954 年、カガミクリス タル株式会社所蔵、撮影:田中祐樹

Catalog Design: KAYA Masamitsu (Natural Design Studio) Poster Design: MIYATA Yumiyo (STRIDE)

Printed by Yamada Photo Process Co., Ltd. Catalog cover: IWATA Toshichi, Vase, 1960, Shinjuku

Historical Museum Poster: KAGAMI Kozo, Vase, 1954, KAGAMI CRYSTAL Co.,

Ltd, Photo: TANAKA Yuuki Printed by Yamada Photo Process Co., Ltd.





ポスター Poster



ガラスの街とやま連携展

「ガラスと生きる」富山ガラス工房と所属作家 Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition: Life with Glass-Toyama Glass Studio and Affiliated Artists

デザイン:久保美穂 Design: KUBO Miho ポスター Poster

ポスター Poster

きラ キラリ

コレクション展 Collection Exhibition

ガラスをめぐる自然

Nature in Glass

デザイン: 伊藤久恵 (有限会社クロス) ポスター掲載作品: 塚田美登里 (光林 #2) (部分) 2013 年、 富山市ガラス美術館所蔵、撮影: 岡村喜知郎 Design: ITO Hisae (CROSS Inc.)

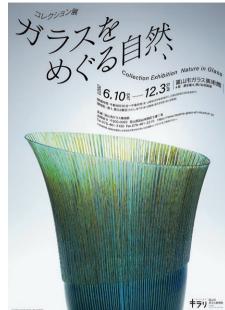
Poster: TSUKADA Midori, *Beams of light through the forest trees #2* (detail), 2013, Collection of Toyama Glass Art Museum, Photo: OKAMURA Kichiro

かさねのガラス Glass: Layered Depth

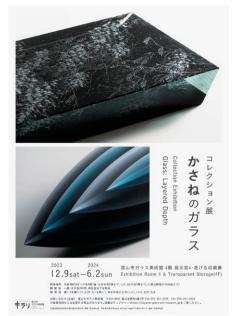
ポスター掲載作品:渡辺知恵美 (清流の燈) (部分) 2018 年、 小島有香子 (Layers of Light - Night-) (部分) 2011 年、2 点 ともに富山市ガラス美術館所蔵、撮影:未正真礼生

Poster: WATANABE Chiemi, A light of the clear stream (detail), 2018; KOJIMA Yukako, Layers of Light -Night-(detail), 2011, (Both of artworks) Collection of Toyama Glass Art Museum, Photo: SUEMASA Mareo

ポスター Poster



ポスター Poster



展覧会 Exhibitions

- 34 アナザーワールド: 不思議でリアルな世界 Other Worlds: Realms of Wonder and Reality
- 44 日本近現代ガラスの源流 The Origins of Japanese Modern Glass
- 58 宮永愛子 詩を包む MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse
- 64 ガラスの街とやま連携展 「ガラスと生きる」富山ガラス工房と所属作家 Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition: Life with Glass-Toyama Glass Studio and Affiliated Artists
- 68 コレクション展 Collection Exhibition
- 73 新規収蔵作品 New Acquisitions

教育普及活動 Educational Activity

- 76 富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館 学校招待プログラム Toyama Glass Art Museum & Toyama City Library Invitation Program for Schoolchildren
- 79 その他の活動 Other Activities

^{※ 2024} 年 3 月 9 日から開催の企画展「回顧展:大平洋一 ヴェネツィアン・グラスの 彼方へ」については 2024 年度記録集・研究紀要に掲載します。

[※] 文中の組織名、役職名については各事業実施当時のもの。

^{*} Information about the exhibition YOICHI OHIRA: Beyond Venetian Glass, A Retrospective will be published in the Document Book and Bulletin 2024 (vol.10).

^{*} Organization names and job titles as at the time of each project.

Other Worlds: Realms of Wonder and Reality

アナザーワールド=もうひとつの世界は、長い歴史の中でさまざまに定義され、多くの人を惹きつけ続けてきた。本展覧会は、私たちが生きる世界のもうひとつの姿をアナザーワールドと定義し、見慣れたもののこれまで見えなかった一面や物事のもうひとつの側面など、普段は意識の外側にあるものを捉えようとする試みである。展覧会では、国内外で活躍する7人の作家を取り上げ、彼らのガラス作品に共通する「相反する二面性の共存」に着目することで、それぞれの特徴と世界観に迫った。

「未知の表情と出会う」と題した第1章・ワールド1では、ガラスに よる新しい造形の可能性に挑む2人の作家を紹介した。ガラスと陶士を 混ぜ合わせる独自の手法・混合焼成によって制作を行う津守秀憲の作 品は、岩や土のような質感や色合いを特徴とし、ガラスのイメージを 見事に裏切るが、その有機的な伸びやかさは、ガラスならではである。 熱、重力、素材の力、そして津守の造形意志のコラボレーションが生 み出す泰然とした山のような静謐さ、あり余る力が暴れているかのよ うな荒々しさが顕著に表れた作品で展示を構成することで、新しい価 値を創出する津守の制作を概観した。一方、ガラスへのこだわりに突 き抜けた竹岡健輔は、ケーン(ガラス棒)を編み込むことで、冷たく 硬いと思われがちなガラスが、熱と作り手の身体の動きに応じてしな やかに変化する性質を巧みに提示する。透明で、光を反射し、透過さ せるという誰もが馴染んでいるガラスの特徴を活かしつつ、時には色 を用い、時には半透明にすることでガラスの線の軌跡を魅せ、編むと いう手法で意外性を追求する竹岡の作品を、会場では制作年代順に紹 介することで、その制作の軌跡を追った。

続く第2章・ワールド2では、「思いが交差する場」として、自身の 思いや記憶を主題とした制作を展開する今井瑠衣子を紹介した。過ぎ 去る時間や環境の変化の中で感じた思いを、今井は衣類や文房具など をモチーフに、白色のみで繊細に、質感豊かに表現する。展示では、 作家の暮らしや関心のあり方を概観しながら、極めて私的な要素が反映 された今井の制作が、白一色のガラスとなることでニュートラルな表現 となり、誰もが自身の思いや記憶を重ね、同じ時代を共有する私たちの 思いが交差するもうひとつの世界として立ち現れる過程を追った。

第3章・ワールド3「生きるということ」では、生命への深い考察を制作背景に持つ2人の作家を取り上げた。海の生き物や菌類をモチーフに、生命が根源的に持つ強さを表現する木下結衣の作品は、形も大きさも異なる色とりどりの小さなガラスパーツがマザーオブパールなどとともに無数に、隙間なく編み込まれ、有機的な立体となることで、美しさとグロテスクが紙一重となるところに大きな特徴がある。展示では、命あることを喜び煌めく生命、自らが生き延びるために他者を食いものにする恐ろしい生命、何度朽ち果てても復活するしなやかな生命を表現した作品を中心に会場を構成することで、生命に真摯なまなざしを向ける木下の世界観に迫った。一方の小林千紗は、吹きガラス技法ならではの呼吸の効果や身体性に着目し、生命と呼吸をテーマに制作活動を展開する。極限まで膨らませ、引き伸ばしたガラス同士

をつなぎ合わせて和紙で包み、透明性を打ち消したことで、小林の呼吸は新たな姿へと変容を遂げる。黒いオブジェが白い空間の中で独自の存在感を放つ「しるのくるのかたち」シリーズを中心に展示を構成し、ガラスのしなやかさ、呼吸が生み出す「かたち」を提示する小林作品の特徴を紹介するとともに、生命を根源的に司るものとしての呼吸を視覚化した小林のドローイング作品も併せて展示した。

最終章となるワールド4「見えないものを追いかける」では、2人の 作家が、存在が不確かなものの姿を捉え、私たちの好奇心と高揚感を かき立てた。植村宏木は、不可視ながら意識することができる存在-一ある場所や対象がまとう空気、それらが積み重ねて来た時間などを "もの"と定義し、インスタレーション作品として表現する。透明なガ ラス板を空気に見立てて線を彫り、その奥行きを提示する作品。吹い て制作したガラスを壊して内部を削り、再構築して自らの呼吸の軌跡 を追う作品。実際に訪れた土地の石や木とガラスを組み合わせ、その 場所の記憶などを探り出す作品。透明にも不透明にもなるガラスの特 質を活かし、私たちのそばに確かに存在するものをめぐって、世界を 認識する方法に新たな一石を投じる植村の制作を概観した。そして、 展覧会の最後を飾る高橋まき子は、自身の夢の中で出会った不思議な 生き物・幻獣の姿を表現する。パート・ド・ヴェールの技法で表現さ れた幻獣たちは、柔らかな光を帯び、神秘的でありながら親しみやす さを併せ持つ。会場に集まった幻獣たちは、いずれも包容力に満ち、堂々 とした佇まいである。その姿は、私たちが現実の暮らしの中で感じる 相手を思いやる気持ち、こうありたいと願う自分の姿とも映り、幻獣 たちは不思議な世界の住人としてのみならず、私たちに共有されるさ まざまな感覚の象徴とも捉えうるのである。

この展覧会では、7人の作品の主題にどのような二面性があるか、そしてその表現にガラスの特質がどのように活かされているかを分析した。彼らの作品は、私たちが「普通」「当たり前」と思い込んでいることに揺さぶりをかける。彼らが見せるアナザーワールドは、驚きと好奇心をもってこの世界を捉える心を開かせてくれる、現実と地続きにある「不思議でリアルな世界」として、私たちの目の前に開けている。 (渡部名祐子)

The concept of "other worlds" has been defined in myriad ways over the long arc of history, and has sparked wonder in countless people. This exhibition reinterprets other worlds as alternate dimensions of our existing environment, and seeks to illuminate elements usually outside our conscious perception, such as unseen facets of familiar things and phenomena. The exhibition features seven artists who are active both in Japan and overseas, spotlighting the coexistence of opposing dualities that is a shared quality of their glass works, and exploring each artist's characteristics and perspectives.

The first section (World 1), "Encountering Unknown Expressions," presents works by two artists exploring new possibilities in glass. TSUMORI Hidenori employs a unique mixed firing technique that integrates glass with clay, producing textures and colors reminiscent of stones and earth. This compellingly subverts the conventional image of glass, but at the same time, the organic malleability of the works is something only glass can accomplish. The combined dynamics of heat, gravity, material forces, and Tsumori's artistic intent result in a paradoxical aesthetic evoking the imperturbable serenity of a mountain while imbued with surging, turbulent force. This section of the exhibition offers an overview of Tsumori's innovative practice. Meanwhile, TAKEOKA Kensuke weaves canes (glass rods) in a manner that illustrates how glass can transform from a seemingly cold, hard material to one that flexibly responds to heat and the artist's actions. Takeoka employs the material's familiar properties of transparency, transmissibility, and luminosity, while at times deploying color and translucency to reveal the linear trajectories of the glass. His works are displayed in chronological order, tracing the evolution of his art and highlighting surprising elements achieved through his weaving technique.

The second section (World 2), titled "A Place for Intersecting Sensations," features IMAI Ruiko, whose works address the themes of personal feelings and memories. Imai's delicate yet richly textured, uniformly white works channel emotions, arising amid the passage of time and environmental changes, through the motifs of clothing and stationery items. The exhibit offers glimpses into Imai's lifestyle and concerns, elucidating how she sublimates deeply personal elements into neutral expressions through white glass. This medium is all-embracing, enabling viewers to superimpose their own feelings and memories upon it and unveiling another world where our sensations, as people living through the same era, intersect.

The third section (World 3), "What It Means to Live," showcases two artists who incorporate deep contemplation of organic life into their creative processes. Drawing inspiration from sea creatures and fungi, KINOSHITA Yui's works embody the primal vitality of living things. They are characterized by countless tiny glass elements of various shapes and sizes, tightly interwoven with materials such as mother-of-pearl to produce biomorphic forms that tread a fine line between the beautiful and the grotesque. Her exhibit conveys the shimmering vibrancy of living things, the harrowing eat-or-be-eaten world of predators and prey, and the resilience of life that is perpetually rejuvenated, offering an intimate view of Kinoshita's vision of the living world. In the same section, KOBAYASHI Chisa explores the dynamics of breath and physicality inherent in the blown glass technique. Her practice, revolving around life and breath, involves inflating and stretching pieces of glass to the extreme, then

joining the pieces into a whole and enveloping them in Japanese paper to dim their transparency. This process causes Kobayashi's breath to metamorphose into new forms. Works from her series "The Form of Black; The Form of White", consisting of black objects in a white space that exert an extraordinary presence, form the core of the exhibit. These works compellingly demonstrate the malleability of glass and the forms that emerge from breath, and are accompanied by her drawings that render breathing visible as an essential aspect of life.

In the final section (World 4), titled "In Search of the Invisible," two artists explore the elusive shapes of indeterminate presences, sparking curiosity and elation. UEMURA Hiroki interprets mono ("things") as entities that are invisible yet perceptible, capturing the essence of places' and objects' atmospheres and the layers of time that pervade them, and conveys this vision in installations. His works range from transparent glass plates etched with lines that convey air and reveal depth, to blown glass that is shattered, hollowed out, and reconfigured to trace the course of his own breath, to constructions that merge glass with natural elements such as stones and wood from places he has visited, probing the histories of those locales. Through the dual properties of glass, which can be transparent or opaque, Uemura's works question the ways in which we perceive the world around us. The exhibition concludes with the work of TAKAHASHI Makiko, who brings to life imaginary creatures from her dreams. These beings, created using the pâte de verre technique, emit a gentle radiance and are simultaneously enigmatic and friendly. The mythical beasts gathered in the venue each exude a welcoming yet commanding presence, mirroring our feelings of empathy for others and the personal aspirations that mark our daily lives. They do not merely populate a fantastical realm, but also embody a diverse range of sensations that resonate within all of us.

This exhibition investigates dualities within the themes of the seven artists' works, and the dynamic harnessing of the properties of glass in each artist's practice. Their works challenge what we conventionally consider to be "ordinary" or "obvious." The other worlds they reveal foster a renewed sense of wonder and curiosity about this world, presenting us with mysterious yet tangible realms that are seamlessly connected to our own reality.

(WATABE Nayuko, translated by Christopher STEPHENS)

アナザーワールド:不思議でリアルな世界

展覧会

会 期:2023年3月4日(土)~6月18日(日)

会 場:展示室1-3

主 催:富山市ガラス美術館

後 援:北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、 チューリップテレビ

担 当:渡部名祐子、米田結華

グラフィックデザイン: 伊藤久恵(有限会社クロス)

輸送展示:日本通運株式会社北陸東支店 会場施工:株式会社アイラックエンタープライズ

観 覧 料:一般1,000円(800円)、大学生800円(600円)、

前売券800円(一般のみ) ※()は団体料金 ※高校生以下無料

出品作家: 今井瑠衣子、植村宏木、木下結衣、小林千紗、高橋まき子、 竹岡健輔、津守秀憲

カタログ

『アナザーワールド:不思議でリアルな世界』

25.7×18.3cm 108頁 1,600円 発 行:富山市ガラス美術館 発 行 日:2023年3月4日

関連プログラム

アーティストトーク「7人の作家と7つの世界」

日 時:2023年3月4日(土)10:30~

会 場:2階ロビー

出 演: 今井瑠衣子、植村宏木、木下結衣、小林千紗、高橋まき子、 竹岡健輔、津守秀憲(出品作家)

※美術館公式YouTubeチャンネルにて配信

(URL: https://youtube.com/watch?v=d7rhNzQ66T0)

おとなの美術部「装うガラス」

日 時:2023年5月21日(日)13:30~16:00

会 場:会議室1、2

講師:木下結衣(出品作家)

学芸員による見どころトーク

日 時:2023年3月26日(日)、4月16日(日)、30日(日)、5月7日(日)、 6月3日(土)、17日(土)(各回14:00~)

会 場:展示室1-3

Other Worlds: Realms of Wonder and Reality

Exhibition

Period: March 4 - June 18, 2023 Venue: Exhibition Rooms 1-3

Organized by Toyama Glass Art Museum Supported by THE KITANIPPON SHIMBUN, THE TOYAMA SHIMBUN,

Kitanihon Broadcasting Co., Ltd.,

TOYAMA TELEVISION BROADCASTING CO., LTD.,

TULIP-TV INC.

Curators: WATABE Nayuko, YONEDA Yuika

Graphic Design: ITO Hisae (CROSS Inc.)

Transportation and Installation: NIPPON EXPRESS CO., LTD. HOKURIKU

EAST BRANCH

Construction: I-LUCK Enterprise Co., Ltd. Admission: General Public ¥1,000 (¥800),

University and College Students ¥800 (¥600) Advance tickets: General Public ¥800 Groups of 20 or more: price in brackets High school students and younger: free

Artists

IMAI Ruiko, UEMURA Hiroki, KINOSHITA Yui, KOBAYASHI Chisa, TAKAHASHI Makiko, TAKEOKA Kensuke, TSUMORI Hidenori

Catalog

Other Worlds: Realms of Wonder and Reality

25.7×18.3cm 108p ¥1,600

Published by Toyama Glass Art Museum Date of publication: March 4, 2023

Related Programs

Artist Talk: Seven Artists and Their Worlds of Wonder

Date & time: March 4, 2023 10:30-

Venue: 2F Lobby

Artist: IMAI Ruiko, UEMURA Hiroki, KINOSHITA Yui, KOBAYASHI Chisa, TAKAHASHI Makiko, TAKEOKA Kensuke, TSUMORI Hidenori

*The talk was livestreamed on Museum's official YouTube channel (URL: https://:youtube.com/watch?v=d7rhNzQ66T0)

Grown-ups' Art Club"Glass as Dress"

Date & time: May 21, 2023 13:30-16:00

Venue: Conference Room 1,2 Lecturer: KINOSHITA Yui (Artist)

Curator's Talk

Date & time: March 26, April 16, 30, May 7, June 3, 17, 2023, 14:00-Venue: Exhibition Rooms 1-3

作品リスト List of Works

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ベージ Page No.
	1:未知の表情と出会う E 輔 TAKEOKA Kensuke	ncountering Unknown	Expressions			
ГК-1	Basket #7	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	29 × 15 × 15	作家蔵 Collection of the artist	
ГК-2	Basket #3	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	32 × 14 × 13	作家蔵 Collection of the artist	
ΓK-3	Basket #10	2022	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	25 × 20 × 10	作家蔵 Collection of the artist	
ГК-4	Transition '21-19	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク、 サンドプラスト Glass / Hot-worked, kiln-worked, sandblast	20 × 45 × 17	作家蔵 Collection of the artist	
ГК-5	Transition '21-23	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク、 サンドブラスト Glass / Hot-worked, kiln-worked, sandblast	50 × 15 × 15	作家蔵 Collection of the artist	
ГК-6	おりなす '21-1 Orinasu '21-1	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	20 × 54 × 26	作家蔵 Collection of the artist	
ГК-7	Transition '22-6	2022	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	35 × 80 × 40	作家蔵 Collection of the artist	p.6 (上
ГК-8	線跡 '21 Line Transition '21	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	50 × 60 × 35 50 × 60 × 40	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	p.6 (上
⁻ K-9	Transition-446	2021	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	55 × 60 × 45	作家蔵 Collection of the artist	p.6(上
K-10	おりなす '22-1 Orinasu '22-1	2022	ガラス / ホットワーク、キルンワーク Glass / Hot-worked, kiln-worked	25 × 73 × 40 33 × 50 × 55	作家蔵 Collection of the artist	p.6(上
聿守秀	憲 TSUMORI Hidenori					
ГН-1	胎動 '16-2 Oscillation '16-2	2016	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	21 × 36 × 20	作家蔵 Collection of the artist	
ГН-2	胎動 '18-2 Oscillation '18-2	2018	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	14 × 33 × 23.5	作家蔵 Collection of the artist	
ГН-3	胎動 '17-4 Oscillation '17-4	2017	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	30.5 × 78 × 32	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
¯H-4	胎動 '16-9 Oscillation '16-9	2016	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	22 × 48 × 42	作家蔵 Collection of the artist	p.6(下
¯H-5	胎動 '19-6 Oscillation '19-6	2019	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	34 × 54 × 24	作家蔵 Collection of the artist	p.6(下
¯H-6	胎動 '19-4 Oscillation '19-4	2019	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	28 × 54 × 22	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	p.6(下
⁻ H-7	胎動 '22-2 Oscillation '22-2	2022	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	52 × 53 × 24	作家蔵 Collection of the artist	p.6(下
ГН-8	胎動 '21-4 Oscillation '21-4	2021	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	33 × 43 × 23	作家蔵 Collection of the artist	p.6(下
ГН-9	胎動 '20-4 Oscillation '20-4	2020	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	37 × 31 × 25	作家蔵 Collection of the artist	
ГН-10	胎動 '21-3 Oscillation '21-3	2021	ガラス、土 / 混合焼成、キルンワーク Glass, clay / Mixed firing, kiln-worked	37.5 × 42.5 × 18	作家蔵 Collection of the artist	
World 今井瑠		Place for Intersecting	g Sensations			
R-1a	Reminiscence <patchwork i<="" td="" tote=""><td>pag> 2018</td><td>ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked</td><td>38 × 32 × 24</td><td>作家蔵 Collection of the artist</td><td>p.7 (上</td></patchwork>	pag> 2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	38 × 32 × 24	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上
R-1b	Reminiscence <sandal></sandal>	2016	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	6.5 × 11 × 27 (1 点あたり / Per each)	作家蔵 Collection of the artist	p.7 (上

37

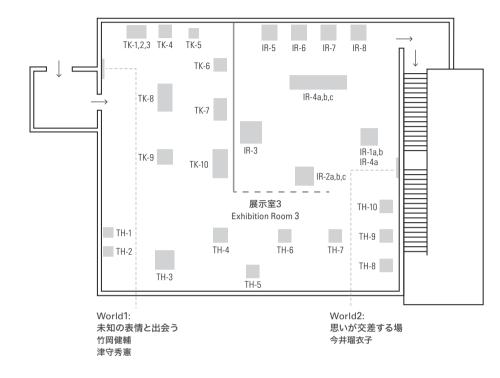
作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ページ Page No.
IR-2a	Reminiscence boston bag>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	42 × 53 × 16	作家蔵 Collection of the artist	p.7(上)
IR-2b	Reminiscence <baseball cap=""></baseball>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	11 × 14 × 26.5	作家蔵 Collection of the artist	p.7(上)
IR-2c	Reminiscence <boots></boots>	2016	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	14.5 × 9 × 26 (右/Right) 14 × 10 × 27 (左/Left)	作家蔵 Collection of the artist	p.7(上)
IR-3	Reminiscence <protector for="" kendo=""></protector>	2019	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	面 / Men (Mask) 32 × 64 × 42 胴 / Do (Breastplate) 42.5 × 44.5 × 23 小手 / Kote (Gauntlet) 11.5 × 15.5 × 29.5 10 × 13.5 × 30	作家藏 Collection of the artist	p.7(上)
IR-4a	Reminiscence	2016-	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	可変 Dimensions variable	作家蔵 Collection of the artist	p.7
IR-4b	Reminiscence <tote bag=""></tote>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	25 × 24 × 18	作家蔵 Collection of the artist	p.7(下)
IR-4c	Reminiscence <sewing box=""></sewing>	2018	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	5 × 21 × 16	作家蔵 Collection of the artist	
IR-5	体温の肖像 Silhouettes of Warmth	2020	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	55 × 56 × 29	作家蔵 Collection of the artist	p.7(上)
IR-6	体温の肖像 Silhouettes of Warmth	2022	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	55 × 37 × 32.5	作家蔵 Collection of the artist	p.7(上)
IR-7	体温の肖像 Silhouettes of Warmth	2022	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	45 × 57 × 33	作家蔵 Collection of the artist	p.7(上)
IR-8	体温の肖像 Silhouettes of Warmth	2022	ガラス、真鍮網 / キルンワーク Glass, brass / Kiln-worked	72 × 57 × 38	作家蔵 Collection of the artist	p.7(上)
World	3:生きるということ What It M	eans to Live				
木下結	衣 KINOSHITA Yui					
KY-1	蘇生 Resuscitation	2020	ソフトガラス、ガラスピーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	29 × 50.5 × 60	樂翠亭美術館 Rakusui-tei Museum of Art	p.8(上)
KY-2	蘇生 II Resuscitation II	2021	ソフトガラス、ガラスピーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	13 × 36 × 28	作家蔵 Collection of the artist	p.8(上)
KY-3	蘇生 III Resuscitation III	2021	ソフトガラス、ガラスピーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	5 × 14 × 22	作家蔵 Collection of the artist	p.8(上)
KY-4	蘇生IV Resuscitation IV	2021	ソフトガラス、ガラスピーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	7 × 14 × 22	作家蔵 Collection of the artist	p.8(上)
KY-5	蘇生 V Resuscitation V	2021	ソフトガラス、ガラスピーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	4 × 11 × 13	作家蔵 Collection of the artist	p.8(上)
KY-6	転生 Reincarnation	2020	ソフトガラス、ガラスピーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt / Lampworking, embroidery	4 × 22 × 32	作家蔵 Collection of the artist	

作品番号	作品名	制作年	素材・技法	作品サイズ (H × W × D) (cm)	所蔵先	ページ
No. KY-7	Title Folklore	Year of Production 2021	Material & Technique ソフトガラス、ガラスビーズ、マザーオブパール、合成オパール、針金、フェルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	Dimensions (㎝) 約3×5×8 (1 点あたり) approx.3×5×8 (Per each)	作家蔵 Collection of the artist	Page No. p.8(上)
KY-8	浸潤 Permeation	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、額縁 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, frame / Lampworking, embroidery	3.5 × 26 × 31	作家蔵 Collection of the artist	p.8
KY-9	たゆたう Wavering	2021	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、布 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, cloth / Lampworking, embroidery	3.5 × 22 × 32	作家蔵 Collection of the artist	p.8
KY-10	よるのさら Moonlight Path on the Night Sea	2022	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮、糸 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather, thread / Lampworking, embroidery	7 × 25 × 75	作家蔵 Collection of the artist	p.8
KY-11	解放 Release	2020	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather / Lampworking, embroidery	4 × 19 × 35	作家蔵 Collection of the artist	p.8(上)
KY-12	Overflow	2020	ソフトガラス、ガラスビーズ、淡水パール、真鍮、合皮 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, freshwater pearl, brass, artificial leather / Lampworking, embroidery	2 × 16 × 25	作家蔵 Collection of the artist	p.8(上)
KY-13	Join	2022	ソフトガラス、ガラスビーズ、マザー オブパール、合成オパール、針金、フェ ルト、合皮、糸 / ランプワーク、刺繍 Soft glass, glass beads, mother of pearl, synthetic opal, wire, felt, artificial leather, thread / Lampworking, embroidery		作家蔵 Collection of the artist	p.8(上)
小林千	♥ KOBAYASHI Chisa					
KC-1	しろの くろの かたち 2021-8 The Form of Black; The Form of White 2021-8	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	40 × 140 × 36	作家蔵 Collection of the artist	p.9 p.11 (下)
KC-2	しろの くろの かたち 2021-2 The Form of Black; The Form of White 2021-2	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	128 × 260 × 85	作家蔵 Collection of the artist	p.9
KC-3	しろの くろの かたち 2021-16 The Form of Black; The Form of White 2021-16	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	37 × 74 × 37	作家蔵 Collection of the artist	p.9
KC-4	呼吸するかたち 08 A Form of Breathing 08	2022	紙、パネル、アクリルガッシュ、水性 インク / ドローイング Paper, panel, ACRYL GOUACHE, water- based ink / Drawing	73 × 51.7 × 2	作家蔵 Collection of the artist	p.9(上)
KC-5	並ぶ呼吸 Breath Next to Breath	2022	和紙、アクリル絵の具 / ドローイング Japanese paper, acrylic paint / Drawing	36.5 × 51.5 × 2.5	作家蔵 Collection of the artist	p.9(上)
KC-6	分かつ呼吸 Sharing Breath	2022	和紙、アクリル絵の具 / ドローイング Japanese paper, acrylic paint / Drawing	60 × 90 × 2.5	作家蔵 Collection of the artist	p.9(上)
KC-7	あることについて 02 Thinking about, 02	2020	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	46 × 85 × 36	作家蔵 Collection of the artist	p.9(上)

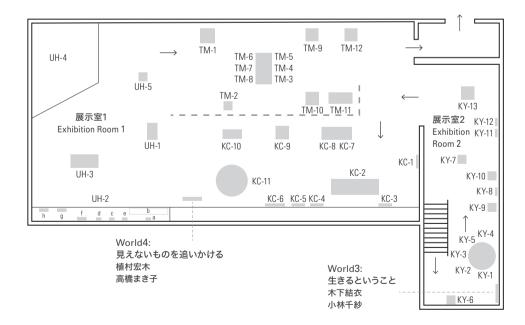
作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ページ Page No.
KC-8	あることについて 01 Thinking about, 01	2020	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	62 × 85 × 35	作家蔵 Collection of the artist	p.9(上)
KC-9	しろの くろの かたち 2021-13 The Form of Black; The Form of White 2021-13	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	67 × 25 × 19	作家蔵 Collection of the artist	p.9(上)
KC-10	しろの くろの かたち 2021-15 The Form of Black; The Form of White 2021-15	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	33 × 48 × 38	作家蔵 Collection of the artist	p.9(上)
KC-11	しろの くろの かたち 2021-1 The Form of Black; The Form of White 2021-1	2021	ガラス、典具帖紙、アクリル樹脂、 アクリルガッシュ / 宙吹き Glass, Japanese paper, acrylic resin, ACRYL GOUACHE / Blown	175 × 75 × 61	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	p.9(上)
	4:見えないものを追いかける Ir 木 UEMURA Hiroki	Search of the	e Invisible			
UH-1	知覚のはかり Scale of Perception	2021	ガラス、木 / ミクストメディア、エングレーヴィング Glass, wood / Mixed media, engraved	35 × 70 × 10	作家蔵 Collection of the artist	p.10(上)
UH-2a	景色を掬う - 境 Scooping up Scenery - Sakai	2022	榎、ガラス、真鍮、セメント / ホット ワーク、エングレーヴィング Nettle tree, glass, brass, cement / Hot- worked, engraved	14 × 8 × 8	作家蔵 Collection of the artist	
UH-2b	景色を掬う - 神済 Scooping up Scenery - Kan no Watari	2022	石、ガラス / ホットワーク、エングレー ヴィング Stone, glass / Hot-worked, engraved	可変 Dimensions variable	作家蔵 Collection of the artist	
UH-2c	景色を掬う - オヤマ Scooping up Scenery - Oyama	2022	薬瓶、雄山の空気、杉、銅、絹糸、ワックス Medicine bottle, air of Oyama, Japanese cedar, copper, silk thread, wax	11 × 5 × 5	作家蔵 Collection of the artist	
UH-2d	景色を掬う - タチヤマ Scooping up Scenery -Tachiyama	2022	杉、ガラス / ホットワーク、エングレー ヴィング Japanese cedar, glass / Hot-worked, engraved	30 × 30 × 10	作家蔵 Collection of the artist	p.10(上)
UH-2e	景色を掬う - タチオ Scooping up Scenery -Tachio	2022	木、ガラス / ホットワーク、エングレー ヴィング Wood, glass / Hot-worked, engraved	100 × 10 × 10	作家蔵 Collection of the artist	
UH-2f	景色を掬う - 八尾 Scooping up Scenery -Yatsuo	2022	ガラス、絹糸 / ホットワーク Glass, silk thread / Hot-worked	可変 Dimensions variable	作家蔵 Collection of the artist	p.10(上)
UH-2g	景色を掬う - 三ケの路 Scooping up Scenery - Sanga no Michi	2022	榎、杉、ガラス、銅、セメント / ホットワーク、エングレーヴィング Nettle tree, Japanese cedar, glass, copper, cement / Hot-worked, engraved	5 × 20 × 12	作家蔵 Collection of the artist	p.10(上)
UH-2h	景色を掬う - 大境 Scooping up Scenery - Ozakai	2022	貝、鏡 Shell, mirror	8 × 50 × 50	作家蔵 Collection of the artist	p.10(上)
UH-3	知覚のはかり Scale of Perception	2021	ガラス、木、石 / ミクストメディア、 エングレーヴィング Glass, wood, stone / Mixed media, engraved	90 × 140 × 10	作家蔵 Collection of the artist	p.10(上)
UH-4	呼吸を追う Tracing the Breath	2021-2022	ガラス / ホットワーク、コールドワーク、エングレーヴィング、接着 Glass / Hot-worked, cold-worked, engraved, glued	可変 Dimensions variable	作家蔵 Collection of the artist	p.10(下)
UH-5	心象形 Form of Mind	2019	ガラス / ホットワーク、エングレー ヴィング Glass / Hot-worked, engraved	20 × 15 × 16	作家蔵 Collection of the artist	p.10(下)
高橋ま	き子 TAKAHASHI Makiko					
TM-1	歓喜の翼 Wings of Delight	2018	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, steel, polymer clay	33 × 24 × 24 33 × 24 × 24	個人蔵(木村友和氏) Collection of KIMURA Tomokazu	p.10(下)
TM-2	チキチキのカミサマ God of Chitty Chitty	2021	ガラス、鉄、スプロケット、樹脂粘土 /パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, iron, sprocket, polymer clay / Pâte de verre, paint	13 × 20 × 20	作家蔵 Collection of the artist	p.10(下)

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 Collection	ページ Page No.
TM-3	白昼夢の入り口 Portal of Daydream	2022	ガラス、樹脂粘土 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, polymer clay / Pâte de verre, paint	10 × 20 × 21	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-4	桃尻エンジェル Pink Tush Angel	2019	ガラス、鉄、樹脂粘土 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, iron, polymer clay / Pâte de verre, paint	17.5 × 22 × 15	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-5	知性の鳥とノーテンキな獣 Intelligent Bird and Carefree Beast	2022	ガラス、鉄、樹脂粘土 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, iron, polymer clay / Pate de verre, paint	13 × 16 × 21	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-6	悪魔の鎧を着た神様 God in Devil's Armor	2014	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, iron, polymer clay	27 × 15 × 23	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-7	あ・うん A-un	2014	ガラス、樹脂粘土、鉄、スパッタリン グミラー、グリセリン Glass, polymer clay, iron, sputtering mirror, glycerin	23 × 27 × 16 21 × 24 × 16	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)
TM-8	銀河をホオバル獣 The Beast that Swallows Galaxies	2014	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, iron, polymer clay	28 × 18 × 29	作家蔵 Collection of the artist	p.11(上)
TM-9	静かな気配 Sign of Calm	2020	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, steel, polymer clay	40 × 58 × 28	個人蔵(木村友和氏) Collection of KIMURA Tomokazu	p.11(上)
TM-10	まどろみの独り歩き Going Alone of Doze	2017	ガラス、コンクリート、鉄、樹脂粘土 Glass, concrete, steel, polymer clay	28 × 27 × 10	個人蔵(木村友和氏) Collection of KIMURA Tomokazu	p.11(下)
TM-11	気配の共有 Share the Sign	2020	ガラス、樹脂粘土、木 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, polymer clay, wood / Pâte de verre, paint	53 × 71 × 20	作家蔵 Collection of the artist	p.11(下)
TM-12	創造の翼 Wings of Creation	2019	ガラス、樹脂粘土、木、鉄 / パート・ド・ヴェール、着彩 Glass, polymer clay, wood, iron / Pâte de verre, paint	40 × 43 × 45	作家蔵 Collection of the artist	p.11 (上)





2F



The Origins of Japanese Modern Glass

日本のガラス芸術の近現代を見诵すために

「日本近現代ガラスの源流」展は、日本のガラス芸術が近代から現代へと向かう流れを追い、その中で行われた幅広い創造活動を紹介すべく開催した展覧会である。本展覧会を企画する上でまず検討したのは、どのように各時代、各時期の変化や流れを整理していくことが可能かということであった。なお、これまでにも近現代を含む日本のガラス芸術史の流れを取り上げた展覧会は国内で複数回開催されている。主な展覧会は次の通りである。

- ・1974年「日本のガラス展-古代から現代まで」神奈川県立近代美術館 ・1982年「近代日本のガラス工芸-明治初期から現代まで-」東京国立 近代美術館
- ・1986年「日本のガラス300年-江戸から現代-」サントリー美術館
- ・1999年「日本のガラス2000年-弥生から現代まで」サントリー美術館

上記の展覧会において、洋式ガラス製法が導入され、日本のガラス製造が大きな転換期を迎える明治期を一つの区切りと捉えることについては共通していた。しかし現代については当然ながら各展覧会の開催時までを取り上げており、「近現代」として紹介される内容は開催年代を追うごとに拡張していっている。2023年において、改めて「近現代」を取り上げる上で、各時期の特徴をより明解に整理し展示において提示すること、そしてこれまでの展覧会で取り上げられてこなかった側面にも目を向けることを念頭に内容を検討した。

また今回の展覧会では当館の活動の軸である「現代」のガラス表現へ至る「源流」の部分に焦点を当てることを重視した。そこで、現在までの日本のガラス制作の動向を振り返った時、1970年代後半に明治以来のもう一つの大きな転換期を見ることができると考えた。1970年代後半には多摩美術大学において日本の高等教育機関で初のガラスコースが設立され(1976年)、京都で開催された第8回世界クラフト会議(1978年)において、「スタジオグラス」を始めとする海外のガラス制作の動向が紹介された。以降、国内ではガラス教育機関の設立と国際交流が進み、自らの手で自身の作品制作を行う作家が増加していくのである。

日本のガラスが近代化の道を歩み始める明治期から、二つ目の転換期を迎える前の1975年頃までについては、作家の影響関係や企業主体で行われるというガラスの制作体制を踏まえると、一続きの流れの中で捉えられる。そして1970年代後半より、自らの手で作品制作を行う動きが活発となっていく状況は、現在と地続きの流れとして考えることができる。よって、今回の展覧会では明治期から1975年頃までの動向を取り上げながら、各時期に活動を開始した作家達の作品を紹介することとした。

展覧会は5章で構成した。第1章では、日本の近代ガラス産業の黎明期に関わる作家達が手掛けた作品や、洋式ガラス製法の普及とともに生産された華やかな氷コップや醤油差しなどのガラス製品を展示した。第2章では本格的に芸術としてのガラス制作に取り組んだ先駆的な作家として、岩田藤七、各務鑛三の2人を取り上げた。第3章では各務の創

業した各務クリスタル製作所が優れた作家を数多く輩出したことや、同時期に岩城硝子でも独自の方向性でガラス作品の制作が行われていたことを紹介した。

第4章からは戦後の動きとして、ガラス会社のデザイナー達が国内のデザイン振興に関わりながら、プロダクトデザインとアートピースの両方を手掛けていたことを取り上げた。第5章では、工場と職人を借りる「壺借り」による方法をとった作家達と、民藝に関わりながら自らの窯を作り、自身の手で制作を行い始めた作家達の両方を取り上げ、企業に所属せずに個人でガラス制作を行うという、70年代後半以降に拡大していく動きの萌芽が現れ始めたことを紹介した。

展示においては、スケッチ、雑誌、製品カタログなど出品作家や作品に関係する資料類の充実も図り、現物の展示が難しい場合は画像をパネルで展示した。また1930年代から1970年代に活躍した作家には企業所属のデザイナーが多く存在したが、ガラス芸術史を取り上げたこれまでの展覧会においては一品制作の作品が中心的に紹介されてきた。そこで今回は企業デザイナー達のプロダクトデザインも積極的に取り上げ、一品制作の作品と共に展示した。

各時代の動向を整理すると、ガラスに関わる人々が時に所属企業や世代を超えて相互に接点を持つことで、日本のガラス芸術の歴史が脈々と紡がれてきたということが明らかとなった。また本展で取り上げた作品は、まだ先人の少ない時代に作家達がガラスという素材や制作方法について独自に研究を重ね、試行錯誤する中で生み出したものである。作品の中には硬質な美しさを湛えるものもあれば、柔らかく豊かな表情を見せるものもあり、それぞれが捉えたガラスの性質や魅力がダイレクトに伝わってくるようであった。

(中島春香)



展示風景 Installation view

A panoramic view of modern and contemporary Japanese glass art

The Origins of Japanese Modern Glass aimed to trace developments in Japanese glass art from the modern era to the contemporary and to introduce the wide-ranging creative activities undertaken during these periods. In planning this exhibition, the first thing we considered was how to summarize the changes and currents that occurred in each era and each period. Previously, a number of exhibitions had dealt with the various currents in the history of Japanese glass art, including the modern and contemporary eras. The major ones are as follows:

1974: Glass in Japan: From Ancient to Contemporary, The Museum of Modern Art. Kamakura

1982: *Modern Japanese Glass—Early Meiji to Present*—, The National Museum of Modern Art, Tokyo

1986: 300 years of Japanese Glass: Edo to the Present Day, Suntory Museum of Art

1999: 2000 Years of Japanese Glass: From the Yayoi Period to the Present Day. Suntory Museum of Art

Common to all of these exhibitions is that they treated the Meiji Period, in which glassmaking in Japan reached an important turning point as a result of the introduction of Western glassmaking techniques, as a milestone. As for the present day, however, because each exhibition naturally covered developments up to the time it was held, as the years passed the content introduced as "modern and contemporary" expanded. In 2023, when it came to focusing anew on the "modern and contemporary," in considering the show's content, we kept in mind both summarizing and showing more clearly through the exhibits the characteristics of each era, and paying attention to aspects that had not been dealt with in previous exhibitions.

We also attached importance to focusing on the "origins" leading up to the "contemporary" glass art that is the focal point of the Toyama Glass Art Museum's activities. In this regard, when looking back at the tendencies in Japanese glassmaking up to the present, we thought that one could see in the late 1970s another important turning point following on from the Meiji Period. It was in the late 1970s that at Tama Art University the first glassmaking course was established at a Japanese institution of higher education (1976), and that "studio glass" and other overseas glassmaking tendencies were introduced at the 8th World Crafts Council held in Kyoto (1978). After this, strides were made in the establishment of glass educational institutions in Japan and in international exchanges, and the number of artists making works with their own hands increased.

Regarding the era from the Meiji Period, when Japanese glassmaking set out on the path to modernization, to around 1975, or prior to reaching the second turning point, based on the way artists influenced each other and the fact that the production of glass art was centered on corporations, one can understand it in the context of a continuous current. One can also think of the situation from the late 1970s onwards, in which the trend towards artists making works with their own hands gathered pace, as a current contiguous with the present. Accordingly, in this exhibition, we decided to focus on the

tendencies from the Meiji Period to around 1975, introducing works by artists who launched their careers in each period

The exhibition consisted of five chapters. Chapter 1 featured works by artists involved in the dawning of the Japanese modern glass industry presented alongside colorful shaved-ice bowls, soy sauce cruets and other glass products that were developed concurrently with the spread of Western glass production techniques. Chapter 2 focused on IWATA Toshichi and KAGAMI Kozo as two trailblazing artists who approached glassmaking in earnest as an art form. Chapter 3 outlined how Kagami Crystal Works founded by Kagami Kozo produced many fine artists and how at around the same time Iwaki Glass Co., Ltd. also produced glass products while moving in a different direction.

Chapter 4 concentrated on postwar developments in glass art, and in particular how designers at glass companies involved themselves in both product design and the creation of artistic works while contributing to the advancement of design within Japan. Chapter 5 introduced both artists who employed the *tsubogari* system, which involved hiring studios and craftspeople for fixed periods of time, and artists involved in the Mingei movement who established their own furnaces and adopted a more hands-on approach, showing how the early signs of the trend that spread in the late 1970s of glassmaking by individuals who did not belong to glass companies began to emerge.

An effort was made to include as much material as possible related to the included artists and works, such as sketches, magazines and product catalogues, and where displaying the actual items was difficult, images of them were presented on panels. As well, while many of the artists who were active from the 1930s to 1970s were designers employed by glass companies, until now exhibitions dealing with the history of glass art have concentrated on introducing one-off works. At this exhibition, we made a point of introducing product designs by these company designers, presenting them together with their one-off works.

By summarizing the tendencies in each period, and showing how those involved in glassmaking occasionally had mutual connections beyond their own companies and generations, the exhibition made clear how the history of Japanese glass art has unfolded as a continuous narrative. As well, the works featured in the show were produced against a backdrop of trial and error and ongoing original research into glass as a material and its production methods by artists at a time when there were still only a small number of predecessors. Some of the works are possessed of a hard beauty, while others exhibit soft, rich expression, but they all communicate directly the qualities and appeal of glass as perceived by the artists concerned.

(NAKASHIMA Haruka, translated by Pamela MIKI)

 \overline{a}

日本近現代ガラスの源流

展覧会

会 期:2023年7月8日(土)~10月9日(月・祝)

会 場:展示室1-3

主 催:富山市ガラス美術館

後 援:北日本新聞社、富山新聞社、NHK富山放送局、北日本放送、

富山テレビ放送、チューリップテレビ

担 当:中島春香

広報物デザイン: 宮田裕美詠 (ストライド)

カタログ・会場グラフィックデザイン:彼谷雅光(有限会社ナチュラル・デザインスタジオ)

輸送展示:カトーレック株式会社会場施工:株式会社宝来社照 明:美術照明サムサラ

観 覧 料:一般1,200円 (1,000円)、大学生1,000円 (800円)

前売券1,000円(一般のみ) ※() は団体料金 ※高校生以下無料

出品作品・作家

岩城滝次郎、小林菊一郎、岡本一太郎、明治〜昭和初期の氷コップ・醤油差し等、松浦玉圃、岩田藤七、各務鑛三、明道長次郎、高木茂、降旗正男、淡島(小畑)雅吉、佐藤潤四郎、青野武市、各務満、各務クリスタル製作所、岩城硝子工藝部、小川雄平、小柴外一、吉田丈夫、佐々文夫、竹内傳治、佐々木硝子株式会社、株式会社保谷硝子、船越三郎、菅澤利雄、岩田久利、岩田糸子、岩田工芸ガラス株式会社、藤田喬平、益田芳徳、小谷眞三、舩木倭帆、他

(展示導線順、会社名は展示作品・資料の制作当時)

カタログ

『日本近現代ガラスの源流』

発 行 日: 2023年7月8日

25.7×18.5cm 192頁 2,000円 発 行:富山市ガラス美術館

関連プログラム

記念講演会「品川硝子と近代日本のガラス工芸」

日 時:2023年8月5日(土)14:00~15:00

会 場:2階ロビー

講 師:井上曉子(ガラス工芸史家)

ライブラリー&ミュージアムコンサート

~ヴァイオリンとピアノで奏でる~ヨーロッパと日本を繋ぐメロディ

日 時:2023年8月5日(土)15:15~ 会 場:2階ロビー

出 演:渋谷優花 (ヴァイオリン)、笠間千絵 (ピアノ)

ワークショップ「モデリングパートドヴェール体験―ガラスで塑像(そぞう)をしよう!」

日 時:2023年9月3日(土)①10:00~ ②14:00~

会 場:会議室1、2

講師:勝川夏樹(ガラス造形作家)

対 象:小学3年生以上

学芸員によるギャラリートーク

日 時: 2023年7月22日(土)、8月19日(土)、9月16日(土)、10月7日(土) 14:00~

場:展示室1-3

The Origins of Japanese Modern Glass

Exhibition

Period: July 8 - October 9, 2023

Venue: Exhibition Rooms 1-3

Organized by Toyama Glass Art Museum

Officially Supported by THE KITANIPPON SHIMBUN,

THE TOYAMA SHIMBUN,

Japan Broadcasting Corporation Toyama Station,

Kitanihon Broadcasting Co., Ltd.,

TOYAMA TELEVISION BROADCASTING CO., LTD.,

TULIP-TV INC.

Curator: NAKASHIMA Haruka

Graphic Design of Public Relations Materials: MIYATA Yumiyo (STRIDE)

Catalog & Graphic Design of Exhibition Room: KAYA Masamitsu (Natural Design Studio)

Transportation and Installation: Katolec Corporation

Construction: HORAISYA CO., LTD. Lighting of Exhibition Room: SAMSARA

Admissinon: General Public ¥1,200 (¥1,000),

University and College Students ¥1,000 (¥800)

Advance tickets: General Public ¥1,000 Groups of 20 or more: price in brackets

High school students and younger: free

Works/ Artists

IWAKI Takijiro, KOBAYASHI Kikuichiro, OKAMOTO Ichitaro, Shaved Ice Cup, Soy Sauce Cruet, etc. in Meiji-early Showa period (1868-1945), MATSUURA Gyokuho, IWATA Toshichi, KAGAMI Kozo, MYODO Chojiro, TAKAGI Shigeru, FURIHATA Masao, AWASHIMA Masakichi (OBATA Masakichi), SATO Junshiro, AONO Takeichi, KAGAMI Mitsuru, Kagami Crystal Works, Iwaki Glass Crafts Department, OGAWA Yuhei, KOSHIBA Sotoichi, YOSHIDA Takeo, SASSA Fumio, TAKEUCHI Denji, Sasaki Glass Co., Ltd., HOYA Corporation, FUNAKOSHI Saburo, SUGASAWA Toshio, IWATA Hisatoshi, IWATA Itoko, Iwata Glass Co., Ltd., FUJITA Kyohei, MASUDA Yoshinori, KOTANI Shinzo, FUNAKI Shizuho etc.

(in the order of display; company name is at the time of production of the exhibited works)

Catalog

The Origins of Japanese Modern Glass 25.7×18.5cm 192p ¥2,000 Published by Toyama Glass Art Museum

Date of publication: July 8, 2023

Related Programs

Special Lecture: Shinagawa Glassworks and Modern Glass Art in Japan

Date & time: August 5, 2023 14:00-15:00

Venue: 2F Lobby

Lecturer: INOUE Akiko (Glass Art Historian)

Library & Museum Concert

Date & time: August 5, 2023 15:15-

Venue: 2F Lobby

Players: SHIBUYA Yuka (Violin), KASAMA Chie (Piano)

Workshop: Modeling Pâte de Verre Experience

Date & time: September 3, 2023 10:00-, 14:00-

Venue: 2F Conference room 1,2 Lecturer: KATSUKAWA Natsuki (Artist)

For 3rd graders and over

Curator's Tal

Date & time: July 22, August 19, September 16, October 7, 2023 14:00-

Venue: Exhibition Room 1-3

作品リスト List of Works

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (m) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
1.プロ	コローグ:近代化におけ	る日本のガラス Prologue: Ja	apanese glas	s during modernization			
1_1	岩城滝次郎 IWAKI Takijiro	金赤色被切子鉢 Cut Glass Bowl with Gold Red Overlay	1914	型吹き、カット mold blown and cut glass	8.0 × 18.4 × 18.4	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	p.12 (上
1_2	小林菊一郎 KOBAYASHI Kikuichiro	うろこ文切子大鉢 Cut Glass Bowl with Fish-scale Design	1963	吹きガラス、カット blown and cut glass	12.0 × 22.0 × 22.0	株式会社堀口切子 HORIGUCHI KIRIKO INC.	p.12 (上
1_3	小林菊一郎 KOBAYASHI Kikuichiro	うろこ文切子小鉢 Small Cut Glass Bowl with Fish-scale Design	1963	吹きガラス、カット blown and cut glass	5点 /5 pieces、 各 /each: 4.7 × 12.2 × 12.2	株式会社堀口切子 HORIGUCHI KIRIKO INC.	p.12 (上
1_4	岡本一太郎 OKAMOTO Ichitaro	カットガラス鉢 Cut Glass Bowl	1932	型吹き、カット mold blown and cut glass	9.6 × 21.0 × 21.0	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	p.12 (上
1_5	岡本一太郎 OKAMOTO Ichitaro	緑色被切子鉢 Cut Glass Bowl with Green Overlay	昭和初期 early Showa period (1926-1945)	型吹き、カット mold blown and cut glass	9.2 × 20.0 × 20.0	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	p.12(上
1_6	岡本一太郎 OKAMOTO Ichitaro	スモーク硝子酒瓶、グラス Smoke Glass Sake Bottle and Cup	1932	吹きガラス、平面カット blown and cut glass	酒瓶 /Bottle: 32.5 × 8.3 × 8.3 / ラス /Cup: 7.0 × 3.3 × 3.3	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	p.12 (上
1_7	岡本一太郎 (金属枠:宮 代健三) OKAMOTO Ichitaro (metal flame: MIYASHIRO Kenzo)	硝子吹込花瓶 Blown Glass Vase with Metal Flame	1952-1953	吹きガラス、金属枠 blown glass, metal frame	24.2 × 9.9	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	p.12(上
1_8		水玉文赤縁なつめ形氷コップ Footed Shaved Ice Cup with Polka Dots and Red rim	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	型吹き、あぶり出し mold blown glass, <i>aburidashi</i>	11.5 × 7.9 × 7.9	個人蔵 private collection	p.12(下
1_9		吹雪文なつめ形氷コップ Footed Shaved Ice Cup with Red Spots Design	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	宙吹き blown glass	11.5 × 7.8 × 7.8	個人蔵 private collection	p.12(下
1_10		しのぎ文乳白花縁碗形氷コップ Footed Shaved Ice Cup with Ridges design and Opalescent Scalloped Rim	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	プレス pressed glass	6.5 × 11.0 × 11.0	個人蔵 private collection	p.12(下
1_11		めだか文ラッパ形氷コップ Footed Shaved Ice Cup with Killifish Design	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	宙吹き、型吹き、ウランガラス(脚部) blown glass, foot: uranium glass	7.3 × 10.2 × 10.2	個人蔵 private collection	p.12(下
1_12		玉すだれ文赤乳白花緑碗形氷コップ Footed Shaved Ice Cup with Beaded Curtain Design and Red and Opalescent Scalloped Rim	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	型吹き mold blown glass	8.1 × 10.2 × 10.2	個人蔵 private collection	p.12(下
1_13		波千鳥文碗形氷コップ Footed Shaved Ice Cup with Wave and Plover Design	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	型吹き、あぶり出し mold blown glass, <i>aburidashi</i>	8.6 × 9.9 × 9.9	個人蔵 private collection	p.12(下
1_14		玉だれ文花縁碗形氷コップ Footed Shaved Ice Cup with Raindrop Design and Scalloped Rim	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	型吹き、あぶり出し mold blown glass, <i>aburidashi</i>	8.6 × 10.0 × 10.0	個人蔵 private collection	p.12(下
1_15		吹雪文紫縁鉢 Bowl with Spots Design and Purple Rim	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	宙吹き blown glass	4.1 × 9.8 × 9.8	個人蔵 private collection	p.12(下
1_16		吹雪文鉢 Bowl with Spots Design	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	宙吹き blown glass	4.5 × 10.4 × 10.4	個人蔵 private collection	p.12(下
1_17		色糸散らし文鉢 Bowl with Colored Lines Design	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	宙吹き blown glass	4.8 × 10.4 × 10.4	個人藏 private collection	p.12(下

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材 · 技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
1_18		千筋文赤乳白縁把手付アイスク リームコップ Sundae Glass with Handle, Stripe Design, Red and Opalescent Rim	明治 - 大正 Meiji-Taisho period (1868-1926)	宙吹き blown glass	7.5 × 6.8 × 6.8	個人藏 private collection	p.12(下)
1_19		赤縁ベル形アイスクリームコップ Sundae Glass with Red Rim	明治 - 大正 Meiji-Taisho period (1868-1926)	宙吹き blown glass	10.5 × 7.3 × 7.3	個人藏 private collection	p.12(下)
1_20		桜花文ソーダコップ Soda Drinking Glass with Cherry Blossom Design	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1945)	あぶり出し aburidashi	12.5 × 7.4 × 7.4	個人藏 private collection	p.12(下)
1_21		籠目文ソーダコップ Soda Drinking Glass with Basket Weave Pattern	大正 - 昭和初期 Taisho-early Showa period (1912-1946)	あぶり出し aburidashi	15.1 × 7.8 × 7.8	個人藏 private collection	p.12(下)
1_22		イカリソースのソース差し Sauce Cruet with the Mark of <i>Ikari</i> Sauce	昭和 Showa period (1926-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	14.9 × 6.9 × 6.9	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_23		三ツ矢ソースのソース差し Sauce Cruet with the Mark of <i>Mitsuya</i> Sauce	明治 - 昭和 Meiji-Showa period (1868-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	13.2 × 7.0 × 7.0	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_24		鳥形醬油差し Soy Sauce Cruet in the Shape of a Bird	大正 Taisho period (1912-1926)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	7.4 × 8.0	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_25		樽型醬油差し Soy Sauce Cruet in the Shape of Barrel	明治後期 - 昭 和初期 later Meiji- early showa period (1890-1945)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	11.0 × 8.0 × 8.0	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_26		樽型醬油差し Soy Sauce Cruet in the Shape of Barrel	明治後期 - 昭 和初期 later Meiji- early showa period (1890-1945)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	9.0 × 6.2 × 6.2	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_27		文化醬油差し Soy Sauce Cruet'Bunka'	大正 - 昭和 Taisho-Showa period (1912-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	10.8 × 5.9 × 5.9	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_28		富士山に五輪文醬油差し Soy Sauce Cruet with Mt. Fuji and the Olympic Symbol Design	1940 年頃力 possibly c.1940	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	8.2 × 6.5 × 6.5	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_29		飛行機文醬油差し Soy Sauce Cruet with Plane Design	大正 - 昭和 Taisho-Showa period (1912-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	11.1 × 7.9 × 7.9	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_30		菊花大会記念醬油差し Soy Sauce Cruet Commemorating Chrysanthemum Exhibition	昭和 Showa period (1926-1989)	プレス、型吹き mold pressed and mold blown glass	8.3 × 6.5 × 6.5	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_31		燕文醬油差し Soy Sauce Cruet with Swallow Design	大正 - 昭和 Taisho-Showa period (1912-1989)	プレス、型吹き、ウランガラス mold pressed and mold blown uranium glass	11.1 × 7.2 × 7.2	曽根加代蔵 collection of SONE Kayo	p.12(下)
1_32	松浦玉圃 MATSUURA Gyokuho	牡丹文デカンター、グラス Decanter and Stemmed Glasses with Peony Design	1896-1922	宙吹きガラス、エナメル彩 blown and enamel painted glass	グラス /Glass: 11.4 × 5.1 × 5.1、 11.2 × 5.1 × 5.1 デカンター / Decanter: 27.2 × 14.3 × 14.3	町田市立博物館 Machida City Museum	p.12(下)
資料 1_1	著:石井研堂(民司)、博文館 ISHII Kendo (ISHII Tamiji) , Hakubunkan	『少年工芸文庫 第六編 ガラスの巻』 Shonen Kogei Bunko [Youth Library of Crafts,] vol.6: Glass	1902	書籍 book		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料 1_2	千葉県教育庁文化課 Culture division of Chiba prefectural boad of education	「岩城滝次郎、岡本一太郎特集」『房 総の美術史』 第8号 "Feature issue: IwakiTakijiro and Okamoto Ichitaro" Boso no bijutsushi [Art history of Boso,] No.8	1983	紙、印刷 print on paper		AGC テクノグラス株 式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (m) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
2. 近現	代ガラス芸術の開拓者	:岩田藤七と各務鉱三 Pione	ers of mode	rn glass art: IWATA Toshichi and KAGA	AMI Kozo		
2_1	岩田藤七 IWATA Toshichi	吹込みルビー色硝子銀花生 Silver Vase with Ruby Blown Glass	1928	吹きガラス、銀 blown glass, silver	28.0 × 15.5 × 14.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス美 術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.13(上)
2_2	岩田藤七 IWATA Toshichi	吹き硝子花瓶 Flower vase of blown glass	1937	ガラス glass	28.8 × 32.5 × 14.7	東京藝術大学 Tokyo University of the Arts	
2_3	岩田藤七 IWATA Toshichi	花器 Vase	1960	吹きガラス blown glass	24.5 × 32.0 × 8.5	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	p.13(上)
2_4	岩田藤七 IWATA Toshichi	瓶 Bottle	1969	吹きガラス blown glass	23.1 × 17.7 × 6.6	町田市立博物館 Machida City Museum	p.13(上)
2_5	岩田藤七 IWATA Toshichi	三彩鉢 Tricolored bowl	1968	ガラス glass	16.2 × 29.4 × 29.4	東京藝術大学 Tokyo University of the Arts	
2_6	岩田藤七 IWATA Toshichi	花器 Vase	1960	吹きガラス blown glass	21.0 × 28.0 × 28.0	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	p.13(上)
2_7	岩田藤七 IWATA Toshichi	貝 Shell	1976	吹きガラス blown glass	15.0 × 36.0 × 23.0	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	
2_8	各務鑛三 KAGAMI Kozo	飾皿 銘 祈り Ornament Plate. Named <i>Inori</i> (Prayer)	1929	クリスタルガラス、グラヴィール crystal glass, engraving	4.6 × 26.3 × 26.3	岐阜県美術館 The Museum of Fine Arts, Gifu	p.13(下)
2_9	各務鑛三 KAGAMI Kozo	宝相華硝子花瓶 Vase with <i>Hosoge</i> Design	制作年不詳 Unknown	グラヴィール engraved glass	35.2 × 19.8 × 19.8	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.13(下)
2_10	各務鑛三 KAGAMI Kozo	人物模様硝子花瓶 Vase with Figure Design	制作年不詳 Unknown	グラヴィール engraved glass	30.0 × 20.0 × 10.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.13(下)
2_11	各務鑛三 KAGAMI Kozo	花器 Flower Vase	1947 年頃 c.1947	クリスタルガラス、カット、サンドブラスト crystal glass, cut, sandblasted	25.0 × 14.5 × 14.5	岐阜県美術館 The Museum of Fine Arts, Gifu	p.13(下)
2_12	各務鑛三 KAGAMI Kozo	花器 Vase	1954	宙吹き blown glass	22.3 × 17.0 × 17.2	カガミクリスタル株式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.13(下)
2_13	高木茂 TAKAGI Shigeru	碧 Blue	1983	カット、グラヴィール cut and engraved glass	20.0 × 14.0 × 14.0	カガミクリスタル株式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	
2_14	明道長次郎 MYODO Chojiro	草花文グラヴュール硝子鉢 Glass Bowl with Engraved Design of Grass and Flowers	1940	グラヴィール engraved glass	24.7 × 14.5 × 14.5	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
資料2_1	明道長次郎 MYODO Chojiro	スケッチブック Sketchbooks	1930 年代頃 c.1930s	紙に鉛筆、色鉛筆、墨、水彩、他 pencil, colored pencil, india ink, watercolor, etc. on paper		個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
資料 2_2	生駒時計店 G. IKOMA, LTD.	『GRAVUR.』小冊子 GRAVUR.	1932 年頃 c. 1932	紙、印刷 print on paper		個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材·技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (㎝) Dimensions (㎠)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
3. ガラ	ス作家の増加と戦時体	制下のガラス制作 The rise o	f glass artists	s and glassmaking under the wartime	regime		
3_1	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	鍛鉄硝子吹込花瓶 Glass vase blown into forged iron work	1940	ガラス、鉄、吹込み、鍛造 glass, iron, blowing, forging	33.1 × 26.8 × 26.8	国立工芸館 National Crafts Museum	p.14(上)
3_2	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	オリンピックブルー硝子皿 Olympic-Blue Glass Dish	1941 年頃 c.1941	ガラス、宙吹き glass, free blowing	7.7 × 27.8 × 27.8	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_3	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	鍛鉄吹込花器 Vase Blown in Hammered Iron Frame	制作年不詳 Unknown	ガラス、鉄、鍛鉄吹込、雲母封入 glass, blown into hammered iron frame, mica-pattern	24.6 × 18.4 × 18.4	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_4	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	鍛鉄吹込花器(グリーン) Vase Blown in Hammered Iron Frame (Green)	1986	鍛鉄吹込 glass, blown into hammered iron frame	29.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_5	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	花器・一寸考えて Vase, "After a Moment's Thought"	制作年不詳 Unknown	ガラス、宙吹き glass, blown	22.7 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_6	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	花器・何をしようか Vase, "What'll do?"	1986	ガラス、宙吹き glass, blown	25.0 × 13.7 × 13.7	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_7	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	花器(カットグラス) Vase (Cut Glass)	1986	ガラス、型吹き、エッチング、カット glass, mold blown, etching, cut	27.7 × 8.3 × 8.3	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_8	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	クリスタル六角鉢 Crystal Hexagonal Bowl	制作年不詳 Unknown	ガラス、宙吹き glass, blown	22.7 × 24.0 × 24.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.14(上)
3_9	降旗正男 FURIHATA Masao	梅花文花盛 Flower Basin with Plum Blossom Design	1940 年頃 c.1940	ガラス glass	13.3 × 36.0 × 14.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(下)
3_10	小畑(淡島)雅吉 OBATA Masakichi (AWASHIMA Masakichi)	鳥竹文様鉢 Bowl with Birds and Bamboo Design	1936-1942 年 頃 c.1936-1942	グラヴィール engraved glass	14.0 × 21.5 × 21.5	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(上)
3_11	各務満 KAGAMI Mitsuru	オブジェ「未来」 Object, "Future"	1954	型吹き、カット、クリスタルガラス mold blown and cut crystal glass	41.0 × 18.0 × 18.0	カガミクリスタル株 式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.14(上)
3_12	各務満 KAGAMI Mitsuru	オプジェ「胎動」 Object, "Fetal Movement"	1989	宙吹き、クリスタルガラス blown crystal glass	24.0 × 23.0 × 16.0	カガミクリスタル株 式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.14(上)
3_13	青野武市 AONO Takeichi	グラヴィール線文花器 Vase with Linear Design	1953	ガラス、グラヴィール engraved glass	28.3 × 13.2 × 10.3	町田市立博物館 Machida City Museum	p.14(上)
3_14	青野武市 AONO Takeichi	カット文クリスタル花器 Crystal Glass Vase with Geometric Patten	1966 年頃力 possibly c.1966	ガラス、カット、グラヴィール cut and engraved glass	33.8 × 19.2 × 15.0	町田市立博物館 Machida City Museum	
3_15	青野武市 AONO Takeichi	紫被牡丹文花器 Purple-Overlay Clear Glass Vase with Peony Design	1993	ガラス、グラヴィール engraved glass	24.4 × 15.2 × 12.7	町田市立博物館 Machida City Museum	
3_16	青野武市 AONO Takeichi	金赤被蔦文三段重 Red-Overlay Clear Glass Covered Three-Tiered Box with Ivy Design	1982	ガラス、サンドブラスト、グラヴィール sandblasted and engraved glass	23.3 × 13.6 × 13.6	町田市立博物館 Machida City Museum	
3_17	青野武市 AONO Takeichi	金赤被凌霄花三段重 Three tiers of boxes, great trumpet flower design in red	1995	ガラス、吹きガラス、被せガラス、グラヴィール glass, mold-blowing, overlay, engraving	24.2 × 13.8 × 13.8	国立工芸館 National Crafts Museum	
3_18	各務クリスタル製作所 Kagami Crystal Works	タンブラー(T37 スモーク) Tumbler (F37 smoke)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	各 /each: 10.8 × 6.4 × 6.4	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(下)

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材 · 技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (m) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
3_19	各務クリスタル製作所 Kagami Crystal Works	カップ&ソーサー(ブルー) Cup and Saucer (Blue)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	カップ /Cup: 約 /approx. 70 × 70 × 9.0 ソーサー /Saucer: 約 /approx. 1.9 × 13.0 × 13.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(下)
3_20	各務クリスタル製作所 Kagami Crystal Works	カップ&ソーサー Cup and Saucer	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	カップ /Cup: 約 /approx. 6.0 × 7.5 × 7.5 ソーサー /Saucer: 約 /approx. 2.0 × 13.0 × 13.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.14(下)
3_21	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「鉢」 Pâte de verre "Bowl"	1938 年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	8.2 × 18.4 × 18.4	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_22	岩城硝子工芸部(小川雄 平作) Iwaki Glass Crafts Department (OGAWA Yuhei)	パート・ド・ヴェール「七面鳥」 Påte de verre "Turkey"	1938 年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	13.8 × 15.8	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_23	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「鳩」 Påte de verre "Dove"	1938 年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	17.0 × 15.5 × 16.0	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_24	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「ほうぼう」 Pâte de verre "Gurnard"	1938 年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	4.5 × 34.5 × 12.2	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_25	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	パート・ド・ヴェール「犬」 Påte de verre "Dog"	1938 年頃 c.1938	バート・ド・ヴェール păte de verre	9.5 × 11.5 × 5.0	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_26	岩城硝子工芸部 Iwaki Glass Crafts Department	バート・ド・ヴェール「獅子」 Påte de verre "Lion"	1938 年頃 c.1938	パート・ド・ヴェール pâte de verre	10.5 × 27.0 × 8.0	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_27	岩城硝子株式会社、デザイン:小川雄平 lwaki Glass Co., Ltd., Design: OGAWA Yuhei	金魚 大皿 Goldfish Platter	1950 年代、 デザイン: 1939 年 1950s, design: 1939	型押し embossed	4.6 × 30.3 × 30.3	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_28	岩城硝子株式会社、デザイン:小柴外ー lwaki Glass Co., Ltd., Design: KOSHIBA Sotoichi	ばら 大皿 Rose Platter	1960 年代、 デザイン: 1930 年代頃 1960s, design: c.1930s	型押し embossed	6.0 × 30.5 × 30.5	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_29	岩城硝子株式会社、デザイン:小柴外ー lwaki Glass Co., Ltd., Design: KOSHIBA Sotoichi	ばら 花瓶 Rose Vase	1950 年代、 デザイン: 1930-1940 年 代頃 1950s, design: c.1930-1940s	型押し embossed	15.0 × 10.0 × 10.0	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_30	岩城硝子株式会社、デザイン:小柴外ー lwaki Glass Co., Ltd., Design: KOSHIBA Sotoichi	プラジル丸 O.S.K.LINE 灰皿 (エメロード) Brazil Maru O.S.K.LINE Ashtray (Emerald)	1940 年代 1940s	型押し embossed	2.3 × 19.5 × 9.0	A G C テクノグラス 株式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_31	岩城硝子株式会社 lwaki Glass Co., Ltd.	朝顔紋 小皿 Morning Glory Crest Small Dish	制作年不詳、 デザイン: 1930-1940 年 代頃 Unknown, design: c.1930-1940s	型押し embossed	各 /each: 3.7 × 14.7 × 14.7	A G C テクノグラス 株式会社 AGCTECHNO GLASS Co.,Ltd.	
3_32	岩城硝子株式会社 lwaki Glass Co., Ltd.	朝顔紋 小皿 Morning Glory Crest Small Dish	制作年不詳、 デザイン: 1930-1940 年 代頃 Unknown, design: c.1930-1940s	型押し embossed	3.7 × 14.7 × 14.7	個人蔵 private collection	

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材 · 技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (m) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ベージ Page No.
3_33	小川雄平 OGAWA Yuhei	雛 置物 Figurine, "Young Birds"	制作年不詳 Unknown	キャスト cast	8.5 × 11.0 × 8.0	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.15(上)
3_34	小柴外— KOSHIBA Sotoichi	あざみ花盛 Vase with Thistle Design	1937 年頃 c.1937	パート・ド・ヴェール pâte de verre	18.0 × 14.2 × 14.2	個人蔵 private collection (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.15(上)
3_35	小柴外— KOSHIBA Sotoichi	梅文電気スタンド笠 Lampshade with Plum Blossom Design	1962-1963	パート・ド・ヴェール pâte de verre	11.1 × 24.1 × 24.1	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	p.15(上)
3_36	小柴外一 KOSHIBA Sotoichi	置物·手 Figurine, "Hand"	制作年不詳 Unknown	パート・ド・ヴェール pâte de verre	4.4 × 21.1 × 8.5	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	
3_37	小柴外一 KOSHIBA Sotoichi	ばら文茶碗 Tea Bowl with Rose Design	1962-1963	バート・ド・ヴェール pâte de verre	6.5 × 11.3 × 11.3	岡本硝子株式会社 OKAMOTO GLASS Co.,Ltd.	
資料3_1	著:佐藤潤四郎、芸艸堂 SATO Junshiro, Unsodo	『ガラスの旅』 Garasu no tabi (Journey to glass)	1976	書籍 book		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料3_2	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	植物図 Botanical Drawing	制作年不詳 unknown	紙 paper		個人蔵 private collection	
資料3_3	佐藤潤四郎 SATO Junshiro	研究ノート Research Notebook	制作年不詳 unknown	紙 paper		個人藏 private collection	
資料3_4	岩城硝子株式会社 lwaki Glass Co., Ltd.	岩城硝子資料 Materials on Iwaki Glass	1930-1980 年 代頃 c.1930-1980s	紙、印刷 print on paper		AGC テクノグラス株 式会社 AGC TECHNO GLASS Co.,Ltd.	
4. 戦後	デザイン振興とガラス	・デザイナー The advancem	nent of design	n and glass designers in the postwar	era		
4_1	佐々文夫、株式会社 YAMAGIWA SASSA Fumio, YAMAGIWA Corporation	ランパス(333F278,279,280,281) 復刻品 LAMPAS (333F278,279,280,281)	デザイン: 1958 年、復 刻: 2018 年 design: 1958, reproduction: 2018	乳白ガラス opaque white glass	可変 Dimensions variable	株式会社 YAMAGIWA YAMAGIWA Corporation	p.15(下) p.16(上)
4_2	佐々文夫、保谷クリスタ ル硝子製造所 SASSA Fumio, Hoya Glass Works Ltd.	クリスタルサラダボール Crystal Salad Bowl	1956	クリスタルガラス crystal glass	6.1 × 14.9 × 14.9	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_3	佐々文夫、保谷クリスタ ル硝子製造所 SASSA Fumio, Hoya Glass Works Ltd.	クリスタルサラダボール Crystal Salad Bowl	1957	クリスタルガラス crystal glass	7.5 × 25.7 × 25.7, 4.5 × 12.7 × 12.7	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_4	佐々文夫 SASSA Fumio	オーナメント「APOSTROPHE」 Ornament "APOSTROPHE"	1955	クリスタルガラス crystal glass	4 点 /4 pieces: 15.8 × 11.0 × 11.0、 16.3 × 11.0 × 11.0、 16.0 × 12.0 × 12.0、 16.7 × 12.0 × 12.0	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.15(下)
4_5	佐々文夫、株式会社保谷 硝子 SASSA Fumio, HOYA Corporation	ストレートグラスコレクション Straight Glass Collection	1984	クリスタルガラス crystal glass	Cut Rock (2 点 /2 pieces): 12.7 × 4.7 × 4.7 PRISMATICS (6 点 /6 pieces): 12.4 × 4.5 × 4.5	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko	

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ベージ Page No.
4_6	佐々文夫 SASSA Fumio	オブジェ Object	1957	クリスタルガラス crystal glass	19.0 × 12.3 × 12.3	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.16(上)
4_7	佐々文夫 SASSA Fumio	オブジェ「DUET FANTASY」 Object "DUET FANTASY"	1980	宙吹き、カット blown and cut glass	22.0 × 22.5 × 22.5	佐々瑛子蔵 collection of SASSA Eiko (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	p.16(上)
4_8	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》 初号モデル Whisky Bottle, "Super NIKKA" (Handblown)	1963 年頃 c.1963	ガラス、宙吹き glass, free blowing	25.0 × 14.0 × 14.10	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15(下)
4_9	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪 1964 モデル・青 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Blue	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	20.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15(下)
4_10	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪 1964 モデル・黄 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Yellow	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	20.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15(下)
4_11	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパー ニッカ》東京五輪 1964 モデル・黒 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Black	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	20.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15(下)
4_12	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパーニッカ》東京五輪 1964 モデル・緑 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Green	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	20.0 × 13.0 × 13.0	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15(下)
4_13	佐藤潤四郎、カガミクリ スタル製作 SATO Junshiro, Kagami Crystal Works	手吹きウイスキーボトル《スーパー ニッカ》東京五輪 1964 モデル・赤 Whisky Bottle, "Super Nikka" (Handblown), Tokyo Olympic 1964 Model, Red	1964 年頃 c.1964	ガラス、宙吹き glass, free blowing	19.8 × 13.4 × 13.4	郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art	p.15(下)
4_14	吉田丈夫 YOSHIDA Takeo	飾皿·向日葵 Ornamental Plate, "Sunflower"	制作年不詳 Unknown	宙吹き、カット、金彩 blown and cut glass, gold decoration	7.5 × 44.0 × 44.0	カガミクリスタル株 式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.15(下)
4_15	吉田丈夫 YOSHIDA Takeo	クリスタル花器「冬芽」 Crystal Vase, "Winter Bud"	1990	宙吹き、カット、クリスタルガラス blown and cut crystal glass	24.4 × 16.2 × 14.5	カガミクリスタル株 式会社 KAGAMI CRYSTAL Co.,Ltd.	p.15(下)
4_16	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	花器 Vase	制作年不詳 Unknown	型吹き mold blown glass	19.4 × 18.7 × 14.5、 18.4 × 17.9 × 14.4	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15(下) p.16(下)
4_17	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	花器 Vase	1963 年頃 c.1963	型吹き mold blown glass	46.0 × 31.0 × 15.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15(下) p.16(下)
4_18	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	鉄枠吹込花器 Blown Glass Vase with Iron Flame	1966 年頃 c.1966	鉄枠吹込 blown glass, iron flame	22.0 × 20.0 × 20.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15(下) p.16(下)
4_19	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	ビトモールパープル双児器 Mold Blown Purple Glass Twin Vase	1969	型吹き mold blown glass	33.0 × 26.5 × 15.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15(下) p.16(下)
4_20	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	グレープロット日月花器 Blown Gray Glass Vase with Iron Frame, Sun and Moon Design	1966	鉄枠吹込 blown glass, iron flame	68.0 × 19.0 × 16.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15(下) p.16(下)
4_21	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	花器・マーバロン Vase, "MA-Balloon"	1966 年頃 c.1966	宙吹き blown glass	55.0 × 26.0 × 26.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15(下) p.16(下)
4_22	淡島雅吉 AWASHIMA Masakichi	花器・マーバロン Vase, "MA-Balloon"	1966 年頃 c.1966	宙吹き blown glass	101.0 × 19.5 × 19.5	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.15(下) p.16(下)

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材 · 技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (m) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ベージ Page No.
4_23	佐々木硝子株式会社、デ ザイン:竹内傳治 Sasaki Glass Co., Ltd. Design: TAKEUCHI Denji	ガラス製灰皿 44090-GSM, 44095-AMB Glass Ashtray, 44090-GSM, 44095- AMB	1963	色ガラス、スピン成形 colored glass, spinning	44090-GSM: 4.8 × 19.8 × 19.8, 44095-AMB: 3.9 × 14.9 × 14.9	東洋佐々木ガラス株 式会社 Toyo-Sasaki Glass Co., Ltd.	
4_24	東洋佐々木硝子株式会社 Toyo-Sasaki Glass Co., Ltd.	HS スタックタンプラー 00345HS、00346HS HS Stack Tumbler, 00345HS, 00346HS	デザイン: 1971 年 design: 1971	ソーダライムガラス soda-lime glass	00345HS: 8.0 × 6.7 × 6.7、 00346HS: 9.5 × 6.7 × 6.7	個人蔵 private collection	
4_25	竹内傳治 TAKEUCHI Denji	コンポジション #137 Composition #137	制作年不詳 Unknown	ガラス、キャスト、カット、研磨、接着 cast, cut, polished and glued glass	7.0 × 44.0 × 21.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
4_26	竹内傳治 TAKEUCHI Denji	コンポジション #173 Composition #173	1992	キャスト、カット、研磨、接着 cast, cut, polished and glued glass	24.0 × 28.0 × 21.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
4_27	船越三郎、株式会社保谷 硝子 FUNAKOSHI Saburo, HOYA corporation	ビネガー瓶 Vinegar Bottles	デザイン: 1960 年 design: 1960	クリスタルガラス crystal glass	大/large: 21.9 × 6.8 × 6.8、 小/small: 18.3 × 5.8 × 5.8	豊嶋菜生蔵 collection of TOYOSHIMA Naoi	p.44
4_28	船越三郎、株式会社保谷 硝子 FUNAKOSHI Saburo, HOYA corporation	コンディメントセット Condiment Set	デザイン: 1969 年 design: 1969	クリスタルガラス crystal glass	4点/4 pieces: 11.4 × 10.6 × 9.0、 5.8 × 5.5 × 5.5、 11.0 × 6.0 × 6.0、 11.0 × 6.0 × 6.0	豊嶋菜生蔵 collection of TOYOSHIMA Naoi	p.44
4_29	船越三郎、株式会社保谷 硝子 FUNAKOSHI Saburo, HOYA corporation	スノーレイク II SNOW LAKE II	デザイン: 1976 年 design: 1976	クリスタルガラス crystal glass	4.0 × 25.8 × 25.8	豊嶋菜生蔵 collection of TOYOSHIMA Naoi	p.44
4_30	船越三郎 FUNAKOSHI Saburo	花器 Vases	制作年不詳 Unknown	クリスタルガラス crystal glass	2 点 /2 pieces: 23.0 × 7.0 × 7.0、 19.9 × 5.5 × 5.5	豊嶋菜生蔵 collection of TOYOSHIMA Naoi	p.44
4_31	管澤利雄、HOYA 株式会社 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	ステムウェア・ライン「エンタシス」 Sternware Line "Entasis"	デザイン年: 1985-1986 年、1996年 (Martini) design: 1985-1986, 1996(Martini)	クリスタルガラス crystal glass	4 点 /4 pieces: 18.3 × 8.5 × 8.5、 19.5 × 9.5 × 9.5、 23.5 × 5.0 × 5.0、 15.8 × 11.5 × 11.5	作家蔵 collection of the artist (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_32	管澤利雄、株式会社保谷 硝子 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	JAL タンプラー JAL Tumbler	デザイン: 1980 年代 design: 1980s	クリスタルガラス crystal glass	8.9 × 6.0 × 6.0	作家蔵 collection of the artist (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_33	菅澤利雄、株式会社保谷 硝子 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporatio	JAL グラスライン -1 JAL GLASS line-1	デザイン: 1983 年 design: 1983	クリスタルガラス crystal glass	3 点 /3 pieces: 7.9 × 6.9 × 6.9、 10.8 × 5.9 × 5.9、 10.9 × 6.8 × 6.8	作家蔵 collection of the artist (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_34	菅澤利雄、HOYA 株式会 社 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	デスク時計 Desk Clock	デザイン: 1991 年 design: 1991	クリスタルガラス crystal glass	13.0 × 14.0 × 4.0	作家蔵 collection of the artist (現・富山市ガラス 美術館所蔵 Currently Collection of Toyama Glass Art Museum)	
4_35	菅澤利雄 SUGASAWA Toshio	「材料に関する本」(「本」のシリーズ) "Books on materials" in Book series	1981	クリスタルガラス、木、アルミニウム、(ガラス部分)キャスト、カット、平研磨 cast, cut and polished crystal glass, wood, aluminium	各 /each: 6.5 × 17.0 × 21.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
4_36	菅澤利雄 SUGASAWA Toshio	「魔法の鉛筆」(「鉛筆」のシリーズ) *Magic Pencils* in Pencil series	1993	クリスタルガラス、薄白板接着、宙吹き、 研磨、真空蒸着 blown and polished crystal glass, glued of the white sheet, vacuum evaporation	各 /each: 21.0 × 7.0 × 6.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
4_37	岩田久利 IWATA Hisatoshi	花器「H」 Vase, "H"	1954	吹きガラス、カット blown and cut glass	38.8 × 14.0 × 14.4	町田市立博物館 Machida City Museum	p.15(下)

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材 · 技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
4_38	岩田久利 IWATA Hisatoshi	コンポート Compote	1983	吹きガラス blown glass	24.8 × 29.1 × 29.1	町田市立博物館 Machida City Museum	
4_39	岩田久利 IWATA Hisatoshi	花器「青鬼」 Vase "Blue Goblin"	1970	宙吹き blown glass	38.0 × 24.0 × 24.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	
4_40	岩田久利 IWATA Hisatoshi	花器「赤鬼」 Vase "Red Goblin"	1970	宙吹き blown glass	33.0 × 27.0 × 24.0	一般財団法人草月会 Sogetsu Foundation	p.16(上)
4_41	岩田久利 IWATA Hisatoshi	金彩花器 Vase, decoration with gold	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	59.5 × 12.0 × 12.0	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	p.16(上)
4_42	岩田糸子 IWATA Itoko	花器 Vase	1992	吹きガラス blown glass	45.0 × 14.2 × 13.8	町田市立博物館 Machida City Museum	
4_43	岩田糸子 IWATA Itoko	飾皿 Decorative Plate	1984	吹きガラス blown glass	3.5 × 58.5 × 50.5	町田市立博物館 Machida City Museum	p.16(上)
4_44	岩田糸子 IWATA Itoko	花器「蕾」 Vase, "Bud"	1999	吹きガラス blown glass	20.0 × 30.5 × 30.5	新宿歴史博物館 Shinjuku Historical Museum	p.16(上)
資料 4_1	岩田工芸ガラス株式会社 Iwata Glass Co., Ltd.	製品カタログ '67 Product Catalog '67	1967	紙、印刷 print on paper		岩田マリ蔵 collection of IWATA Mari	
資料4_2	岩田工芸ガラス株式会社 lwata Glass Co., Ltd.	製品カタログ '70 Product Catalog '70	1970	紙、印刷 print on paper		岩田マリ蔵 collection of IWATA Mari	
資料4_3	丸善 Maruzen	『工芸ニュース』 1951 年 8 月号 (Vol.19、No.3) Industrial Art News, vol.19, No.3	1951	雑誌 magazine		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料4_4	著:淡島雅吉、丸善 AWASHIMA Masakichi, Maruzen	「ガラス器のうつりかわり」『工芸 ニュース』1955 年 8 月号(Vol.23、 No.8) Garasu ki no utsurikawari [Transition of glass vessel] Industrial Art News, vol.23, No.8	1955	雑誌 magazine		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料4_5	丸善 Maruzen	『工芸ニュース』 1957 年 8 月号 (Vol.25、No.7) Industrial Art News, vol.25, No.7	1957	雜誌 magazine		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
資料4_6	美術出版社 Bijutsu shuppan-sha	『リビングデザイン』No.7 Living Design, No.7	1955	雑誌 magazine		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
5. 個人	的創造活動に向けて	Towards individual creative ac	tivities				
5_1	益田芳徳 MASUDA Yoshinori	神様の散歩 God's Walk	1992	ホットワーク hot worked glass	95.0 × 29.0 × 29.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	p.17(上)
5_2	益田芳徳 MASUDA Yoshinori	切っても切っても No End to slice It	1990	ホットワーク hot worked glass	90.0 × 39.0 × 27.0	樂翠亭美術館 Rakusui-tei Museum of Art	p.17(上)
5_3	益田芳徳 MASUDA Yoshinori	鼻持 臭気に堪える Hanamochi (Endure an Offensive Smell)	1996	ガラス、宙吹き glass, blowing	43.0 × 27.5 × 32.0	国立工芸館 National Crafts Museum	p.17(上)
5_4	藤田喬平 FUJITA Kyohei	虹彩 Rainbow Colors	1964	ガラス、宙吹き glass, blowing	34.4 × 38.0 × 38.0	国立工芸館 National Crafts Museum	p.17(上)
5_5	藤田喬平 FUJITA Kyohei	飾筥「琳派」 Ornamented Box "Rinpa"	1987	ガラス、銀覆輪、型吹き、酸腐蝕 glass, silver rim, mold-blown, acid etched	17.0 × 24.0 × 24.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
5_6	藤田喬平 FUJITA Kyohei	飾筥「竹取物語」 Ornamented Box "Tale of Taketori"	2000	ガラス、銀覆輪、型吹き、酸腐蝕 glass, silver rim, mold-blown, acid etched	25.0 × 24.0 × 20.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	
5_7	藤田喬平 FUJITA Kyohei	飾筥「醍醐」 Ornamented Box "Daigo"	2003	ガラス、銀覆輪、型吹き、酸腐蝕 glass, silver rim, mold-blown, acid etched	19.0 × 30.0 × 26.0	富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材·技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (m) Dimensions (m)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
5_8	小谷眞三 KOTANI Shinzo	胴丸酒瓶 Round Bottle	1988	吹きガラス blown glass	25.1 × 16.4 × 16.4	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_9	小谷眞三 KOTANI Shinzo	円錐瓶 Cone Shaped Bottle	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	38.2 × 11.5 × 11.5	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_10	小谷眞三 KOTANI Shinzo	偏丸酒瓶 Round Bottle	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	25.5 × 15.0 × 11.7	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_11	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblet	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	16.8 × 8.8 × 8.8	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_12	小谷真三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblet	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	14.8 × 7.4 × 7.4	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_13	小谷眞三 KOTANI Shinzo	線入り角酒瓶 Square Bottle with Line Decoration	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	26.4 × 8.8 × 8.8	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_14	小谷眞三 KOTANI Shinzo	水差し Jug	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	21.6 × 15.7 × 10.6	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_15	小谷眞三 KOTANI Shinzo	コップ Cups	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	2 点 /2 pieces: 8.5 × 6.3 × 6.3、 8.7 × 6.3 × 6.3	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_16	小谷眞三 KOTANI Shinzo	手付角瓶 Square Bottle with Handle	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	23.4 × 9.3 × 8.8	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_17	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblet	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	9.5 × 6.0 × 6.0	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_18	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblet	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	10.9 × 6.4 × 6.4	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_19	小谷眞三 KOTANI Shinzo	銅輪付き瓶 Bottle with Copper Ring	2015	吹きガラス blown glass	19.6 × 8.6 × 8.1	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_20	小谷眞三 KOTANI Shinzo	銅輪付き酒瓶 Bottle with Copper Ring	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	26.8 × 11.8 × 10.9	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_21	小谷眞三 KOTANI Shinzo	胴丸蓋物 Round Lidded Jar	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	19.0 × 9.9 × 9.9	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_22	小谷眞三 KOTANI Shinzo	酒杯 Goblets	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	2 点 /2 pieces: 7.5 × 5.1 × 5.1、 8.3 × 5.0 × 5.0	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_23	小谷眞三 KOTANI Shinzo	香水瓶 Perfume Bottle	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	15.7 × 7.9 × 7.9	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_24	小谷眞三 KOTANI Shinzo	胴丸蓋物 Round Lidded Jar	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	9.6 × 6.2 × 5.8	作家蔵 collection of the artist	p.17(下)
5_25	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	リーフ文花瓶 モスグリーン・暗青 Vase with Leaf Design, Moss Green and Dark Blue	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	25.6 × 11.1 × 11.1	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_26	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	モール蓋物 モスグリーン Lidded Jar with Vertical Ribbed Design, Moss Green	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	17.0 × 12.7 × 12.7	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_27	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	色モール蓋物 緑・浅葱 Lidded Jar with Color Ribbed Design, Green and <i>Asagi</i> (light blue)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	21.3 × 13.6 × 13.6	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)

作品番号 No.	作家名 (資料は著者・出版社) Artist name/author/publisher	作品名 Title	制作年 / 出版年 Year of Production Publication	素材・技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (cm) Dimensions (cm)	所蔵先 (展覧会当時) Collection (at the time of this exhibition)	ページ Page No.
5_28	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	双飾耳カラーモール花瓶 青・浅葱 Vase with Two Decorative Handles, Color Spiral Ribbed Design, Blue and <i>Asagi</i> (light blue)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	22.8 × 9.0 × 9.0	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_29	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	双耳一輪挿 茶 Small Vase with Two Handles, Brown	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	17.6 × 8.5 × 8.5	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_30	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	垂描筋文花瓶 青 Vase with Lines of Glass Drooping, Blue	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	25.9 × 9.4 × 9.4	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_31	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	三彩花瓶 モスグリーン・縁 Vase with Three-colored Design, Moss Green and Green	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	24.4 × 8.5 × 8.5	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_32	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	手付デカンター 緑 Decanter with Handle, Green	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	23.8 × 13.0 × 13.0	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_33	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	ワイングラス 青緑 Wine Glass, Blue-green	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	2 点 /2 pieces、 各 /each: 9.5 × 6.0 × 6.0	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_34	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	モール脚ワイングラス 青紫 Wine Glass with Vertical Ribbed Stem, Blue-purple	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	14.2 × 7.6 × 7.6	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_35	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	カラーツイストワイングラス 砡 Wine Glass with Color Twist Stem, <i>Gyoku</i> (opaque white glass)	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	17.3 × 7.2 × 7.2	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_36	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	レーマー杯 金茶 Rummer, Golden-blown	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	12.0 × 7.8 × 7.8	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_37	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	めだか文鉢 赤 Bowl with Rice Fish Design, Red	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	21.3 × 8.3 × 8.3	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
5_38	舩木倭帆 FUNAKI Shizuho	モザイク文鉢 青・黄 Bowl with Mosaic Design, Blue and Yellow	制作年不詳 Unknown	吹きガラス blown glass	29.5 × 8.8 × 8.8	松尾地所株式会社 Matsuojisho Co., Ltd.	p.17(下)
資料 5_1	文化出版局 Bunka publishing bureau	『季刊銀花』第七号 Quarterly magazine, Ginka, No.7	1971	雑誌 magazine		個人藏 private collection	
資料5_2	「倉敷ガラス」刊行委員会 Committee for publication of Kurashiki Glass	『倉敷ガラス』 Kurashiki Glass	1981	書籍 book		富山市ガラス美術館 Toyama Glass Art Museum	

会場図 Exhibition map

3F 2F 展示室1 Exhibition Room 1 5 展示室2 Exhibition Room 2 展示室3 Exhibition Room 3

「変わりながらあり続ける」をテーマに、主にナフタリンを用いたインスタレーション作品で注目を集める美術家宮永愛子の代表作から最新作まで幅広く紹介した大規模な個展である。会場では、富山での出来事や記憶が付されたガラス作品を含む約20件の作品が展開された。

講師として富山ガラス造形研究所を訪問した事や、制作協力を富山 ガラス工房に依頼した事を契機とし、現在宮永はガラスを用いた作品 のほぼ全てを富山市で制作している。主に1950年代以降の現代ガラス を扱う当館において、富山とも縁がある美術家の宮永の展覧会を実現 することで、ガラス作家ではない宮永独自のガラスの捉え方を提示し、 ガラス芸術の幅広さや可能性を高める機会としたいとの思いがあった。 本展のタイトル「詩を包む」には、「全ての存在に物語があり、その 存在が持つ謂れを大切にしてほしい、そういった些細で見過ごしてし まうことにも目を向けてほしい。」という作家の思いがある。英語タイ トルに使用したverseは詩や聖書の一節を指すが、「反転、向きを変え る」などの意味を持つラテン語「versus」が語源となっている。その 意味を表すかのように宮永の生み出す作品はいずれも、素材や当たり 前であると思われている公式自体に疑問を投げかけ、答えを出してい る。例えば作品に入る気泡をガラス作家は否定的に捉えがちだが、宮 永は生痕化石のようだと関心を寄せ、作品のストーリーとして美しく 昇華させた。また、当初検討していたpoemは和製英語としての印象が 強いゆえ、展覧会のイメージに先入観を与えかねないと今回は使用し なかったが、古代ギリシア語「poiesis」に由来し、「創造する」とい う意味を持つ。展覧会冒頭部分の宮永から来館者に向けた言葉には、「詩

3階では、代表作である主にナフタリンや樹脂、FRPを用いた作品を、 2階では主にガラスを用いた作品を、全てインスタレーション作品と して展開した。まず来館者は《くぼみに眠るそら》に出会う。本作は、 宮永の曾祖父にあたる陶芸家・宮永東山が使用した陶彫用の石膏型を ナフタリンで薄く象り、ケースの中で移り変わるナフタリンの姿を、 新しい時間が解放されるものとして捉えた作品である。《詩を包むーは じまりのトランクー》では、本展のキーワードである手紙をガラスで 制作し、ナフタリンの鍵と共にトランクに収めた。手紙は筆者が作家 に宛てた出品依頼の手紙に由来しており、鍵は時代や文化を反映する 身近なモチーフとして、宮永作品に度々登場する。これら2つのモチー フを本展では随所に用いる事で、各作品を緩やかに繋げ呼応させた。

という語源には創るという意味がある。私らしく詩を包み、また私自

身も包まれてみようと思う。」と綴られた。

次に、椅子や時計を象ったナフタリンの彫刻が樹脂の中に収められた作品《waiting for awakening》を展示した。ナフタリンの鍵が入った樹脂のトランクケース、FRP製のトランクケースや鍵、輸送用のパレットを組み合わせた《手紙》。今回は、戦前に富山県で製造された小さなガラスの薬瓶や昭和初期の地図と共に展開した。4つの樹脂製トランクには、過去に展示した他の会場(香港や高松)が記された夕グが付けられている。北陸の薬瓶や地図からはるか遠くの街へ思いを馳せる作品となった。

2階フロアに降りると、ガラスで制作された新作《詩を包むートランクー》が目に入る。宮永は、作品のなかに「泡」の言葉を散りばめた。一見ただの泡のように見えるが、丁寧に光が当てられるとその言葉の輪郭を辿る事ができる。多くの来館者は、看視員が照らす光を手掛かりに楽しそうにその言葉を探していた。

その他、2階の展示室では《そらみみみそら》、《留め石》、《ひかりの ことづけ》とガラスを用いた作品が並んだ。

《はじまりの景色》や《詩を包む》は、ガラスを制作する以外に富山県を訪れたことのない宮永が、高岡市から朝日町まで改めて調査を経て制作した作品である。まず作品の起点を浮かび上がらせる重要な写真作品《はじまりの景色》で富山と宮永の世界を繋いだ。そしてタイトルにもなっている《詩を包む》は、熱して軟化したガラスを石や植物に流しかけ、中の水分が蒸発する際の空気を内包したものや、眼鏡レンズに古い切手を挟みキルンで熱して溶着したものなどを展開した作品である。一見すると物質をレンズやガラスに収めただけにも見えるが、《富山の夏/アスファルト片》、《明治33年の空気/フランスの切手》など、傍に言葉が小さく添えられていることに気づく。つまり、収められたものがもつ歴史や記憶を空気や痕跡として留めた作品なのである。

《くぼみに眠る海》は、16年ぶりに故郷である京都へ戻った事やコロナ禍により自宅で過ごす時間を得た事が結実して生まれた。曾祖父の陶彫の型に密度のあるガラスを満たし、キルンキャストで制作した。約100年前の石膏型の窪みは、ナフタリンでも樹脂でも粘土でもなく、ガラスという素材によってより美しく現代に提示される。今回は、石膏型が収められていた木製のリンゴ箱、当館の展示台、船箪笥と一緒に展開した。宮永が当館のバックヤードに眠る展示台を見た時、山積みのリンゴ箱に収められた石膏型の記憶が重なったという。京都の自宅に漂う「場」の気配や当館の記憶が丁寧に込められた作品となった。

会期中には、出品作家と坂森幹浩富山市郷土博物館長を招き、展示作品とそのモチーフをキーワードに富山の歴史を絡めた対談を開催した。トークイベントを通して作品と富山を繋げ、本展の理解を深める良い機会となった。また、企画展タイトル特製の文字パーツ付きの特別仕様の万華鏡キットを使い、オリジナルの万華鏡を制作するワークショップを実施した。ガラスに親しんでもらうと共に、展覧会への関心を深める機会とした。また、今回宮永は来館者への贈り物として展示の中でいくつかの仕掛けを施した。ここでは明言しないが、宮永の来館者と向き合う真摯な姿勢をここでも感じられた。私も自己模倣にとらわれず、常に新しいガラス芸術の幅広さや可能性を世界に発信し続けたい。そして世界の現代ガラス芸術の拠点の1つである"ガラスの街とやま"として、より国内外に認知されるように日々邁進し、いつかガラスとの距離がより近づいた宮永の作品をまた皆様にご紹介したいと思う。

(浅田真帆)

This extensive, comprehensive exhibition on the theme of "ever-changing continuation" was devoted to the career of MIYANAGA Aiko—noted mainly for her installations using naphthalene—and featured many of the artist's best-known and most recent offerings. Around 20 works were on display, including a number in glass peppered with elements of events and memories specific to Toyama.

Since spending time at the Toyama Institute of Glass Art as a visiting lecturer, and commissioning the Toyama Glass Studio to assist with her own production, most of Miyanaga's works in glass have been made in the city. Here, the idea was that staging an exhibition by an artist with a Toyama connection like Miyanaga Aiko, in a museum dealing mainly in modern glass from the 1950s onward, would be both an opportunity to present Miyanaga's personal, original approach to glass—as someone who is not a glass artist—and in doing so help to increase the breadth and potential of glass art.

The title Wrapping a Verse reflects the artist's belief that everything in existence has a story, and that we should value those origins, and pay attention to things modest and neglected. The "verse" refers to a poem, or passage from the Bible, and comes from the Latin versus meaning, among other things, to turn or face another way. As if to express this, all of Miyanaga's works question materials and familiar formulas taken for granted, and offer answers. For example, glass artists tend to have a negative view of air bubble infiltration, but Miyanaga found bubbles in glass intriguing, likening them to trace fossils, and elevated them beautifully into stories for the works. Note also that although the word "poem" she initially thought to use had, for the artist, a whiff of confected wasei-eigo that led her to avoid it on this occasion from fear of encouraging preconceptions about the exhibition, it actually comes from the Ancient Greek *poiesis* meaning to create. In her comments to visitors at the exhibition entrance, Miyanaga wrote, "The word 'poetry' has its origins in the Greek poiesis, meaning 'to make.' I have endeavored to wrap that poetry/verse in my own way, and in turn, be enveloped by it "

On the third floor, Miyanaga's best-known works, ie mainly those made using naphthalene, resin or FRP (fiberglass-reinforced plastic); and on the second floor, mainly works in glass, were all presented in installation form. Greeting the visitor first was valley of sleeping sky. Consisting of pieces cast thinly in naphthalene from plaster molds used by Miyanaga's great-grandfather ceramicist MIYANAGA Tozan to make ceramic sculptures, this work interprets the naphthalene forms undergoing transformation in their cases as releasing new time. In Wrapping a Verse-suitcase of beginning, a letter—"letter" being a keyword in this exhibition—was fabricated in glass and sealed in a suitcase along with a naphthalene key. The letter has its origins in one this author wrote to the artist requesting her work for exhibition, and the key appears frequently in Miyanaga's works as a familiar motif reflecting notions of era or culture. By employing these dual elements in multiple places, the exhibition forged loose connections between the various works, and encouraged them to respond to each other.

Next up was waiting for awakening, consisting of naphthalene sculptures modeled on objects including a chair and clock, sealed in resin. Then Letter, combining resin suitcases containing naphthalene keys, FRP cases and keys, and shipping pallets. Presented alongside on this occasion were small glass medicine bottles manufactured in pre-war Toyama, and a map from the early Showa years. The four resin cases had baggage tags showing the names of places the work has been exhibited in the past, such as Hong Kong and Takamatsu, thus directing the viewer's thoughts to towns far from those Hokuriku-homed bottles and map.

Descending to the second floor, visitors were greeted by wrapping a verse – suitcase, a new work made from glass. Inside, Miyanaga had sprinkled "bubble" words that initially appear to be indeed simply bubbles, but when carefully illuminated, trace the contours of words. Many visitors were seen to enjoy searching for those words with aid from a light shone by staff.

Also displayed in the second-floor exhibition space were soramimimisora (hearing things), tome-ishi boundary, and Messages from the Light, all employing glass.

Miyanaga had never visited Toyama apart from to make glass, and works such as landscapes of beginning and Wrapping a Verse are the product of fresh research carried out by her in travels ranging from Takaoka across to Asahi. First, the important photographic piece landscapes of beginning, which highlights the starting point for these works, linked Toyama with Miyanaga's own world. Next, the eponymous Wrapping a Verse unfolded in a series of components, including glass softened by heating then poured onto items such as stones and plants, the air from their evaporating moisture becoming sealed within; and old postage stamps placed between spectacle lenses and heated in the kiln to fuse these components together. At first glance all appear to be merely matter enclosed in glass, but in works like summer in Toyama / piece of asphalt and air in 1900 / French stamps, one notices the addition of tiny writing to one side. Thus here, the history and memories of things shut away are captured as air and vestigial remains.

Valley of Sleeping Sea is the culmination of Miyanaga's return to her native Kyoto after a 16-year absence, and gaining time at home during the pandemic. Filling her great-grandfather's ceramic sculpture molds with dense glass, she kiln cast them, the hollows in the century-old plaster casts presented even more beautifully for today's world not in naphthalene or resin or clay, but glass. On this occasion the works were accompanied by wooden apple crates used to store the plaster molds, Toyama Glass Art Museum display stands, and a ship's safe-chest. Miyanaga says that when she saw the stands tucked away in the Museum storage space it triggered memories of those plaster molds stored in a stack of apple crates. Valley of Sleeping Sea thus neatly meshed a whiff of place, that place being the artist's Kyoto family home, and the Museum's own memories

During the exhibition, the exhibiting artist joined Toyama Municipal Folk Museum director SAKAMORI Mikihiro in a conversation around Toyama history, with a focus on the works on display and their motifs. This talk event proved an excellent opportunity to connect the works and Toyama, and promote deeper understanding of the exhibition. A workshop was also offered, using customized kits with characters spelling out the exhibition title to make an original kaleidoscope, encouraging greater familiarity with glass among participants, and more intense interest in the exhibition. Miyanaga also wove a number of "tricks" into the exhibits as gifts to her audience. While declining to reveal these here, I can confirm that the artist's desire to engage directly with her audience was very much in evidence.

For my own part, like Miyanaga Aiko I hope to avoid self-imitation, and instead keep demonstrating to the world the sheer breadth and potential of new glass art; redoubling my efforts also to raise the profile of "Toyama, City of Glass Art" both domestically and internationally as a global center for contemporary glass art, including, wherever possible, showcasing the oeuvre of Miyanaga Aiko, as her connection to glass grows ever stronger.

(ASADA Maho, translated by Pamela MIKI)

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse

展覧会

期:2023年11月3日(金・祝)~2024年1月28日(日)

場:展示室1-3

主 催:富山市ガラス美術館 特別協力:ミヅマアートギャラリー

援:北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、

チューリップテレビ

当:浅田真帆

輸送展示:ヤマト運輸株式会社 会場施工:株式会社宝来社

グラフィックデザイン:高嶋鮎美(株式会社MITAI)

観覧料:一般1,200円(1,000円)、大学生1,000円(800円)

前売券1,000円 (一般のみ) ※()は団体料金 ※高校生以下無料

カタログ

『宮永愛子 詩を包む』

26.6×20.5cm 154頁 2,200円 発 行:富山市ガラス美術館 発 行 日:2024年1月24日

関連プログラム

ワークショップ「万華鏡制作」

時:2023年12月16日(土)14:00~15:30

場:レクチャールーム

師:富山ガラス工房 第2工房スタッフ

トークイベント

時:2024年1月20日(土)14:00~

場:2階ロビー

出 演 者: 宮永愛子(出品作家)、坂森幹浩(富山市郷土博物館館長)

学芸員によるギャラリートーク

日 時:2023年11月26日(日)、12月3日(日)、2024年1月27日(土)

(各回14:00~)

※2024年1月7日(日)は臨時休館のため中止

場:展示室1-3

Exhibition

Period: November 3, 2023 – January 28, 2024

Venue: Exhibition Rooms 1-3,

Organized by Toyama Glass Art Museum Special Cooperation by Mizuma Art Gallery Supported by THE KITANIPPON SHIMBUN,

THE TOYAMA SHIMBUN,

Kitanihon Broadcasting Co., Ltd.,

TOYAMATELEVISION BROADCASTING CO., LTD.,

TULIP-TV INC.

Curator: ASADA Maho

Transportation and Installation: YAMATO TRANSPORT CO., LTD.

Construction: HORAISYA CO., LTD.

Graphic Design: TAKASHIMA Ayumi (MITAI Co., Ltd.)

Admission: General Public ¥1,200 (¥1,000),

University and College Students ¥1,000 (¥800) Advance tickets: General Public ¥1,000 Groups of 20 or more: price in brackets High school students and younger: free

Catalog

MIYANAGA Aiko Wrapping a Verse 26.6×20.5cm 154p ¥2,200 Published by: Toyama Glass Art Museum Date of publication: January 24, 2024

Related Programs

Workshop: Kaleidoscope

Date & time: December 16, 2023 14:00-15:30

Venue: 6F Lecture Room

Lecturer: Toyama Glass Studio (The 2nd Glass Studio) Staff

Talk Event

Date & time: January 20, 2024 14:00-

Venue: 2F Lobby

Lecturers: MIYANAGA Aiko (Artist), SAKAMORI Mikihiro (Director,

Toyama Muncipal Folk Museum)

Date & time: November 26, December 3, 2023, January 27, 2024 14:00-*Canceled on January 7, 2024 due to temporary closing

Venue: Exhibition Rooms 1-3

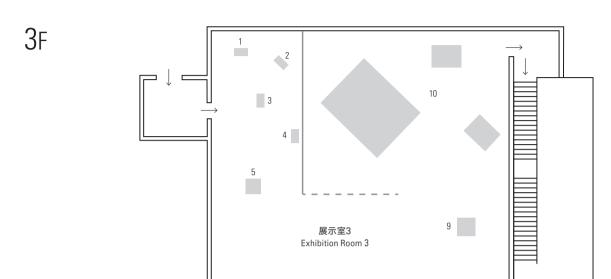
作品リスト List of Works

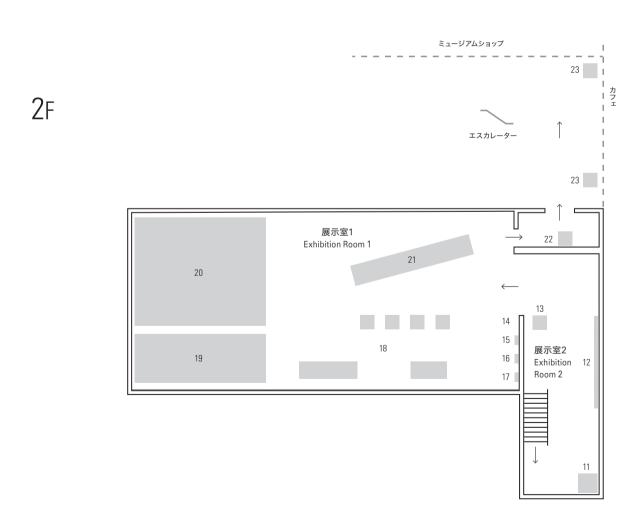
作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material & Technique	所蔵先 Collection
宮永愛	子 MIYANAGA Aiko			
01	くぼみに眠るそら 一大黒様 ー valley of sleeping sky -daikoku-	2023	ナフタリン、ミクストメディア(東山窯の石膏型を使用) Naphthalene, mixed media (cast from Tozan Kiln's plaster mold)	作家蔵 Collection of the artist
02	くぽみに眠るそら -寝虎- valley of sleeping sky -prone tiger-	2023	ナフタリン、ミクストメディア(東山窯の石膏型を使用) Naphthalene, mixed media (cast from Tozan Kiln's plaster mold)	作家蔵 Collection of the artist
03	夜に降る景色 -時計- night voyage -clock-	2023	ナフタリン、ミクストメディア Naphthalene, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
04	くぼみに眠るそら -猫と鮎- valley of sleeping sky -cat and ayu (sweetfish)-	2023	ナフタリン、ミクストメディア(東山窯の石膏型を使用) Naphthalene, mixed media (cast from Tozan Kiln's plaster mold)	作家蔵 Collection of the artist
05	詩を包む ーはじまりのトランクー Wrapping a Verse -suitcase of beginning-	2023	ガラス、空気、ナフタリン、ミクストメディア Glass, air, naphthalene, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
06	waiting for awakening -wall clock-	2018	ナフタリン、樹脂、ミクストメディア Naphthalene, resin, mixed media	個人蔵 Private collection
07	waiting for awakening -wall clock-	2019	ナフタリン、樹脂、ミクストメディア Naphthalene, resin, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
08	waiting for awakening -wall clock-	2019	ナフタリン、樹脂、ミクストメディア Naphthalene, resin, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
09	waiting for awakening -chair-	2017	ナフタリン、樹脂、ミクストメディア Naphthalene, resin, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
10	手紙 Letter	2013-19	ナフタリン、樹脂、封蝋、FRP、ミクストメディア Naphthalene, resin, sealing wax, FRP, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
11	詩を包む ートランクー wrapping a verse -suitcase-	2023	ガラス、空気 Glass, air	作家蔵 Collection of the artist
12	そらみみみそら soramimimisora (hearing things)	2023	サウンドインスタレーション(陶、釉、ミクストメディア) Sound installation (ceramic, glaze, mixed media)	作家蔵 Collection of the artist
13	留め石 〈tome-ishi〉boundary	2015	ガラス、呼気、縄 Glass, exhalation, rope	作家蔵 Collection of the artist
14	はじまりの景色(ささやかな境界 / ヒスイ海岸) landscapes of beginning (a small boundary /The Hisui (jade) Coast)	2023	フレスコ紙、鉛筆、写真 Fresco paper, pencil, photo print	作家蔵 Collection of the artist
15	はじまりの景色(水のたたえるところ / 稲穂) landscapes of beginning (where water wells / ears of rice)	2023	フレスコ紙、鉛筆、写真 Fresco paper, pencil, photo print	作家蔵 Collection of the artist
16	はじまりの景色(船を待ち望む場所 / 方位磁石) landscapes of beginning (a place of longing for ships / compass)	2023	フレスコ紙、鉛筆、写真 Fresco paper, pencil, photo print	作家蔵 Collection of the artist
17	はじまりの景色(ときの眠る森 / 埋没林) landscapes of beginning (the sleeping woods of time / submerged forest)	2023	フレスコ紙、鉛筆、写真 Fresco paper, pencil, photo print	作家蔵 Collection of the artist
18	詩を包む - 伏木港 / 葉脈 - wrapping a verse -Fushiki-Toyama Port / leaf veins-	2023	紙、ガラス、空気、金木犀の葉 Paper, glass, air, fragrant olives leaf	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む -明治 33 年の空気 / フランスの切手 - wrapping a verse -air in 1900 / French stamps-	2023	めがねレンズ、フランスの切手 Eyeglass, French stamps	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む - 富山の夏 / アスファルト片 - wrapping a verse -summer in Toyama / piece of asphalt-	2023	ガラス、空気、アスファルト片、石 Glass, air, piece asphalt, stone	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む -海(ヒスイ海岸)/ 貝- wrapping a verse -The Hisui (jade) Coast / shell-	2023	ガラス、空気、石、貝殻 Glass, air, stone, shell	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む -山の秋(杉沢)/ 毬栗- wrapping a verse -moutain in autumn (Sugisawa) /chestnuts in burrs-	2023	ガラス、空気、毬栗 Glass, air, stone, chestnuts in burrs	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む -沢の水(杉沢)/ 石、杉- wrapping a verse -water from a stream (Sugisawa) / stone, japanese cedar-	2023	ガラス、空気、杉 Glass, air, stone, japanese cedar	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む 一海(ヒスイ海岸)/ 石一 wrapping a verse -sea (The Hisui (jade) Coast) / stone-	2023	ガラス、空気、石 Glass, air, stone	作家蔵 Collection of the artist

61

作品番号 No.	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material & Technique	所蔵先 Collection
	詩を包む - 港の風(伏木港)/ 葉脈 - wrapping a verse -bleezes from the harbor (Fushiki-Toyama Port) / leaf veins-	2023	ガラス、空気、金木犀の葉 Glass, air, stone, fragrant olive's leaf	作家蔵 Collection of the artist
	詩を包む - Lens 試作(石を封入して焼成) - wrapping a verse -Lens test piece (enclose the stone)-	2017	ガラス、空気、水晶 Glass, air, crystal	作家蔵 Collection of the artist
19	ひかりのことづけ Messages from the Light	2021	ガラス、空気 Glass, air	作家蔵 Collection of the artist
20	くぼみに眠る海 Valley of Sleeping Sea	2023	ガラス、空気 恵比寿様、お内裏様、お雛様、大黒様、亀、熊、仔犬、猫、寝虎、鳩、 水鳥 (東山窯の石膏型を使用)	作家蔵 Collection of the artist
			そらみみみそら サウンドインスタレーション 甕 宮永甲太郎作 石膏型、台座、リンゴ箱	
		Glass, air Ebisu, emperor, empress, daikoku, turtle, bear, puppy, cat, prone tiger, pigeon, waterfowl (cast from Tozan Kiln's plaster mold)		
			soramimimisora (hearing things) Sound installation Jar (Miyanaga Koutarou) Plaster mold, pedestal, apple's box	
	詩を包む 一祖母の時間 / 和製鍵ー wrapping a verse -grandmother's time / japanese-style key-	2023	ガラス、空気、船箪笥、鍵 Glass, air, ship safe chest, key	作家蔵 Collection of the artist
21	Strata	2018-19	ガラス、製本の道具、大潮暦、ミクストメディア Glass, bookbinding tools, spring tide almanac, mixed media	作家蔵 Collection of the artist
22	詩を包む -去年の雪 / 石- wrapping a verse -last snow / stone-	2023	ガラス、空気、去年の雪 Glass, air, last snow	作家蔵 Collection of the artist
23	詩を包む wrapping a verse	2023	手紙 Letter	作家蔵 Collection of the artist

会場図 Exhibition map





ガラスの街とやま連携展 「ガラスと生きる」富山ガラス工房と所属作家

富山市はこれまで30年以上にわたり、ガラスをテーマとした政策をまちづくりの柱のひとつとして掲げてきた。本展は、ガラス作家を育成する「富山ガラス造形研究所」、文化的産業としてガラスを振興する「富山ガラス工房」、そして芸術としてのガラスを鑑賞し親しむことのできる「富山市ガラス美術館」の3つのガラス関係機関が連携し、共同で企画開催する展覧会である。昨年度に続き2回目の開催となる今回の展覧会は、会期は造形研究所の卒業制作展と同時期で9日間、展示室1および2を会場として開催された。

連携展としての第2弾となる本展では、全国の手工業のブランディン グとプロダクトデザインを手掛ける大治将典氏(Oji&Design代表)をプ ロデューサーに迎え、富山ガラス工房の活動と、展覧会開催当時の所 属作家22名の作品を紹介する展示を行った。まず、展覧会の入り口とな る展示室2では、ガラス工房の主要部門のひとつである「共同工房」の 活動を、「リメルト・ブルー」を素材としたインスタレーション作品によっ て紹介した。リメルト・ブルーとは、廃ガラスを再び熔解することで透 明度の極めて高い青色を実現した、工房オリジナルのガラスである。大 治氏の指揮のもと、所属作家たちが吹きガラス技法で共同制作した作品 群《浮かぶ水の中の渦》は、無重力に浮かんだ水の中に、重力としての 渦が巻き起こっているような不思議な世界を表現している。それはまさ に、相反する要素が同居するという特徴を持つガラスならではの表現で あり、魅力ある造形となった。また、作家の個人制作の場としての「創 作工房」、市民がガラスに親しむ場としての「第二工房」を紹介するパネ ルも、実際に使用されている制作道具やサンプル作品、色ガラスの見本 とともに展示した。

続く展示室1では、「5年後も作り続けているガラス」をテーマに、所属作家22名それぞれの作品を紹介した。技法、作品の主題ともに、この先も制作を続けていく上で自身の核となるものを表現した作品の数々は、ガラスの持ち味を活かして日々の生活に彩りを添えるものから、既存のガラスのイメージを打ち破り、新たな感性を提示するものまで多種多様であり、個々人のこだわり、作家としての誇りが表れた展示となった。加えて、実際に作品を手に取ることができるブースを設けた。目で見る鑑賞とは一風異なる「作品の身近さ」を体験する貴重な機会として、観覧者に好評をいただいた。

本展では、ガラスの道に進み、ガラスと生きることを決意した作家たちの意気込みを紹介した。同時に、作り手と使い手、双方に寄り添うものづくりをモットーとする大治氏が総指揮を執った本展は、地域産業としての富山のガラスの可能性を広く県内外にアピールするものであった。作家の豊かな感受性あふれるデザインと、確かな技術力を兼ね備えた、富山のガラス。その存在は、「ガラスと生きる街」富山の底力そのものである。

(渡部名祐子)

Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition: Life with Glass - Toyama Glass Studio and Affiliated Artists

For over 30 years, the city of Toyama has made glass a cornerstone of its local development policy. This exhibition was a joint effort between three glass institutions: the Toyama Institute of Glass Art, set up to train future glass artists; Toyama Glass Studio, which promotes glass as a cultural industry; and Toyama Glass Art Museum, where the public can gain an intimate appreciation of glass as an art form. Held for the second consecutive year, the exhibition ran in Exhibition Rooms 1 and 2 over nine days coinciding with the Institute's graduation show.

Planned and coordinated by OJI Masanori of Oii & Design. who designs products and provides branding services for industrial handicraft makers across Japan, this second collaborative exhibition showcased the activities of the Toyama Glass Studio and works by the 22 artists affiliated with the Studio at the time. It began in Exhibition Room 2 with an installation in "Remelt Blue" spotlighting the activities of the KYOUDOU KOUBOU collective workshop that is a vital element of Studio operations. Remelt Blue is a glass exclusive to the Tovama Glass Studio, made by melting waste glass to produce a blue of exquisite clarity. The blown-glass works comprising Whirlpool in floating water droplets, made collaboratively by the Studio-affiliated artists under Oji's direction, manifest as a magical realm in which whirlpool as weight arises in water suspended in weightlessness, exemplifying to stunning effect a distinguishing feature of glass: the cohabiting of contrasting elements. The exhibition also featured panels introducing the SOUSAKU KOUBOU studio where artists pursue their individual creative endeavors, and DAINI KOUBOU where members of the public can enjoy hands-on experience with glass, displayed alongside tools actually used in glass-making, sample pieces, and colored glass

Next, Exhibition Room 1 contained works by the 22 affiliated artists, on the theme of "glass still being made five years on." The many offerings here displaying what are set to be the core techniques and themes of each artist into the future were remarkable in their diversity; some utilizing the special qualities of glass to add color to everyday living, others defying all conventional notions of the material to posit entirely new sensibilities, and each demonstrating the artist's individual passions and preferences, and pride in their artistry. A booth was also available where visitors could handle works for themselves, a precious opportunity to experience a familiarity different to that acquired visually. This part of the exhibition proved to be very popular.

Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition: Life with Glass showed the dedication and determination of artists who have chosen to work and make a life with glass. At the same time, this exhibition presided over by a professional, in the person of Oji Masanori, who believes craft should be tailored to the needs and desires of both maker and user, served as a superb advertisement, both locally and more widely, for the potential of Toyama glass as a regional industry. Glass made in Toyama combines design that reflects the rich and refined sensibilities of its artists, with solid technical capabilities, and as such is the force sustaining Toyama's status as "the city that lives with glass."

(WATABE Nayuko, translated by Pamela MIKI)

ガラスの街とやま連携展 「ガラスと生きる」富山ガラス工房と所属作家

展覧会

会 期:2024年2月10日(土)~2月18日(日)

会 場:展示室1、2

主 催:富山市、富山市ガラス美術館、富山ガラス造形研究所、 (一財)富山市ガラス工芸センター(富山ガラス工房)

後 援:北日本新聞社、富山新聞社、NHK富山放送局、北日本放送、 富山テレビ放送、チューリップテレビ

担 当: 土田ルリ子

プロデューサー: 大治将典 (Oji&Design)

グラフィックデザイン: 久保美穂 会場施工: 株式会社宝来社

観覧料:無料

出品作家

粟田和、片桐ひまわり、勝木竜二、菊地大護、古賀佳織、佐藤望美、 竹内駿、竹岡健輔、田中沙弥佳、豊岡智美、中尾雅一、名田谷隆平、 野田雄一、野間恵花、林あいみ、古野伶奈、松谷夏鈴、まぶちちか、 宮本崇輝、若色正太、渡邉あゆ、和田修次郎

関連プログラム

RE+RE+RE アクセサリー制作体験

B 時:2024年2月10日(土)~2月18日(日)10:30~17:30

会 場:2階ロビー

主 催:富山ガラス工房第2工房

アートのかけら GACHA!

日 時:2024年2月10日(土) 会 場:Cafe小馬キラリ店

主 催:富山ガラス工房 第2工房、Cafe小馬キラリ店

Toyama, City of Glass Art, Collaborative Exhibition: Life with Glass - Toyama Glass Studio and Affiliated Artists

Exhibition

Period: February 10 - February 18, 2024

Venue: Exhibition Room 1, 2

Organized by Toyama City, Toyama Glass Art Museum, Toyama Institute of Glass Art, Toyama Glass Studio

Supported by THE KITANIPPON SHIMBUN, THE TOYAMA SHIMBUN,

Japan Broadcasting Corporation Toyama Station,

Kitanihon Broadcasting Co., Ltd.,

TOYAMA TELEVISION BROADCASTING CO., LTD., TULIP-TV INC.

Curated by TSUCHIDA Ruriko

Produced by OJI Masanori (Oji&Design)

Graphic Design: KUBO Miho Construction: HORAISYA CO., LTD.

Admission: Free

Artists

AWATA Nodoka, KATAGIRI Himawari, KATSUKI Ryuji, KIKUCHI Daigo, KOGA Kaori, SATO Nozomi, TAKEUCHI Shun, TAKEOKA Kensuke, TANAKA Sayaka, TOYOOKA Tomomi, NAKAO Masaichi, NADATANI Ryuhei, NODA Yuichi, NOMA Ayaka, HAYASHI Aimi, FURUNO Reina, MATSUTANI Karin, MABUCHI Chika, MIYAMOTO Takaki, WAKAIRO Shota, WATANABE Ayu, WADA Shujiro

Related Programs

Workshop: RE+RE+RE Accessory Making

Date&time: February 10 - February 18, 2024 10:30-17:30

Venue: 2F Lobby

Organized by Toyama Glass Studio (The 2nd Glass Studio)

Special Program: Art Piece GACHA!

Date&time: February 10, 2024

Venue: Cafe Kouma Kirari

Organized by Toyama Glass Studio (The 2nd Glass Studio), Cafe Kouma

65

Kirari

作品リスト List of Works

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (m) Dimensions (cm)					
共に創る Creating Together									
共同工房 KYOUDOU KOUBOU	浮かぶ水の中の渦 Whirlpool in floating water droplets	2024	「リメルト・ブルー」ガラス/宙吹き "Remelt Blue" Glass / Browing	可変 dimensions variable					
5年後も作り続けているガラス Glass still being made five years on									
和田修次郎 WADA Shujiro	ΟΔΠ								
菊地大護 KIKUCHI Daigo	skittle hip flask								
宮本崇輝 MIYAMOTO Takaki	Sprout								
	水平線の記憶 冷酒グラス Memory of horizon Sake Glass								
	Feel the nature Wine glass								
まぶちちか MABUCHI Chika	ざーざ一降りの日 rainy day								
竹内駿 TAKEUCHI Shun	plants pod								
	tumbler								
	Cliff								
中尾雅一 NAKAO Masaichi	moire								
佐藤望美 SATO Nozomi	Knit- kaleidoscope-								
野田雄— NODA Yuichi	酒器 Sake set								
竹岡健輔 TAKEOKA Kensuke	おりなす '24-1 orinasu '24-1								
	Woven vessel #57								
	Woven vessel #58								
粟田和 AWATA Nodoka	人魚姫 Mermaid								
若色正太 WAKAIRO Shota	光と色の表出 Representation of light and color								
松谷夏鈴 MATSUTANI Karin	植生 sample. I the vegetation sample. I								
林あいみ HAYASHI Aimi	ゆるみ Yurumi								
野間恵花 NOMA Ayaka	玲瓏 Linglong								
勝木竜二 KATSUKI Ryuji	動物の王国 ANIMAL KINGDOM								
田中沙弥佳 TANAKA Sayaka	硝世界 Glass world								
片桐ひまわり KATAGIRI Himawari	黒くて black and								

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material&Technique	作品サイズ (H×W×D) (m) Dimensions (m)
古野伶奈 FURUNO Reina	残りつづけるもの Something that remains			
	花器 いし Vase Stone			
	道しるべ Guide			
渡邉あゆ WATANABE Ayu	水面 Water surface			
名田谷隆平 NADATANI Ryuhei	過去から現在 From the Past to the Present			
豊岡智美 TOYOOKA Tomomi	ひと花 A flower			
古賀佳織 KOGA Kaori	doily -sparkle-			

Collection Exhibition

ガラスをめぐる自然

富山は北側に日本海・富山湾を臨み、南側には立山連峰と北アルプスー帯を占める中部山岳国立公園を擁するなど、雄大な自然と美しい景観に恵まれていることから、私たちは普段からその恩恵を受けている。異なる文化や背景をもつガラス作家達もまた、身の回りにある動植物の造形や、光や熱、風といった多様なエネルギーが生み出す光景、豊かな恵みをもたらす海や田畑など、各々にとって身近な自然の存在に着想を得て作品を制作している。その捉え方や制作のアプローチはそれぞれ異なるものの、作品には、連綿と続く大地の営みに目を向け、自然の姿に寄り添う作家達の意識を垣間見ることができる。今回は、新たな収蔵品3点を含む所蔵作品の中から、自然と人との関わりに関心をもつ作家達の作品を3つのテーマで紹介した。

1章では「自然のエネルギー」とし、自然が生み出す光景や、生命力に満ちた動植物の造形に潜む力強いエネルギーを見いだし視覚化した作品を紹介した。日の光や水の要素を抽出したラダ・セメツカの《アクアプレート》と《サンプレート》、回転する風車が風の行方を思わせるアレナ・マチェイカの《風車》など、自然の事物から生まれる現象やそのエネルギーは、私たちの身近に存在している。成長する竹林の光景を捉えた塚田美登里《光林 #2》や、波の動きや生物を抱く海そのものを想起させる《青い珊瑚》など、自然界で働く様々なエネルギーにまつわる作品を扱った。

2章では「自然と生きる」と題し、自然の恵みと脅威へ畏敬の念を抱きながら、人の営みとの関わりに着目した作品を紹介した。天候不順や災害と隣り合わせる日々の中で感じたことを造形化した扇田克也の《海に降る雨》や、水盤で手を洗い清める儀礼に着想を得て水との結びつきを表したハワード・ベン・トレの《大水盤》、農業を通じて移り変わる自然の風景や、人の要求に応える自然と人との共生関係を表したカースティ・レイ《刃》、《雨を待つ》など、生活や文化圏によって異なる自然の捉え方を通じて、様々な形で自然との結びつきを表す作品に注目した。

3章では「自然を歩く」と題し、日常から踏み出した作家が異なる場所をさすらうなかで、自然との対話に着想を得た作品を紹介した。カースティ・レイの《とどまるもの》やラダ・セメツカの《Landscape XX》には、作家達が身の回りの場所を通して得た感覚や体感が、抽象的な色や造形で表されている。哲学的なメッセージ性をもつ作品には、自然のサイクルを受け止めるとき、日々を過ごす中で忘れていた感情や体験を思い起こし、新鮮な気持ちで景色を捉えた作家の視点が込められている。

本展では、気候変動や環境破壊など自然と人との関係がより一層問い直されている今日、私たちはどのような形で自然と繋がりを持ち、共生することができるだろうか、という問いから所蔵品を捉えた。折しも会期中の5月には令和5年奥能登地震が起こり、改めて周囲の自然環境を意識することとなった。本展を通して、自然を捉える多様な視点に出会うことで、身近にある環境について思いを巡らせ、自分自身の自然との関わり方について見つめ直す機会となれば幸いである。

(高橋由佳)

かさねのガラス

薄い板ガラスを何枚も集積させる、色ガラスの上から別の色ガラスを被せる、重ね合わせたガラスを削り出して形作るなど、ガラス作品には多くの重ねる表現が見られる。ガラスの代名詞とも言える透明性を生かして制作された作品には、下層の色や模様の透過による独特の立体感や、複雑な光の反射・屈折による視覚的効果といった、重ねることでしか得られない特徴的な表情が表れている。ガラスの特性を最大限に引き出す行為の1つとも言える、重ねる表現に着目し、本展では3つのテーマを設けて所蔵作品を紹介した。

「1. 深みをなす」では、板ガラスに絵や模様を描き、それらを重ね合わせることで作品内部に生まれる立体感に着目した。渡辺知恵美、ヤロスラフ・シャーラ、ボフミール・エリアッシュの作品では、透明なガラスに施した絵を何層にも重ねて立体感を生み出したり、ガラスの中に実際以上の空間の広がりを感じさせたりする表現を紹介した。パヴェル・ムルクスの《IN BETWEEN II》では、器の両面に描かれた模様が立体交差して視覚的効果が生じる、透明なガラスならではの不思議な表現にも焦点を当てた。

「2. いろを織りなす」では、素地となるガラスに別の色ガラスや異素材を重ね、多様な色彩を表現する作品を取り上げた。ハーヴェイ・K・リトルトンの2作品や木越あいの《希望》では、被せガラスの技法を用いた複雑なグラデーションや立体的な色の構成に着目した。また本章の後半では、ガラスと異素材(特に金属箔)を組み合わせ、ガラスだけでは表現できない微妙な色合いや独特の質感を表現するトマーシュ・フラヴィチカの《SPECIALIST》、塚田美登里の《硝酸》を紹介した。

重ねる表現は、ガラスの内部を見るものばかりではない。「3. 量感を生み出す」では、ガラスを重ね、量感を感じさせる作品を紹介した。家住利男の《F.011203》は板ガラスを重ねて削り出し、研磨をくり返すことで、水のようなやわらかさや滑らかさを感じさせる。小島有香子の2作品は、板ガラスを重ね合わせて削り出した緊張感のある形の中に、自然の優しい光を表現することを試みている。本来は工業製品として作られた板ガラスは芸術表現と結びつけづらいようにも思われるが、本章を通して、板ガラスがアートの素材として変貌を遂げた姿を感じていただけたのではないだろうか。

2023年12月に開幕した本展は、令和6年能登半島地震の被害を受けたが、作品の固定方法の強化やより安定性の高い作品への一部展示替えを経て、1月15日より再開した。出品作品に見る、重ねることで得られる様々な表情は、透明なガラスならではの表現だと言える。多様な重ねる表現を通して、ガラス素材の魅力にも親しんでいただける機会を提供できたのではないかと考える。

(米田結華)

Nature in Glass

As Toyama Prefecture abuts Toyama Bay on the Japan Sea to the north, and encompasses the Chubu-Sangaku National Park, occupying a stretch of the Tateyama Mountain Range and Northern Alps, to the south, local residents savor the blessings of the magnificent natural environment and beautiful scenery on a daily basis. Moreover, glass artists, each with a unique culture and background, create works that are inspired by familiar natural entities, such as the forms of animals and plants in their surroundings, scenes that grew out of diverse types of energy, including light, heat, and wind, and the abundant gifts of the sea and fields. While their perception and creative approach may vary, the artists' concerns are apparent through their focus on the continuous workings of the earth, and their close relationship with nature. Divided into three themes, this exhibition, introducing works by artists who are interested in the relationship between nature and people, is drawn from the museum collection. It also includes three new acquisitions.

In the first section, "The Energy of Nature," we focus on works that reveal and visualize the powerful energy contained in natural scenery and the forms of vibrant plants and animals. In pieces such as Lada SEMECKÁ's Aqua Plate and Sun Plate (inspired by the elements of sunlight and water), and Alena MATĚJKA's Windmills (recalling the wind that powers a turning windmill), natural phenomena and their resultant energy are familiar presences to us. Meanwhile, works such as TSUKADA Midori's Beams of light through the forest trees #2, capturing a scene from a growing bamboo forest, and Blue Coral, evoking the motion of waves along with the sea and all of the living things it contains, deal with different types of energy that are active in nature

In the second section, titled "Living With Nature," we present works that concentrate on nature's relationship with human activities while also standing in awe of nature's bounties and threats. The pieces deal with various types of natural connections through diverse approaches to nature in life and culture. The works include OHGITA Katsuya's *Rain Falling on the Sea*, which gives form to everyday feelings rooted in living side by side with unseasonable weather and disasters; Howard BEN TRÉ's *Large Basin*, which expresses a connection with water inspired by purification rituals in which people wash their hands in a basin; and Kirstie REA's *Blade* and *Waiting for rain*, which address changes in the natural landscape caused by agriculture, and symbiotic relationships between nature and people that are based on human demands.

In the third section, "Walking Through Nature," we introduce works that were inspired by dialogues with nature, as artists step away from daily life and wander through different areas. In Kirstie Rea's *What remains* and Lada Semecká's *Landscape XX*, the artists express feelings and sensations related to a given place in their surroundings through abstract colors and shapes. These works, conveying a philosophical message, are informed by a new way of looking at landscapes, which calls up emotions and experiences that have been lost in the course of everyday life through an acceptance of the natural cycle.

This is an era in which more and more questions are being raised about the relationship between nature and people, as it relates to climate change, environmental destruction, and other concerns. As it happened, the 2023 Noto Peninsula Earthquake occurred in May during the exhibition, calling our attention once again to the surrounding natural environment. With this in mind, we approached the museum collection by considering how we are connected to nature and how we might coexist with it. Through this exhibition, it is our hope that you will have an opportunity to think about familiar surroundings and reconsider how you relate to your own natural environment.

(TAKAHASHI Yuka, translated by Christopher STEPHENS)

Glass: Layered Depth

Layered effects can be seen in many works in glass: stacking multiple panels of thin sheet glass, layering colored glass over glass of a different color, creating forms by cutting away layered glass. Works created by making effective use of transparency, the quality almost synonymous with glass, include unique styles possible only through layering: distinctive three-dimensional effects through the transmission of colors and motifs from lower layers and visual effects from complicated reflections or refractions of light. This exhibition, with its focus on layering as a mode of expression and as an action that draws out the characteristics of glass to the full, introduced work from the collection in terms of three themes.

Section 1, "Achieving Depth," focused on three-dimensional effects generated within a work by drawing images or motifs on sheets of glass and then layering them. In works by WATANABE Chiemi, Jaroslav ŠÁRA, and Bohumil ELIÁŠ, images were applied to transparent glass and the glass layered to create three-dimensional effects. Their approach makes the viewer sense a broader space within the glass than is actually the case. Pavel MRKUS's *IN BETWEEN II* focused on an uncanny effect possible only with transparent glass, where the patterns on both sides of the vessel intersect three dimensionally, creating a visual effect.

Section 2. "Weaving Colors," considered works in which glass, the material, overlays another color of glass or a different type of material to generate a variety of hues. With two works by Harvey K. LITTLETON and *Hope* by KIGOSHI Ai, we focused on the complex gradations and composition of three-dimensional colors produced using the cased glass technique. The latter half of this section introduces Tomáš HLAVIČKA's *SPECIALIST* and TSUKADA Midori's *Lace of Scales*, works in which a combination of glass and other materials (especially metallic foil) create subtle color combinations and distinctive textures not possible with glass alone.

Layering is not confined to the interior of glass. Section 3, "Generating a Sense of Presence," introduced works in which glass is layered and makes us feel a sense of space. IEZUMI Toshio's F.011203 was created by repeatedly layering sheet glass, grinding it, and polishing it to give a sense of softness and smoothness, like water. The two works by KOJIMA Yukako are experiments in expressing natural, gentle light through forms ground out of layered sheet glass. It might seem difficult to connect sheet glass, an industrial product, with artistic expression, but through the works in this section, one can sense the form transformed from sheet glass used in creating art.

This exhibition, which opened in December 2023, suffered some damage from the 2024 Noto Peninsula Earthquake, but after upgrading the techniques used to stabilize the works and replacing some with more highly stable works, the exhibition reopened on January 15. The various modes of expression achieved by layering demonstrated in these exhibits are unique to transparent glass. By presenting a variety of layering styles, we hope to have provided an opportunity to become more familiar with the appeal of glass as a material.

(YONEDA Yuika, translated by Ruth South McCREERY)

コレクション展

ガラスをめぐる自然

会 期:2023年6月10日(土)~12月3日(日)

会 場:展示室4、透ける収蔵庫

主 催:富山市ガラス美術館

料 金:一般 / 大学生 200 円 (170 円)、高校生以下無料

()は団体料金

関連プログラム

学芸員によるギャラリートーク

日 時: 2023年6月24日(土)、7月15日(土)、29日(土)、8月11日(金·祝)、26日(土)、9月9日(土)、30日(土)、10月21日(土)、11月3日(金·祝)、25日(土) (各回14:00~)

会 場:展示室 4、透ける収蔵庫

かさねのガラス

会 期:2023年12月9日(土)~2024年6月2日(日)

会 場:展示室4、透ける収蔵庫

注 催:富山市ガラス美術館

料 金:一般/大学生200円(170円)、高校生以下無料

()は団体料金

関連プログラム

学芸員によるギャラリートーク

日 時: 2023年12月24日(日)、2024年1月21日(日)、 2月10日(土)、25日(日)、3月2日(土)、17日(日)、 4月7日(日)、21日(日)、5月5日(日)、19日(日)、6 月1日(土)(各回14:00~)

※ 2024 年 1 月 6 日 (土) は臨時休館のため中止

会 場:展示室 4、透ける収蔵庫

Collection Exhibition

Nature in Glass

Period: June 10 - December 3, 2023

Venue: Exhibition Room 4, Transparent Storage Organized by Toyama Glass Art Museum

Admission: ¥200 (¥170)

High school students and younger: free Groups of 20 or more: price in brackets

Related Programs

Curator's Talk

Date & time: June 24, July 15, 29, August 11, 26, September 9, 30, October 21, November 3, 25, 2023 14:00-Venue: Exhibition Room 4, Transparent Storage

Glass: Layered Depth

Period: December 9, 2023 - June 2, 2024 Venue: Exhibition Room 4, Transparent Storage Organized by Toyama Glass Art Museum

Admission: ¥200 (¥170)

High school students and younger: free Groups of 20 or more: price in brackets

Related Programs

Curator's Talk

Date & time: December 24, 2023, January 21, February 10, 25, March 2, 17, April 7, 21, May 5, 19, June 1, 2024 14:00-

*Canceled on January 6, 2024 due to temporary closing Venue: Exhibition Room 4, Transparent Storage



ガラスをめぐる自然 展示風景 Nature in Glass installation view



かさねのガラス 展示風景 Glass: Layered Depth installation view

作品リスト List of Works

作品番号 作品名

作家名

Artist name	No.	Title	Year of Production	Material&Technique	Dimensions (cm)	Page No.
ガラスをめぐる自然 Natur	e in Glas	SS				
1 自然のエネルギー /The Er	nergy of	Nature				
塚田 美登里 TSUKADA Midori	01	光林 #2 Beams of light through the forest trees #2	2013	フュージング、サギング、コールドワーク fused, sagging, coldwork	58.0 × 49.0 × 35.0	p.27(上)
エマ・ヴァルガ Emma VARGA	02	Awaiting Spring #3 - Pink Buds	2013	フュージング、キャスト、研磨 fused, cast, polished	56.1 × 22.22 × 5.08	p.27(上)
アレシュ・ヴァシーチェク Aleš VAŠÍČEK	03	Nukleus	1997	キルンキャスト kiln casted	Diam85.5 × D18.5	p.27(上)
ラダ・セメツカ Lada SEMECKÁ	04	サンプレート Sun Plate	2009	キルンキャスト、スランピング、カット、研磨 kiln casted, slumped, cut, polished	8.0 × 42.0 × 42.0	p.26(下)
	05	アクアプレート Aqua Plate	2009	キルンキャスト、スランピング、カット、研磨 kiln casted, slumped, cut, polished	8.0 × 51.0 × 35.0	p.26(下)
ベンジャミン・イードルス&キャ シー・エリオット	06	グルーヴ Groove	1998	宙吹き、カット blown, cut	H73.0	p.26(下) p.70(左)
Benjamin EDOLS & Kathy ELLIOTT	07	青い珊瑚 Blue Coral	1997	宙吹き、カット blown, cut	26.0 × 26.0 × 24.0	p.26(下) p.70(左)
アレナ・マチェイカ Alena MATĚJKA	08	風車 Windmills	2006	アラバスター alabaster	58.0 × 46.0 × 11.0	p.26(下)
	09	風車 Windmills	2012	鋳造ガラス、研磨 mold-melted glass, polished	58.0 × 46.0 × 11.0	p.26(下)
茂木 里恵 MOTEGI Satoe	10	雨滴 II Rain drop II	2002	スランピング、接着 slumped, sticked	20.0 × 40.0 × 40.0	p.26(下)
2 自然と生きる /Living With	Nature					
ハワード・ベン・トレ Howard BENTRÉ	11	大水盤 Large Basin	1999	鋳造ガラス、赤色酸化鉄、サベリ材 cast glass, red iron oxide, sapele wood	84.77 × 156.21 × 33.02	p.26(上)
カースティ・レイ Kirstie REA	12	刃 Blade	2004	キルンワーク、カット kiln formed and wheel cut glass	112.0 × 21.0 × 9.0	p.26(上)
	13	雨を待つ Waiting for rain	2017	キルンワーク、レーキ kiln formed glass, rake	155.0 × 44.0 × 22.0	p.26(上)
扇田 克也 OHGITA Katsuya	14	海に降る雨 Rain Falling on the Sea	2011	色ガラスパウダー、コールド・キャスト colored glass powder, cold cast	23.5 × 37.0 × 16.3	p.26(上)
リノ・タリアピエトラ Lino TAGLIAPIETRA	15	アフリカ Africa	2014	吹きガラス、ケーン、ムッリーネ double-blown glass with canes and murrine	67.0 × 43.0 × 43.0	p.26(上)
3 自然を歩く /Walking Thro	ugh Nat	ure				
ヤン・フィシャル Jan FIŠAR	16	砂漠の発見 Desert Find	1999	キルンワーク kiln work	23.0 × 44.0 × 11.0	p.27(下)
ラダ・セメツカ Lada SEMECKÁ	17	Landscape XX	2006	スランピング、カット、エングレーヴィング、研磨 slumped, cut, engraved, polished	3.5 × 44.0 × 31.0 (各 /each)	p.27(中)
		Landscape XXI	2006	スランピング、カット、エングレーヴィング、研磨	3.5 × 44.0 × 31.0	p.27(中)
	18	Lanuscape AAI		slumped, cut, engraved, polished	(各 /each)	

制作年 素材·技法

作品サイズ (H × W × D) (cm)

71

作家名 Artist name	作品番号 No.	号 作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material&Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	ページ Page No.
かさねのガラス Glass: I	Layered De	epth				
1 深みをなす Achieving	Depth					
渡辺 知恵美 WATANABE Chiemi	01	清流の燈 A light of the clear stream	2018	高透過板ガラス、アクリル絵の具、エングレーヴィング、象嵌、接着、研磨 high transmission glass, acrylic, engraving, inlaid, glued, cold-worked	10.0 × 100.0 × 25.0	p.28(上)
ヤロスラフ・シャーラ Jaroslav ŠÁRA	02	緑のライオン LEO VIRIDIS	2021	ガラス、木、エングレーヴィング glass, wood, engraving	90.0 × 90.0 × 10.0	p.28(上)
ボフミール・エリアッシュ Bohumil ELIÁŠ	03	マイクロワールド Microworld	2003	積層ガラス、エナメル彩色 laminated, enamel painted	24.5 × 24.5 × 13.0	p.28(上)
パヴェル・ムルクス Pavel MRKUS	04	IN BETWEEN II	2003	スランピング、サンドプラスト slumped, sandblasted	10.0 × 80.0 × 80.0	p.28(上)
2 いろを織りなす Weav	ing Colors					
ハーヴェイ・K・リトルトン Harvey K. LITTLETON	05	内包された運動 Implied Movements	1988	被せガラス、カット cased, cut	各 H101.6 (6 点組) each: H101.6 (set of 6)	p.28(下)
木越 あい KIGOSHI Ai	06	希望 Hope	2002	宙吹き、研磨、サンドプラスト blown, polished, sandblasted	23.0 × 22.0 × 25.0	p.70(右)
中村 敏康 NAKAMURA Toshiyasu	07	樹 (春) Tree(spring)	2015	カット、吹きガラス cut, blown	H27.0 × ϕ 25.0	p.70(右)
ハーヴェイ・K・リトルトン Harvey K. LITTLETON	08	黄色の冠 II Yellow Crown II	1984	被せガラス、カット cased, cut	54.61 × 58.42 × 55.88	p.28(下) p.70(右)
小林 頁 KOBAYASHI Mitsugi	09	熔 Melt	1998	吹きガラス、被せガラス、カット blown, cased, cut	33.5 × 54.0 × 21.0	p.28(下)
トマーシュ・フラヴィチカ Tomáš HLAVIČKA	10	スペシャリスト SPECIALIST	2004	金箔、銀箔、カット、研磨、接着 gold leaf, silver leaf, cut, polished, glued	17.0 × 84.0 × 20.0	p.28(下)
塚田美登里 TSUKADA Midori	11	硝鱗 Lace of Scales	2012	キルンワーク、コールドワーク kiln-worked, cold-worked	36.5 × 46.5 × 46.5	p.28(下)
3 量感を生み出す Gene	rating a Ser	nse of Presence				
家住 利男 IEZUMI Toshio	12	F.011203	2003	板ガラス、接着、研磨 sheet glass, glued, carved, polished	25.0 × 31.0 × 31.0	p.29(上)
ヴァーツラフ・ツィグレル Václav CIGLER	13	PYRAMID	1990	カット、研磨 cut, polished	29.0 × 24.0 × 24.0	p.29(上)
家住 利男 IEZUMI Toshio	14	P.041199	1999	熱線反射板ガラス、接着、研磨 heat reflecting glass, glued, carved, polished	120.0 × 25.0 × 7.0	p.29(下)
小島有香子 KOJIMA Yukako	15	Layers of Light -MOON- #5	2008	積層、研磨 laminated, cold-worked	11.5 × 50.0 × 50.0	p.29(下)
	16	Layers of Light -Night-	2011	積層、研磨 laminated, cold-worked	13.0 × 74.5 × 21.5	p.29(下)

72

新規収蔵作品

New Acquisitions

新規収蔵作品 (2023 年度) New Acquisitions 2023

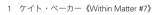
作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	
石井康治 ISHII Koji	風	1988	ガラス glass	34.5 × 35.0 × 19.5	寄贈
	流文モザイク盤	1988	ガラス glass	17.0 × 57.0	寄贈
	彩霞	1990	ガラス glass	41.0 × 34.0 × 12.5	寄贈
	彩烈紋器	1991	ガラス glass	42.0 × 28.0 × 28.0	寄贈
	環象文器	1993	ガラス glass	36.5 × 31.5 × 31.5	寄贈
	炎晶	1984	ガラス glass	60.0 × 20.0	寄贈
	赫い花	1990	ガラス glass	72.0 × 20.0 × 17.0	寄贈
	金彩流文大皿	1992	ガラス glass	9.5 × 63.0 × 63.0	寄贈
	彩花文器	1996	ガラス glass	44.0 × 24.0	寄贈
	テーブルランプ	1996	ガラス glass	53.7 × 33.4 × 20.7	寄贈
伊藤孚 ITO Makoto	宙吹硝子 巻紙	1985	吹きガラス blown glass	34.5 × 13.3 × 11.2	寄贈
佐々文夫 SASSA Fumio	オーナメント「APOSTROPHE」 Ornament "APOSTROPHE"	1955	クリスタルガラス crystal glass	4 点 /4 pieces、 15.8 × 11.0 × 11.0、16.3 × 11.0 × 11.0、16.0 × 12.0 × 12.0、16.7 × 12.0 × 12.0	寄贈
	オブジェ Object	1957	クリスタルガラス crystal glass	19.0 × 12.3 × 12.3	寄贈
	オプジェ「DUET FANTASY」 Object "DUET FANTASY"	1980	クリスタルガラス、宙吹き、カット crystal glass, blown, cut	22.0 × 22.5 × 22.5	寄贈
佐々文夫/保谷クリス タル硝子製造所 SASSA Fumio, Hoya	クリスタルサラダボール Crystal Salad Bowl	1956	クリスタルガラス crystal glass	6.1 × 14.9 × 14.9	寄贈
Glass Works Ltd.	クリスタルサラダボール Crystal Salad Bowl	1957	クリスタルガラス crystal glass	大/large: 7.5 × 25.7 × 25.7、 小/small: 4.5 × 12.7 × 12.7	寄贈
菅澤利雄、株式会社保 谷硝子 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	JAL タンプラー JAL tumbler	デザイン (design) : 1980 年代 (1980s)	クリスタルガラス crystal glass	8.9 × 6.0 × 6.0	寄贈
HOTA corporation	JAL グラスライン -1 JAL GLASS line-1	デザイン (design): 1983	クリスタルガラス crystal glass	3 点 /3 pieces、 10.9 × 6.8 × 6.8、10.8 × 5.9 × 5.9、7.9 × 6.9 × 6.9	寄贈
菅澤利雄、HOYA 株式会社 SUGASAWA Toshio, HOYA Corporation	デスク時計 Desk Clock	デザイン (design) : 1991	クリスタルガラス crystal glass	13.0 × 14.0 × 14.0	寄贈
	ステムウェア・ライン「エンタシス」 Stemware Line "Entasis"	デザイン (design): 1985-1986、 1996 (Martini)	クリスタルガラス crystal glass	4点/4 pieces、18.3 × 8.5 × 8.5、19.5 × 9.5 × 9.5、23.5 × 5.0 × 5.0 × 15.8 × 11.5 × 11.5	寄贈
高橋禎彦、田嶋悦子 TAKAHASHI Yoshihiko, TASHIMA Etsuko	Y & E ∕ 1998 G A S	1998	ガラス、陶 glass, ceramic	可変 dimensions variable	寄贈
明道長次郎 MYODO Chojiro	草花文グラヴュール硝子鉢 Glass Bowl with Engraved Design of Grass and Flowers	1940	グラヴィール engraved glass	24.7 × 14.5 × 14.5	寄贈
	明道長次郎関係資料	1930 年代頃	紙、スケッチブック paper, sketchbook		寄贈

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材·技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	
	Ken コレクション(36 件)* Ken collection(36 works)	1930-1940 年代頃	*Ken コレクション:購入分 10 件と合わせて全 46 件から7 は岩田藤七、各務鑛三、小柴外一、佐藤潤四郎、青野 源一、宮代健三の作品と各務クリスタル製作所、岩城硝・	武市、高木茂、吉田丈夫、江頭	寄贈
淡島雅吉(小畑雅吉) AWASHIMA Masakichi (OBATA Masakichi)	鳥竹文様鉢 Bowl with Birds and Bamboo Design	1936-1942 年頃 (c.1936-1942)	グラヴィール engraved glass	14.0 × 21.5 × 21.5	購入 (Ken コレク ション)
岩田藤七 IWATA Toshichi	吹込みルビー色硝子銀花生 Silver Vase with Ruby Blown Glass	1928	吹きガラス、銀 blown glass, silver	28.0 × 15.5 × 14.0	購入 (Ken コレク ション)
小川雄平 OGAWA Yuhei	雛 置物 Figurine, "Young Birds"	不詳 unknown	ガラス、キャスト glass, cast	8.5 × 11.0 × 8.0	購入 (Ken コレク ション)
各務クリスタル製作所 Kagami Crystal Works	タンプラー(T-37 スモーク)	不詳 unknown	吹きガラス blown glass	6 点組 /6 sets、 各 /each 10.8 × 6.4 × 6.4	購入 (Ken コレク ション)
	カップ&ソーサー(ブルー)	不詳 unknown	吹きガラス blown glass	6 点組 /6 sets、カップ /cup 約 7.0 × 7.0 × 9.0、ソーサー /saucer 約 1.9 × 13.0 × 13.0	購入 (Ken コレク ション)
	カップ&ソーサー	不詳 unknown	吹きガラス blown glass	6 点組 /6 sets、カップ /cup 約 6.0 × 7.5 × 7.5、ソーサー /saucer 約 2.0 × 13.0 × 13.0	購入 (Ken コレク ション)
各務鑛三 KAGAMI Kozo	宝相華硝子花瓶 Vase with Hosoge Design	不詳 unknown	グラヴィール engraved glass	35.2 × 19.8 × 19.8	購入 (Ken コレク ション)
	人物模樣硝子花瓶 Vase with Figure Design	不詳 unknown	グラヴィール engraved glass	30.0 × 20.0 × 10.0	購入 (Ken コレク ション)
小柴外一 KOSHIBA Sotoichi	あざみ花盛 Vase with Thistle Design	1937 頃 (c.1937)	パート・ド・ヴェール påte de verre	18.0 × 14.2 × 14.2	購入 (Ken コレク ション)
降旗正男 FURIHATA Masao	梅花文花盛 Flower Basin with Plum Blossom Design	1940 頃 (c.1940)	ガラス glass	13.3 × 36.0 × 14.0	購入 (Ken コレク ション)
ケイト・ベーカー Kate BAKER	Within Matter #7	2020	デジタル印刷されたガラスパネル、軟鋼 Digitally printed glass panel mounted on mild steel	110.0 × 120.0 × 85.0	購入
マリア・ルゴッシー Mária LUGOSSY	Primary Rocks V	1990	ガラス glass	60.0 × 37.0 × 18.0	購入
	Cell Formation	1991	ガラス glass	30.0 × 64.0 × 36.0	購入
高橋禎彦 TAKAHASHI Yoshihiko	謎 Enigma	2023	吹きガラス blown glass	21.0 × 30.0 × 30.0	購入
	そだつこと Growing	2023	吹きガラス blown glass	34.0 × (口径) 17.0 × 30.0	購入
	しるし Signs	2023	吹きガラス blown glass	38.0 × (口径) 15.0 × 20.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	48.5 × 15.0 × 23.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	50.0 × 15.0	購入
	越碧花入れ Koshino Ao Glass Vase	2023	吹きガラス blown glass	48.0 × (base) 16.0 × 24.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	40.0 × (base) 16.0 × 20.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	48.5 × (base) 19.0 × 22.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	44.0 × (base) 14.0 × 14.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	51.5 × (base) 18.0	購入

作家名 Artist name	作品名 Title	制作年 Year of Production	素材 · 技法 Material & Technique	作品サイズ (H × W × D) (cm) Dimensions (cm)	
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	55.0 × (base)15.0 × 15.0	購入
	おぼえているために To Be Remembered	2023	吹きガラス blown glass	57.5 × (base)17.5 × 26.0	購入
安田泰三 YASUDA Taizo	越翡翠レティチェッロ文大鉢 Koshino Hisui Glass Bowl with Reticello Design	2023	吹き、レース blown, lace glass	径 /Diam.: 35.0	購入
	越碧レティチェッロ文大鉢 Koshino Ao Glass Bowl with Reticello Design	2023	吹き、レース blown, lace glass	径 /Diam.: 38.0	購入

新規収蔵作品画像 (抜粋)







2 岩田藤七《吹込みルビー色硝子銀花生》



3 伊藤孚《宙吹硝子 巻紙》



4 石井康治《風》



5 佐々文夫《オブジェ「DUET FANTASY」》

教育普及活動

Educational Activity

富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館 学校招待プログラム

「富山市ガラス美術館・富山市立図書館本館 学校招待プログラム」は、富山広域連携中枢都市圏(富山市・滑川市・舟橋村・上市町・立山町)の小学4年生を富山市ガラス美術館および富山市立図書館本館に招待し、展示作品の鑑賞や施設見学を行うものである。美術館では豊かな感性を育むこと、図書館では知識教養を深めることをねらいとして、2015年の開館当初より継続的に実施している。

本年度も令和3年度以降の実施方法を引継ぎ、60分のプログラムで常設展の鑑賞と対話による振り返りを行った。これに加え、昨年度実施した際の状況や参加校の先生方と意見交換を行った際の内容を踏まえ、新たな試みや内容の改善を図った。お世話になった先生方には、この場を借りてお礼を申し上げたい。

本年度は①鑑賞スタッフによる対話、②参加校との連携の2点から、プログラムの充実化を図った。鑑賞スタッフによる対話について、これまでは美術館での3つの約束(作品にはさわらない、ゆっくり歩こう、お話は小さな声で)を細かく、くり返し伝えており、やや一方的な口調になりがちな印象もあった。これに代えて、本年度ははじめの挨拶でガラスの印象や特性、作品を見る時に気をつけることなどを鑑賞スタッフからの問いかけで引き出し、子どもたちが主体的にルールを守る姿勢を促した。

参加校との連絡については、今年度より引率者向けの参加ガイドを作成した。同ガイドには参加日時等の基本情報の他、よくある質問についても記載し、スムーズなプログラム運営につながったと考える。また、事後学習用のツールとしてコレクション展の作品リストを新規作成し、全参加校に送付した。リストには当館の収蔵品検索システムの二次元コードを掲載し、パソコンやタブレットで読み込むことで帰校後も作品情報に触れられるようにするなど、現在の小学生の学習スタイルを意識した形式とした。

本年度のプログラムには、計78校3,474名の児童が参加した。コレクション展「ガラスをめぐる自然」では、色や形、模様などを手がかりに、子どもたちが作品からイメージしたことを話し合っていた。特に、作品の印象を身近なものに例える、生活の中で見聞きした情報と結び付けようとするなど、自らの経験に基づき、小学4年生ならではの視点で感じたことを語る様子が多く見られた。今回は敢えて作品鑑賞のルールを細かく説明しなかったが、子どもたちは言われずともルールを守りながら鑑賞しており、主体的な姿勢を引き出すことの重要性が感じられた。

本年度の改善案がプログラムの充実化につながったと感じる一方、移動用のバス手配が年々困難になっており、今後もより一層柔軟な対応が求められるであろうことを実感した。今後も多くの子どもたちに充実したプログラムを継続的に提供できるよう、状況の変化に対応しながら工夫を続けていきたい。

(米田結華)

Toyama Glass Art Museum & Toyama City Library Invitation Program for Schoolchildren

The Toyama Glass Art Museum & Toyama City Library Invitation Program for Schoolchildren involves fourth graders from elementary schools in Greater Toyama Cooperation Core Cities (Toyama, Namerikawa, Funahashi Village, and the towns of Kamiichi and Tateyama) being invited to the Toyama Glass Art Museum and the Toyama City Library to view artworks and tour the facilities. The program has operated continuously since the building opened in 2015 with the aim of fostering an acute sense for art at the museum and deepening knowledge and education at the library.

This year, following the approach implemented since FY2021, participants viewed the permanent exhibition and reviewed their experience by way of a discussion as part of a 60-minute program. Based on the circumstances of last year's program and on an exchange of opinions with teachers from participating schools, an effort was also made to include new content and improve existing content. I would like to take this opportunity to thank the teachers involved.

We sought to enrich the program this year with respect to communication from viewing staff, and cooperation with participating schools. Until now, viewing staff had conveyed repeatedly in detail the three rules at the museum—do not touch the artworks, walk slowly, talk in a low voice—and there was also the impression that their manner of talking tended to be somewhat unilateral. This year, however, the children were encouraged to obey the rules on their own initiative by prompting a discussion about the impressions and properties of glass and what to be careful about when looking at artworks, based on questions from the viewing staff during the initial greeting.

Regarding cooperation with participating schools, from this year a participation guide was prepared for those leading groups of visitors. In addition to basic information such as dates and times, the guide includes FAQs, and should lead to smoother running of the program. As well, a list of works in the collection exhibition was newly prepared as a post-visit learning tool and sent to all the participating schools. The list was formatted with the current learning style of elementary school students in mind by, for example, including the 2D barcodes from the museum's collection search system so that participants could interact with information about the works even after returning to school by reading these with a computer or tablet.

A total of 3474 individuals from 78 schools participated in this year's program. In conjunction with the Collection Exhibition Nature in Glass, the children discussed the things they imagined from the works based on their colors, shapes and patterns. In particular, many of the children spoke about what they felt from perspectives peculiar to fourth graders based on their own experiences, comparing their impressions of the works to familiar things and trying to connect them to information gained as part of their everyday lives, for example. This time, although no particular effort was made to explain in detail the rules around viewing artworks, the children still obeyed the rules without being told, underscoring the importance of eliciting a responsible attitude.

While I felt that this year's plan for improvements led to the enrichment of the program, at the same time arranging buses to transport participants is getting more difficult year by year, and I got a real sense that a more flexible approach will probably be needed in the future. I would like to continue to come up with solutions while responding to changes in the circumstances of the program so that we can offer a comprehensive program to as many children as possible going forward.

(YONEDA Yuika, translated by Pamela MIKI)



コレクション展 作品カード (表) Artwork card (Front)

作品名:《アフリカ》 作者:リノ・タリアピエトラ

制作年:2014年

問いかけの例

- ・この作品のイメージや雰囲気について、お家の人や他の 学年のお友達 (=作品を見ていない人) に伝えるとした ら、どんな風に伝えますか?
- この作品は何に見えますか?
- 模様はどうですか?指で空に描いてみましょう。
- この作品の中で、面白いな、気になるなと思う所はどこですか。

その他の情報

・作者のタリアピエトラさんはこの作品の中で、アフリカの木の形や色鮮やかな民族衣装など、自然と深いかかわりを持つ人々の暮らしに注目しています。

コレクション展 作品カード (裏) Artwork card (Back) *児童への問いかけの例や、鑑賞のヒントとなる補足情報を記載した。 * Supplementary information was listed on the back as assistance for appreciation.



2023年6月9日(土)から2023年12月3日(日)ま 会場:富品市ガラス英術館4階 展示宣4-通ける収蔵庫



No.の機に大がついている作品は、ガラス美術館ウェブサイトの収斂高級素システムで作品の事具や・ 「機能を見ることができます。作業名や作品名でさがしてみてください。

東システムはこちらも (toyama-glass-art-museum.jp/collection_search/

oyama-gi	lass-art-mu	seum.jp/co	ollection_	searc
ネルギー				

v		作家名(作った人)	726	作られた年
	*	Vii Aźź	₩# #Ž	2013 年
	*	エマ・ヴァルガ	Awaiting Spring #3 - Pink Buds	2013年
		アレシュ・ヴァシーチェク	Nukleus	1997 年
	*	ラダ・セメツカ	サンプレート	2009 #
	*	ラダ・セメツカ	アクアプレート	2009 #
	*	ペンジャミン・イードルス& キャシー・エリオット	グルーツ	1998#
	*	ペンジャミン・イードルス& キャシー・エリオット	常い前前	1997年
	*	アレナ・マチェイカ	8.0	2006年
Ī	*	アレナ・マチェイカ	5.4	2012 #

No.	作家名(作った人)	##8	作られた
II *	ハワード・ベン・トレ	矢米盤	1999
12	カースティ・レイ	'n	2004
13	カースティ・レイ	商を持つ	2017
14 *	製品 友任	海に落る南	20114
15 *	リノ・タリアピエトラ	アフリカ	2014

3. 首性を歩く

No.		作家名(作った人)	988	作られた
16	*	ヤン・フィシャル	砂油の発見	19991
17	*	ラダ・セメツカ	Condscope XX	2006
18	*	ラダ・セメツカ	Landscape XXI	2006
19		カースティ・レイ	とどまるもの	20191



コレクション展 作品リスト



鑑賞の様子(リノ・タリアピエトラ《アフリカ》2014年) Viewing the artwork (Lino TAGLIAPIETRA, *Africa*, 2014)

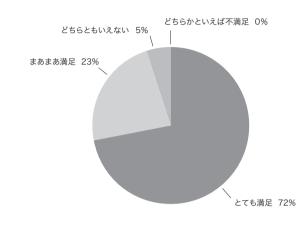


鑑賞の振り返り

引率者アンケートより

引率の先生方に向けたアンケートを実施し(回答は任意)、参加校78校のうち56校から回答があった。以下に集計結果の一部を掲載する。

1. プログラム全体の満足度について



95%の引率者から「とても満足」「まあまあ満足」との回答をいただいた。特に美術館での作品鑑賞および鑑賞の振り返りについては、「貴重な体験ができた」「作品鑑賞の楽しみ方を知ることができた」などの感想が多く、美術館ならではの学びを体験していただけたことがうかがえる。

3. 事前・事後学習の内容について (一部抜粋・要約)

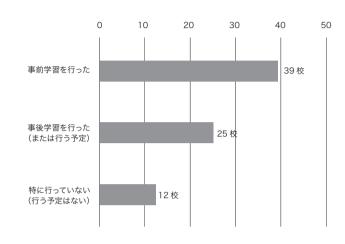
事前学習の内容

- ・美術館や図書館についてインターネットで調べた。
- ・公共施設の使い方や見学・鑑賞のマナーを説明したり話し合ったりした。
- ・美術館のプロモーションビデオを見て、知っていることを話し合った。
- ・参加前に図画工作科で光と影に関する単元を学習した。

事後学習の内容

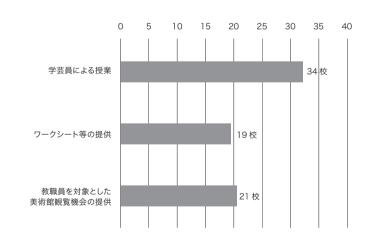
- ・心に残った作品や学んだことについて話し合った。
- ・家の人に感想を伝える宿題を出した。
- ・国語科「パンフレットを読もう」の応用として、見出しや写真の工夫に ついて話し合った。
- ・学校の図書室でもナンバリングや記号分けされていることを確認し、 本を借りた。
- ・ふりかえりシートを利用して心に残ったことを記入し、話し合った。

2. プログラム参加前後の学習について



引率者の約7割が事前学習を行い、半数近くが事後学習を行った(または行う予定である)と回答した。本プログラムに意欲的にご参加いただいていることがうかがえる。内容は当館より提供したツールを用いたものの他、各教科の学習内容と関連付けたものもあった。学習の具体例については、次項で紹介する。今後も本プログラムを学校での学びとより一層結び付けていけるよう、工夫を続けたい。

4. 連携活動の要望について



昨年度同様、学芸員による授業の要望が最も多く、半数以上を占めた。 授業内容については、所蔵作品や展示に関する授業を希望する回答が 最も多かった。また、教職員を対象とした観覧機会の提供も多くの要望 があり、美術館と学校とのつながりを作り出すために様々な形で働きか けを行っていくことが求められている。

その他の活動

Other Activities

寄稿

タイトル	掲載誌	執筆者	発行元	掲載年月日
「岩田藤七」	ウェブ版『日本のアーティスト事典』	土田ルリ子 (館長)	国立アートリサーチセンター	2023年6月
「[水のいろ、水のかたち] の豊富なパリエーション」	『現代の眼』オンライン版展覧会レビュー	土田ルリ子(館長)	国立工芸館	2023年7月
「アートグラス」や「ユニークビース」が放つ個性と創意 「フィンランド・グラスアート 輝きと彩りのモダン デザイン」展に寄せて	FHAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE』109 AUTUMN ISSUE 2023	土田ルリ子(館長)	山口県立萩美術館・浦 上記念館	2023年9月
「文化的催事における協働作業の重要性」	『旧友』霜月(11月号)	土田ルリ子(館長)	(一財) 富山県教職員厚 生会	2023年11月1日
「宮永愛子 詩を包む」	『炎芸術』No.156、2023 冬	浅田真帆(主任学芸員)	阿部出版	2023年11月1日
"Foreword" / "Toyama International Glass Exhibition 2021 amid the Coronavirus Situation"	Review on Glass』issue 10th	土田ルリ子(館長)	ICOM GLASS	2024年3月

講義・講演・発表等

講義·講演名	タイトル	会場	講師	日時
JIA 公益社団法人 日本建築家協会 富山地域総会	「ガラスの街とやまにおける富山市ガラス美術館の役割と 可能性」	富山国際会議場 特別会議室	土田ルリ子 (館長)	2023年4月15日(土)
第 61 回日本現代工芸美術展 記念講演会	「富山から世界へ!現代グラスアートの今、そして富山市 ガラス美術館の役割」	東京都美術館 講堂	土田ルリ子(館長)	2023年4月19日(水)
富山市民大学【現地学習】	「アナザーワールド: 不思議でリアルな世界」、「オノマトペで見つける、ガラスの不思議」	富山市ガラス美術館	渡部名祐子 (主任学芸 員)、米田結華 (学芸員) 浅田真帆 (主任学芸員)	2023年5月30日(火)
	「日本近現代ガラスの源流」、「ガラスをめぐる自然」	富山市ガラス美術館	中島春香、高橋由佳 (主 任学芸員)	2023年9月26日(火)
「佐藤弘隆 ホゲホゲ」関連プログラム ゲストトーク	テーマ「AIと創作」	ギャラリー無量	高橋由佳(主任学芸員)	2023年9月3日(日)
「フィンランド・グラスアート:輝きと彩りのモダンデザイン」講演会	講演会「フィンランド・グラスアートの魅力」	山口県立萩美術館·浦 上記念館	土田ルリ子 (館長)	2023年9月16日(土)
ICOM GLASS Annual Meeting 2023	"Exhibition about the Glass City, Toyama titled "Toyama Glass by \cdots "	チロル州立民族博物館、 インスブルック、オース トリア	土田ルリ子 (館長)	2023年9月26日(火)
GO FOR KOGEI 2023 国際シンポジウム「アートと工芸をめぐる話」supported by 三菱 UFJ 銀行	1部「富山市ガラス美術館と国際コンベー世界と日本のガラス工芸を刺激する」 2部 パネルディスカッション	富山国際会議場 多目的会議室	土田ルリ子 (館長)	2023年10月21日(土)
松川茶屋 まちなか水辺遊び 富山市ガラス美術館 館長 土田ルリ子さんをお招きして	1部「東京 サントリー美術館から富山市ガラス美術館へ」 2部「ガラスビーズの万華鏡づくり体験」	松川茶屋 (富山城址公園内)	土田ルリ子 (館長)	2023年11月12日(日)
「フィンランド・グラスアート:輝きと彩りのモダンデザイン」 講演会	講演会「フィンランド・グラスアートの魅力」	岐阜県現代陶芸美術 館(セラミックパーク MINO イベントホール)	土田ルリ子(館長)	2024年1月13日(土)
富山市民大学 特別講義	「世界をわたる富山のガラス芸術」	富山市市民学習センター (市民プラザ)	土田ルリ子 (館長)	2024年1月17日(水)
「フィンランド・グラスアート:輝きと彩りのモダンデザイン」記念講演会	記念講演会「フィンランド・グラスアートの魅力」	兵庫陶芸美術館	土田ルリ子(館長)	2024年3月16日(土)

実習・受入等

活動名	日時	受入人数	講師
14歳の挑戦	2023年7月10日 (月) ~7月14日 (金)	4名	牧野仁美(館長代理)ほか
博物館実習	2023年8月21日 (月) ~8月25日 (金)	3名	西田真(学芸員)、小川果歩(学芸員)ほか
校外学習受入	2023年11月29日 (水)	70名程度	牧野仁美(館長代理)、 古澤かおり(主任学芸員)

※役職名は 2023 年度当時のもの

79

資料

Appendix

82 概要・沿革

83 関連事業等

88 広報活動

91 2023年度来館状況

92 ギャラリー利用状況

93 施設概要

94 利用案内

1. 概要・沿革

(1) 概要

富山市ガラス美術館は、富山市がおよそ30年にわたり取り組んできた「ガラスの街とやま」の一環として、2015 (平成27) 年8月22日 (土) に開館した。本美術館は富山市立図書館本館などが入居する複合施設「TOYAMAキラリ」内に整備され、富山市の中心市街地に位置することから、文化芸術の拠点としてだけでなく、まちなかの新たな魅力創出を担っている。

世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっている。

また、内観は、2階から6階までの5層のフロアを斜めに突き抜ける吹き 抜けが特徴的で、それを包み込むように県産の杉を活用したルーバー(羽板) が少しずつ角度を変えながら、訪れる人々を導くように小気味よいリズム を刻んでいる。

本美術館は、常設展として、富山市所蔵の現代ガラス美術作品を展示するコレクション展をはじめ、展示室の壁面や図書館内に富山ゆかりの作家の作品を展示する「グラス・アート・パサージュ」がある。また、6階の「グラス・アート・ガーデン」には、現代ガラス美術の巨匠デイル・チフーリ氏の工房が制作したインスタレーション(空間芸術)作品を展示しており、建築と作品が織り成す空間を楽しむことができる。

このほか、企画展では1950年代以降の現代ガラス美術作品を中心に、 さまざまな美術表現を紹介している。



TOYAMAキラリ 外観



TOYAMAキラリ 内観

(2)「ガラスの街とやま」これまでの沿革

1985(昭和 60)年 4 月 富山市民大学ガラス工芸コース開設

1991 (平成 3) 年 4 月 富山ガラス造形研究所開校(富山市西金屋地内)

1994 (平成 6) 年4月 富山ガラス工房開設 (富山市古沢地内)

1998 (平成 10) 年 3 月 「ガラスの里」基本構想策定

2001 (平成 13) 年 3月 「ガラス美術館」基本構想策定

2008 (平成 20) 年 3 月 富山市長がガラス美術館を中心市街地で整備する意向を表明

2009(平成 21)年 3 月 「富山市ガラスの街づくりプラン」策定

2010 (平成 22) 年 3 月 「ガラスの里」宿舎棟及びアーティスト・イン・レジデンスを富山市西金屋地内に設置

2010 (平成 22) 年11月 「西町南地区の公益施設整備に関する基本構想」策定

2012 (平成 24) 年 1 月 「ガラスの里」にかわる新名称を公募し、「グラス・アート・ヒルズ富山」に決定

2012 (平成 24) 年 9 月 「グラス・アート・ヒルズ富山」に富山ガラス工房第 2 工房を開設

2015 (平成 27) 年 5 月 富山市西町南地区第一種市街地再開発組合事業施設建築物 (TOYAMA キラリ) 竣工

2015 (平成 27) 年 8 月 TOYAMA キラリ内に富山市ガラス美術館開館

2016 (平成 28) 年 1 月 富山市ガラス美術館来館者数 10 万人を達成

2017 (平成 29) 年 1 月 TOYAMA キラリ内公益施設 (富山市ガラス美術館及び富山市立図書館本館)来館者数 100 万人を達成

2018 (平成 30) 年 6 月 TOYAMA キラリ内公益施設来館者数 200 万人を達成

2018 (平成30) 年9月 富山市ガラス美術館にて国際公募展「富山ガラス大賞展2018」を初開催

2018(平成 30)年11月 富山市ガラス美術館来館者数 50 万人を達成

2019 (令和 元) 年 5 月 TOYAMA キラリ内公益施設来館者数 300 万人を達成

2020(令和 2)年11月 富山市ガラス美術館来館者数 100 万人を達成

2021 (令和 3) 年7月 富山市ガラス美術館にて国際公募展「富山ガラス大賞展 2021」を開催

2022 (令和 4) 年 8 月 TOYAMA キラリ内公益施設来館者数 500 万人を達成



富山ガラス造形研究所



富山ガラス工房第2工房

2 関連事業等

(1) ワークショップ「TOYAMAキラリオリジナル和菓子を作ろう!」 TOYAMAキラリの外観をイメージしたオリジナルの和菓子を作るワークショップを実施した。

日時: 2024年2月3日(土) ①10時~10時40分 ②11時~11時40分 会場: 2階Cafe 小馬キラリ店

(2)「ガラスの街とやま」としての展覧会やコンサートの開催 富山市が取り組んでいる「ガラスの街づくり」の機関である、ガラス作 家を育成する「富山ガラス造形研究所」の在学生等による展覧会や、ガラ ス制作を体験できる「富山ガラス工房」によるコンサートを開催した。

① 富山ガラス工房 ガラス製フラウト・トラヴェルソ&ピアノコンサート 富山市民の「ガラスの街とやま」と「SDGs 未来都市とやま」への関 心を高めるとともに、「ガラス芸術と舞台芸術の融合による富山らしい地 域文化の深化と振興」を期待して実施した。ガラス製フラウト・トラヴェルソと現代フルートにて演奏を行った。

日時:2023年6月25日(日)

会場:2階ロビー 主催:富山ガラス工房



ガラス製フラウト・トラヴェルソ&ピアノコンサート

ワークショップ「TOYAMAキラリオリジナル和菓子を作ろう!」

②富山ガラス造形研究所 コールドクラス展

「一層向こうへ-Beyond the Layer-」

造形科2年生のコールドクラスによる展覧会を開催した。ガラス作家を目指す学生が、作品制作や本美術館での展示に取り組み、実践を通して学びを深めた。

会期:2023年7月14日(金)~7月20日(木)

会場:ギャラリー1・2

主催:富山市(担当:富山ガラス造形研究所)



一層向こうへ-Beyond the Layer-

③ 富山ガラス造形研究所 アーティスト・イン・レジデンス 2023 展覧会 ヴェンドゥルカ・プラハロヴァー展

富山ガラス造形研究所の「アーティスト・イン・レジデンス 2023」 の事業として、チェコ共和国出身のヴェンドゥルカ・プラハロヴァー氏 が滞在制作の中で作り上げた作品を一堂に展示した。

会期:2023年12月2日(土)~12月10日(日)

会場:ギャラリー2

主催:富山ガラス造形研究所 公開事業実行委員会



ヴェンドゥルカ・プラハロヴァー展

④富山ガラス造形研究所 造形科1年生グループ展

「集積」-gathering and expanding-

造形科1年生が、1年間富山ガラス造形研究所で積み重ねた技術や 考えを軸に制作した作品を展示した。

会期:2024年1月27日(土)~2月2日(金)

会場:ギャラリー 1・2

主催:富山市(担当:富山ガラス造形研究所)



「集積」-gathering and expanding-

③ G7 富山・金沢教育大臣会合 エクスカーション

各国大臣や会合関係者を藤井市長、伊東名誉館長、土田館長等が出迎え、ガラス美術館の概要説明を行った。また、開催中の展覧会について担当学芸員が会場を案内した。

日時:2023年5月12日(金)

会場:TOYAMAキラリ

主催:G7教育大臣会合富山県委員会



G7富山・金沢教育大臣会合エクスカーション

⑤富山ガラス造形研究所 卒業制作展 2024

富山ガラス造形研究所による卒業制作展を開催し、造形科と研究科の卒業生による2年間の学びと研究の成果の発表を行い、未来のガラス作家たちの意欲あふれる作品を展示した。

会期:2024年2月10日(土)~2月18日(日)

会場:展示室3、ギャラリー1・2

主催:富山市(担当:富山ガラス造形研究所)



「卒業制作展2024」

④ライブラリー&ミュージアムコンサート

ガラス美術館の企画展に合わせてヴァイオリンやヴォーカル (ジャズ) のコンサートを開催した。

日時:2023年8月5日(土)、12月23日(土)

会場:2階ロビー

主催:富山市(担当:図書館交流行事運営委員会、ガラス美術館)



ライブラリー&ミュージアムコンサート

(3) その他の事業

①「令和5年度富山市公募提案型協働事業」事業説明会 (前年度事業報告会併催)

まちづくりのアイデアを提案し、提案者と市が協働で地域の課題解決に取り組む富山市公募提案型協働事業説明会及び報告会を行った。

日時: 2023年4月16日(日)

会場:2階ロビー

主催:富山市(担当:男女参画・市民協働課)



「令和5年度富山市公募提案型協働事業」事業説明会

⑤2023 富山市景観まちづくりフォーラム

TOYAMAキラリの設計に携わった建築家や大手モールの景観まちづくりに携わってきた有識者を招き、来場者参加型のトークセッションを実施した。

日時: 2023年9月23日(土) 10時~12時

会場:2階ロビー

主催:富山市(景観政策課)



2023富山市景観まちづくりフォーラム

②市民ミニコンサート

昼休みのひとときに開催している「市民ミニコンサート」を、今年度 は計9回開催した。

日時:2023年4月21日(金)、5月19日(金)、7月28日(金)、 8月4日(金)、8月18日(金)、12月1日(金)、12月15日(金)、

2024年1月19日(金)、3月15日(金)

会場:2階ロビー

主催:富山市(担当:文化国際課)



市民ミニコンサート

⑥スケッチオーデション 2023 Day0

産学官が連携して開催するビジネスプランコンテスト「スケッチオー デション2023」のプレイベントとして、講演、近況報告等を実施した。

日時: 2023年9月23日(土) 15時~17時

会場:2階ロビー

主催:とやま未来共創チーム(事務局:スマートシティ推進課)、 富山経済同友会、富山ニュービジネス協議会、富山大学



スケッチオーデション2023 Day0

ニコンサート

⑦第173回ナイトフォーラム「とやまで建築を仕事にする」

ゲストスピーカーに本瀬齋田建築設計事務所の本瀬あゆみ氏、齋田 武亨氏を迎え、講演及び軽食付きの交流会を開催した。

日時: 2023年9月28日(木) 会場: 2階 Cafe 小馬キラリ店 主催: 富山県総合デザインセンター



第173回ナイトフォーラム 「とやまで建築を仕事にする」

⑧富山映像大賞 2023

映像により本市の魅力を市内外に発信し、継続的な賑わい創出を目的とした公募型コンクール「富山映像大賞2023」の最終審査会、 授賞式を実施した。

日時: 2023年10月8日(日)13時~16時30分

会場:2階ロビー

主催:富山市(担当:まちづくり推進課)



富山映像大賞2023

⑨とやま未来創造ミーティング2023 とやまの価値を再発見しよう! 市民と行政との協同により「まちづくり」を考える市民討議会を開

日時: 2023年11月3日(金・祝) 会場: 2階 Cafe 小馬キラリ店

催した。

主催:公益社団法人 富山青年会議所



とやま未来創造ミーティング 2023

⑩市民交流事業 2023 ONE ワク

富山を拠点に活躍する建築家と高校生・大学生の建築イベント「ONE ワク」を開催した。

日時: 2023年11月18日(土) 会場: 2階 Cafe 小馬キラリ店

主催:公益社団法人 日本建築家協会北陸支部富山地域会



市民交流事業 2023 ONE ワク

①子ども未来会議

子ども・保護者の視点から、多様な学びの場を含めた 「誰一人取り残さない・質の高い教育」について話し合い、理解を深めることを

目的として開催した。

日時: 2024年1月20日(土) 10時~12時

会場:2階ロビー

主催:富山市 PTA 連絡協議会

共催:富山市教育委員会事務局(担当:学校再編推進課)



子ども未来会議

(4) TOYAMAキラリ自主防火・防災訓練の実施

TOYAMAキラリ内に勤務する職員(美術館、図書館、富山第一銀行、カフェ、ミュージアムショップ、施設管理委託業者)で、自主防火・防災訓練(被害状況の通報、消火、避難訓練など)を実施した。

日時: 2023年9月6日(水) 会場: TOYAMAキラリ



TOYAMAキラリ自主防火・防災訓練の実施

3. 広報活動

(1) 美術館案内

本美術館の概要、フロア案内、営業時間・アクセス等をまとめたパンフレット。館内に設置及び他施設等に配布している。

(日本語版・英語版・簡体字版・繁体字版)

(規格) A4三つ折 4c/4c 用紙: MTA + 四六判 110k



美術館案内 日本語版 表面



美術館案内 日本語版 中面

(2) 年間スケジュール

本美術館の年間の展覧会情報等をまとめたパンフレット。毎年作成し、美術館案内と同様に、 設置や配布等を行っている。

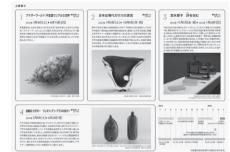
(日本語版・英語版)

(規格) A4三つ折 4c/4c

用紙:MTA + 四六判 110k



年間スケジュール 日本語版 表面



年間スケジュール 日本語版 中面

(3) 広告

本美術館や各企画展の情報を各広報媒体にて掲載した。

①新聞広告

〈掲載紙及び内容〉

北日本新聞

- ・企画展「日本近現代ガラスの源流」 2023年7月8日 (土)
- ・美術館全体広告 2023年7月15日(土)
- ・企画展「宮永愛子 詩を包む」 2023年11月3日(金・祝)
- ・企画展「回顧展: 大平洋一 ヴェネツィアン・グラスの彼方へ」 2024年3月9日(土)

富山新聞

- ・美術館全体広告 2023年4月2日(日)
- ・企画展「宮永愛子 詩を包む」 2023年11月3日(金・祝)
- ・企画展「回顧展: 大平洋一 ヴェネツィアン・グラスの彼方へ」 2024年3月9日(土)

②Instagram 広告

〈発信内容〉

・企画展「日本近現代ガラスの源流」 期間:2023年7月28日(金)~8月18日(金)、 2023年9月15日(金)~9月24日(火)【32日間】

表示ユーザー数: 1,594,834人・企画展「宮永愛子 詩を包む」

期間:2023年11月2日(木)~12月2日(日)、 2023年12月21日(木)~2024年1月28日(日)【70日間】

表示ユーザー数: 1,533,528人

・企画展「回顧展:大平洋一 ヴェネツィアン・グラスの彼方へ」 期間:2024年3月9日(土)~3月31日(金)【23日間】 表示ユーザー数:434,730人



北日本新聞 半5段広告 2023年7月8日(土)



富山新聞 5段広告 2024年3月9日(土)



11/3 (a-to-71/2 Ban) 11/3 (a-to-71/2 Ban) 国山市ガラス県南倉 + 10 和田中か

ウェブ広告(Instagram)

③市の広報紙(広報とやま)での告知

〈特集掲載号〉

- ・企画展「日本近現代ガラスの源流」2023年7月5日号(カラー 0.5P)
- ・企画展「宮永愛子 詩を包む」2023年10月5日号(カラー 0.5P)
- ・企画展「回顧展: 大平洋一 ヴェネツィアン・グラスの彼方へ」 2024年3月5日号 (カラー 1P)

④美術誌や旅行誌、新幹線座席ポケット設置のフリーペーパー等への広告掲載

- ・「美術手帖」広告(2023年10月号)
- 「宮永愛子 詩を包む」
- ・JR東日本新幹線車内誌「トランヴェール」広告(12月号)
- ・旅行ガイドブック「まっぷる」広告(4・9・2月発行)
- ・「るるぶ」広告(2・3月発行)
- ・「ことりっぷ」広告(12月発行) 美術館全体やカフェ、ショップ

・富山駅南北自由通路

⑤市内各所へのポスター掲出

「アナザーワールド:不思議でリアルな世界」(3面)

期間:2023年1月30日(月)~6月20日(火)【142日間】

「日本近現代ガラスの源流」(3面)

期間:2023年6月22日(木)~10月9日(月・祝)【120日間】

「宮永愛子 詩を包む」(3面)

期間:2023年12月18日(月)~2024年1月28日(日)【42日間】

・富山きときと空港

「日本近現代ガラスの源流」(2面)

期間:2023年8月27日(土)~9月30日(金)【35日間】

・富山城址公園

「日本近現代ガラスの源流」(6面) 期間:2023年7月1日(土)~8月24日(木)【55日間】

「宮永愛子 詩を包む」(3面) 期間:2023年10月2日(月)~11月30日(木)【60日間】

⑥金沢駅サイネージ広告

・「日本近現代ガラスの源流」(20面)

期間:2023年8月1日(火)~8月31日(木)【31日間】

・「宮永愛子 詩を包む」(20面)

期間:2023年12月1日(金)~12月31日(日)【31日間】



広報とやま



まっぷる・るるぶ



富山駅南北自由通路



金沢駅サイネージ

(4) ガラス美術館ウェブサイト・SNS

①ウェブサイト

展覧会情報を中心に、利用案内や、施設の概要、お知らせ、カフェ、 ミュージアムショップの情報等を掲載している。また、対応言語は日 本語だけでなく英語、中国語 (繁体字、簡体字)、韓国語等の言語 に対応している。

※言語によってコンテンツは異なる。

〈日本語版コンテンツ〉

ホーム、展覧会情報、ご利用案内、施設紹介、美術館について、イベ ントほか

〈サイトアクセス数〉1,027,390回

期間:2023年4月1日~2024年3月31日



ガラス美術館ウェブサイト

JA EN Other Languages

②SNS

2020年より当館の Facebook 及び Instagram の公式アカウントを立 ち上げ、イベントの告知などを中心に情報発信を行っている。また、 2021年にはYouTubeの公式アカウントを立ち上げ、イベント等映像 の配信を行っている。

(5) 多言語翻訳システム (QR Translator)

外国人観光客や在日外国人の利便性を向上させるために、QR Translatorを2016年度から導入しており、展覧会のチラシ等のパンフレッ トや、名刺サイズのカード等に印刷されたQRコードをスマートフォン等で 読み取ることで、開催中の展覧会情報や館内案内等を8言語(日本語、 英語、簡体字、繁体字、ハングル、仏語、独語、伊語)で表示すること ができる。

〈利用アクセス数〉 7,731 回

期間:2023年4月1日~2024年3月31日

(6) その他

(5) までの広報活動の他に、メディア関係者に対してや公式ウェブサイ ト上等でプレスリリースを発信し、各種メディア(新聞やテレビ、雑誌、ウェ ブサイト、フリーペーパー等)で取り上げていただいている。



アーティストトーク

7人の作家と7つの世界

ガラス美術館 Facebook



ガラス美術館 Instagram ※投稿はガラス美術館ウェブサイトにも表示







QRT 美術館案内用カード

4. 2023 年度来館状況(2023 年 4 月 1 日~ 2024 年 3 月 31 日)

(1) 来館者数(月別)(単位:人)

月 (開館日数)		来館者数 (合計)
4月(28日)		16,050
5月(28日)		24,206
6月(28日)		12,897
7月(29日)		16,504
8月(29日)		27,558
9月(28日)		20,430
10月 (29日)		20,387
11月 (28日)		22,072
12月 (26日)		11,370
1月(16日)	能登半島地震の影響で1月2日~14日臨時休館	4,623
2月(27日)		13,964
3月(29日)		18,622
合計 (325 日)		208,683

(2) 事業別来館者数(延べ人数)

展覧会名	会期	来館者数(人)
アナザーワールド:不思議でリアルな世界	2023年 3月 4日(土) - 2023年 6月18日(日) (開場 73日※ 2023年度内)	27,797 (380 人 / 日)
日本近現代ガラスの源流	2023年 7月8日(土) - 2023年10月9日(月・祝)(開場88日)	33,757 (383 人 / 日)
宮永愛子 詩を包む	2023年 11月 3日(金·祝) - 2024年 1月28日(日)(開場 66日)	15,301 (231 人 / 日)
ガラスの街とやま連携展「ガラスと生きる」 富山ガラス工房と所属作家	2024年 2月10日(土) — 2024年 2月18日(日)(開場9日)	2,839 (315 人 / 日)
回顧展:大平洋一 ヴェネツィアン・グラスの 彼方へ	2024年 3月 9日(土) - 2024年 6月23日(日) (開場 22日※ 2023年度内)	7,455 (338 人 / 日)
常設展	2023年 4月 1日 (土) - 2024年 3月31日 (日) (開場 325日)	205,844 (633 人 / 日)

5. ギャラリー利用状況

	星町ムク	開催期間 (閉場日を除く)		開催	崔場所	÷/₩
	展覧会名	期間	日数(日) ギャラリー		ギャラリー2	— 主催 ———————————————————————————————————
1	山々の架け橋展	4/8(土) ~ 4/9(日)	2		0	文藝同人無刀会
2	香りの展示会、香展	4/21(金) ~ 4/30(日)	10		0	株式会社 HERBAL8
3	アムールの光	5/ 4 (木・祝) ~ 5/ 7 (日)	4	0		Heart Angel
4	三人展+1	5/13 (土) ~ 5/17 (水)	5	0		「3人展」実行委員会
5	Abox Photo Club Toyama 2023 写真展 Vol.6	5/19 (金) ~ 5/21 (日)	3	0	0	Abox Photo Club
6	宗玄浩写真展 ドリームクエストー夢をたずねて世界を巡る旅ー	5/26 (金) ~ 5/29 (月)	4	0		宗玄浩
7	写真展「彩」	6/3(土) ~ 6/4(目)	2	0	0	谷島匠海
8	G7 富山・金沢教育大臣会合開催記念メモリアル写真展	6/6(火)~ 6/25(日) ※6/7(水)、21(水)は休場日	18	0		G7 教育大臣会合富山県委員会
9	富山ガラス造形研究所 コールドクラス展「一層向こうへ - Beyond the Layer-」	7/14 (金) ~ 7/20 (木) ※ 7/19 (水) は休場日	6	0	0	富山ガラス造形研究所
10	写真展 dejavu	7/22 (土) ~ 7/24 (月)	3	0		小林優大
11	富山市所蔵作品展	7/26 (水) ~ 8/16 (水) ※ 8/2 (水) は休場日	21	0		富山市企画管理部文化国際課
12	第12回グループゆう展	8/20 (目) ~ 8/24 (木)	5	0		ゆう展実行委員会
13	第16回悠画展	8/20 (目) ~ 8/24 (木)	5		0	悠画会
14	YPP 熊倉桂三のプリンティングディレクション	9/ 1(金) ~ 9/ 4(月)	4	0	0	株式会社山田写真製版所
15	書道教室 Sunroom 展~えん en ~	9/8(金) ~ 9/10(日)	3	0	0	書道教室 Sunroom
16	樹人会書展 2023 ~日本から海を渡った人びと	9/15 (金) ~ 9/24 (日) ※ 9/20 (水) は休場日	9	0	0	書道研究樹人会
17	設え 2023 「すまいにプラス one」	9/29 (金) ~ 10/ 1(日)	3	0		新たな表具研究会「表湧」
18	JAGDA 富山 ポスターデザイン展 2023 GREEN vol.28	10/21 (土) ~ 10/25 (水)	5	0		JAGDA 富山
19	おえかきキッズ作品展 2023	10/28 (土) ~ 10/29 (目)	2		0	おえかきキッズ
20	昭和に生まれ、二人の日本画家に出会った	11/ 3 (金·祝)~11/12 (日)	10	0		立山画廊静幸貞美館
21	満ちる展	11/22 (水) ~ 11/26 (日)	5		0	満ちる展実行委員会
22	富山ガラス造形研究所アーティスト・イン・レジデンス 2023 展覧会	12/ 2(土) ~ 12/10(日)	9		0	富山ガラス造形研究所
23	『ちきゅうパスポート』原画展	12/13 (水) ~ 12/26 (火)	14		0	富山市立図書館
24	2023 年度富山大原デザイン学科 卒業制作展	1/19 (金) ~ 1/21 (日)	3	0	0	学校法人富山大原学園 富山大原簿記公務員医療専門学校
25	富山ガラス造形研究所造形科 1 年生グループ展「集積」-gathering and expanding-	1/27 (土) ~ 2/ 2 (金)	7	0	0	富山ガラス造形研究所
26	富山ガラス造形研究所卒業制作展 2024	2/10 (土) ~ 2/18 (目)	9	0	0	富山ガラス造形研究所
27	2023 年度 富山大原 進級制作展	2/23 (金·祝) ~ 2/25 (日)	3	0	0	学校法人富山大原学園 富山大原簿記公務員医療専門学校
28	富山第一銀行 第 62 回小学生図画コンクール	3/2(土) ~ 3/10(日) ※3/6(水)は休場日	8	0	0	株式会社富山第一銀行
29	富山工芸協会展覧会	3/14 (木) ~ 3/18 (月)	5	0		富山工芸協会
30	3.11 東日本大震災 宮城のキロクとキヲク	3/20 (水·祝) ~ 3/26 (火)	7	0		志麻克史
	合計 (30 展覧会)		194			開場日数 (搬入出日を含まず) 入場者数合計 ギャラリー1、2 (同時使用) 57日 53,445 ギャラリー1のみ 90日 ギャラリー2のみ 47日

6. 施設概要

(1) 基本設計

床面積

施設名称 富山市ガラス美術館

所在地 富山県富山市西町 5番 1号

TOYAMA キラリ内 2 階~ 6 階

(TOYAMA キラリ全体:地下 1 階、地上 10 階)

設計・監理 RIA・隈研吾・三四五共同企業体

施工 清水建設・佐藤工業共同企業体

美術館整備費 3,932 百万円(TOYAMA キラリ全体: 18,279 百万円)

工事期間 2013 (平成 25) 年 5 月 11 日~ 2015 (平成 27) 年 4 月 30 日

(2015 (平成 27) 年 5 月 9 日竣工)

① TOYAMA キラリ公益部分

(図書館等を含む) 共用エントランス・B棟(公益)

延床面積 13,841.01㎡ (うち、美術館専有部分) 3,935.73㎡

②TOYAMAキラリ全体(銀行、権利者棟を含む)

延床面積 26,792.82㎡ 建築面積 3,422.97㎡

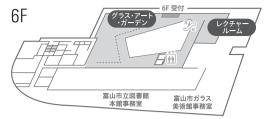
構造 鉄骨造 (付加制振構造)

外部仕上 PCカーテンウォール(御影石・アルミパネル打込み)

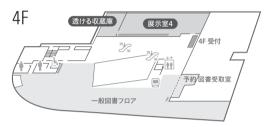
押出成形セメント板フッ素樹脂塗装

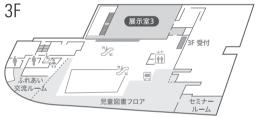
(2) 主要展示スペース面積

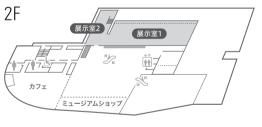
2 階 展示室 1(前室・展示ケース含む)	342.11m ²
2 階 展示室 2	83.39m²
3階展示室3(前室・付室含む)	362.85m²
4 階 展示室 4	275.07m ²
4 階 透ける収蔵庫	50.25m²
5階 ギャラリー 1	140.29m²
5階 ギャラリー 2	68.88m²
6 階 グラス・アート・ガーデン	657.93m ²

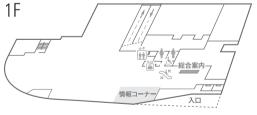












美術館エリア図書館エリア図書館エリア画 自動貸出機コインロッカーグラス・アート・パサージュ

7. 利用案内

(1) 開館時間・休館日

	開館時間	休館日
展示室	午前9時30分~午後6時 (金・土曜は午後8時まで)	第 1、第 3 水曜日、 年末年始 ※ 1
カフェ	午前10時~午後6時	水曜日、 年末年始 ※ 1
ミュージアムショップ	午前9時30分~午後6時 (金・土曜は午後7時30分まで)	第 1 水曜日、年末年始
ギャラリー 1・2	※ 2	※ 2

- ※1 企画展により、閉場日が異なる場合があります。
- ※2 ギャラリーの開場時間及び閉場日は展覧会により異なります。 詳細は展覧会主催者へお問い合わせください。
- ○入場時間は閉館時間の30分前までとなります。
- ○展示替え作業等で休館する場合があります。

(3) アクセス



- (市内電車) 富山駅から市内電車環状線にて約12分「グランドプラザ前」下車 徒歩約2分 富山駅から市内電車南富山駅前行きにて約12分「西町」下車 徒歩約1分
- (車・観光/ス) 富山ICより約20分 ※専用駐車場はありません。車又は観光バスでお越しの際は 周辺駐車場をご利用ください。
- 〈空路〉 富山空港より地鉄バス(富山空港線)「総曲輪」下車 徒歩約4分
- 〈 自転車 〉 自転車用の駐輪場は「TOYAMA キラリ」の南東側にあります。 自動二輪車はご利用いただけません。

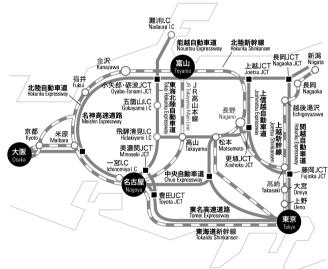
(2) 観覧料

告記臣	コレクション展 (4F)	₩ 十 世 + ∨ 200
常設展	グラス・アート・ガーデン (6F)	一般・大学生 ¥200

※常設展観覧券でコレクション展及びグラス・アート・ガーデンをご覧いただけます。 ※企画展は観覧料が異なります。

下記に該当する方は常設展及び企画展観覧料が無料^{**}となります。 ※富山市主催の展覧会のみ

- ●高校生以下の方
- ●富山市に住民登録がある70歳以上の方
- ●お出かけ定期券又はシルバーパス力をご提示の 65 歳以上の方
- ●身体障害者手帳、療育手帳、又は精神障害者保健福祉手帳をご提示の 方及びその介護者(1 名)
- ●団体引率者



- 〈東京〉 「東京駅」より、北陸新幹線を利用し「富山駅」へ
- 〈名古屋〉 「名古屋駅」より、特急しらさぎ・北陸新幹線を利用し「富山駅」へ
- **〈大 阪〉** 「大阪駅」より、特急サンダーバード・北陸新幹線を利用し 「富山駅」へ

研究紀要

Bulletin

- 96 【資料紹介】明道長次郎関係資料について中島春香
- 103 Abstract
 New Materials Relating to MYODO Chojiro
 NAKASHIMA Haruka

【資料紹介】明道長次郎関係資料について 中島春香

1. はじめに

明道長次郎 (1911-1944) は1920年代後半、旧満州の大連 (現中国) においてガラス表面を加工するグラヴィール の技術を身に付けた。1930年には東京・滝野川に設立された各務クリスタル工芸硝子研究所 (後の各務クリスタル製作所、現カガミクリスタル株式会社) に入所。同所でグラヴィールの仕事に携わりながら活発に作品制作も行っていたが、1941年に徴兵され、1944年に出征先で表示

当館では明道のガラス作品で唯一現存が確認されている《草花文グラヴュール硝子鉢》(図1)と、明道によるデッサンや図案が描かれたスケッチブック等の資料を2023年の企画展「日本近現代ガラスの源流」開催に際してご遺族より借用し展示した。これをきっかけにご遺族から当館への作品・資料の寄贈の打診があり、同年に受け入れに至った。本稿ではこのたび受贈した作品・資料のうち、明道のスケッチブックの内容について紹介する。

2. 明道長次郎について

明道長次郎は1911年に大阪市に生まれ、1923年に大連の春日小学校を卒業、その後同地の中学校を1925年に中退し、南満州硝子株式会社に入社したとされる²。ただし南満州硝子株式会社が設立されたのは1928年であることから³、入社時の社名は南満州鉄道株式会社の耐火煉瓦および空洞硝子の工場を継承し、1925年に設立された大連窯業株式会社であったとみられる⁴。明道がガラスの道に進むこととなった背景には、日本の近現代ガラス芸術における先駆者の1人である各務籍三の存在があった。

1918年に南満州鉄道株式会社に入社した各務は、1924年前後⁵、同社にドイツからグラヴィールの名手であるルドルフ・イェーナが招聘されると、イェーナの元でグラヴィールの技術の習得に励んだ⁶。当時、イェーナに入門したのは各務を除くと中国人のみであったという。これではならぬとの思いから各務は親類の高木茂を内地から呼び寄せるとともに、大連の日本人少年から篠原良雄、そして明道長次郎をグラヴィールの職場に入れて技術を習得させたのである⁷。

各務は1927年から2年間、ドイツのシュトゥットガルト美術工芸学校に留学し、ヴィルヘルム・フォン・アイフに師事してガラス工芸を学ぶこととなる。そして1929年に帰国し、翌1930年、東京の滝野川に各務ク

リスタル工芸硝子研究所を設立、1934年にはクリスタルガラスの素地の製造も行う各務クリスタル製作所を設立した(以下、研究所と製作所を総称して「各務クリスタル」とする)。大連でグラヴィールを学んだ明道、高木は1930年の立ち上げ時から各務クリスタルに加わり、グラヴィールの職場でガラス作品や製品の制作に携わった⁸。

各務クリスタルに勤務しながら、明道が自身の作品を積極的に制作していたことが、当時の展覧会への入選、受賞の記録から窺い知ることができる。確認できる出品歴は次の通りである。。

- ・1936 (昭和11) 年 第十三回東京工芸品展覧会《硝子皿》参等賞
- ・1937 (昭和12) 年 第十四回東京工芸品展覧会《クリスタル花瓶》参等賞
- ・1939 (昭和14) 年 第十六回東京工芸品展覧会《グラビール花文皿》参等賞
- ・1939 (昭和14) 年 第三回文部省美術展覧会(文展)《花文グラビール硝子鉢》
- ・1940 (昭和15) 年 第二回貿易局工芸品輸出振興展覧会《花瓶》褒状

また、1941年5月に東京在住のガラス作家により結成された「硝子作家東京会」に明道が会員として参加していたとの記録が残っており¹⁰、1941年7月に銀座松屋で開催された同会の第一回展、翌8月に神戸大丸で開催された関西展¹¹にも作品を出品していた可能性がある。

この後、1941年に明道は徴兵され、1944年にビルマ戦線において 戦死した。図3の写真は明道の出征と近い時期に撮影されたものとみ られる。

3. 資料の内容

今回受贈した《明道長次郎関係資料》はスケッチブック5冊と、明道の入選作品が掲載された『第三回文部省美術展覧会図録 第四部美術工芸』(1939年)からなる資料群である。スケッチブックについては1993年に郡山市立美術館で開催された「窯と祈りとガラスの神々:佐藤潤四郎展」に出品されたことが同展図録の出品目録から確認できる¹²が、内容の詳細や図版が出版物に掲載されたことはこれまでになかった。

ここでは各スケッチブックの概要について紹介し、描かれたデッサン や図案の一部を抜粋して掲載する。なお各スケッチブックには当館での 情報整理のため、1~5の番号を付与している。

- 1 回転する円盤にガラスを当て、表面に絵画的な図像や文様を彫り可飾する技法。「グラヴュール」、「グラビール」などの表記もあるが、本稿では次の文献を参照し、本文中では現在多くの作家に用いられている「グラヴィール」と表記した。齊藤晴子「日本におけるグラヴィールの歴史について」『青野武市作品受贈記念ーガラスに、彫る一日本のグラヴィール』町田市立博物館、2016 年、8-10 頁。ただし作品名については各作品が掲載された出版物や関係資料の表記に沿って記載した。
- 2 「作家紹介 明道長次郎」『近代日本のガラス工芸-明治初期から現代まで-』東京国立近代美術館、1982年。
- 3 満州事情案内所編『満州事情案内所報告 16 満州事情(下)』1934 年、45 頁。
- 4 南満州鉄道株式会社のガラス事業の変遷については次の文献に詳しい。齊藤晴子「新出資料紹介: 橘硝子製造所、満鉄窯業工場ならびに南満州硝子株式会社関連写真について」『GLASS 日本ガラス工芸学会誌』62号、2018年、67頁。
- 5 同上 68 頁において、ルドルフ・イェーナの大連到着時期には諸説あることが述べられている。
- 6 各務鑛三「続続 満鉄に働いていた外国人 ルドルフ・イーナー 一満鉄窯業試験所クリスタル硝子技師一」『満鉄会報』第31号、1963年、7頁。
- 7 各務満「父鑛三の生涯」『各務鑛三作品集』1987年、16頁。
- 8 同上17頁。
- 9 出品歴は開催年、展覧会名、作品名、賞名(受賞している場合)の順に記載した。第三回文展を除く4つの展覧会については、明道家に保管されている賞状から受賞内容を確認した。なお第二回貿易局工芸品輸出振興展覧会については『官報』第4058号(1940年07月17日)にも掲載がある。
- 10「雑報」『大日本窯業協會雑誌』49巻585号、1941年、65頁。
- 11 『美術新報』1号、1941年8月、2-3頁。
- 12 「出品目録」『窯と祈りとガラスの神々:佐藤潤四郎展』郡山市立美術館、1993年、171頁。

3.1 スケッチブック1(図4~7)

表紙寸法は縦22.5×横16.0cm、ハードカバーとなっている。年代の記載は見られない。全174ページ中、前半99ページまではほとんどが裸婦のデッサンであり、100頁以降は器の図案が多く描かれる。

図6の魚の図案は「スケッチブック3」に描かれる図16の図案と類似しているが、こちらはアイディアスケッチの段階のものとみられる。図7の図案には「ツヤケシ」、「ミガキ」などガラス制作における仕上げの指定と思われる書き込みがある。

3.2 スケッチブック2 (図8~11、図13~14)

表紙寸法は縦29.0×横25.5cm。表紙に「昭和拾二年二月拾七日」(昭和12 (1937) 年2月17日)の記載がある(図9)。表紙と用紙の間に5枚、用紙と用紙の間に1枚、裏表紙と用紙の間に22枚、下絵等の描かれた紙や、切り抜きの断片が挟み込まれている(例:図10)。スケッチブックには主に器の図案や動物のスケッチが描かれている。

図11は右上に「大連市近江町□□」「草野ビル」と記載されている(「□□」は判読できず)。表紙の年月日から、本スケッチブックは明道が大連を離れてから使用を開始したものとみられるため、実際に訪れた場所を思い出してのスケッチなのか、写真等を参照したのかは定かではない。しかし具体的な場所の名称が記載されているのはスケッチブック5冊の中でも本図のみであり、明道の活動との関連性についてさらに調査を進めたい。

また本スケッチブックには「第三回文部省美術展覧会」(1939年) に 入選した《花文グラビール硝子鉢》(図12) の図案とみられるものが複 数描かれている(例:図13、図14)。

3.3 スケッチブック3 (図15~16、図18~19)

表紙寸法は縦28.0×横26.0cm。裸婦デッサンや器の図案が描かれている。用紙と用紙の間に1枚、梅の木とみられるスケッチが描かれた紙が挟み込まれている。

1ページ目の魚の図案(図16)は、同じデザインのガラス器が1933年頃に大阪・生駒時計店で開催された各務クリスタルの製品販売会のカタログとみられる冊子『GRAVUR.』に掲載されており(図17)、明道がこのガラス器のデザインを手掛けた可能性が高い。その場合、1930年代前半の各務クリスタルにおける明道の仕事と関連付けられる貴重な資料と言える。

裸婦のデッサンのうち、図18には「11.8.1932 C.Myodo」の記載が、この次のページには「11.9.1932 C.Myodo」の記載がある。また図19の少女と犬を描いたスケッチには「1935.1.30 C.Myodo」と記載されている。これらの情報から、本スケッチブックは1933年から1935年頃に使用されたものと考えられる

3.4 スケッチブック4 (図20~23)

表紙寸法縦30.5×横24.5cm。表紙に「製作用画冊」、「画仙紙」と書かれており、薄手・白色の画仙紙(書画用の紙)と、質の異なる用紙が交互に綴じられている。画仙紙には図案を墨で清書したとみられる描画が(例:

図21)、もう一方の用紙には鉛筆によるスケッチや図案が描かれている。 図22には日付とみられる「2.12」の記載がある。用紙と用紙の間には器の図案(図23)や動物のスケッチが描かれた紙3枚のほか、「各務クリスタル製作所」の社名の入ったメモ用紙5枚が挟み込まれており、メモ用紙には手紙の草稿とみられる書き込みがある。年代に関わる記載は見られないが、本スケッチブックが挟み込まれたメモ用紙と同時期に使用された場合、社名から1934年以降のものと推定できる。

3.5 スケッチブック5 (図24~27)

表紙寸法は縦20.5×横31.5cm。年代に関わる記載は無い。表紙に「T.M.」のイニシャル表記がある。他のスケッチブックと異なり、前半頁には着彩された植物が多く描かれている(例:図25、図26)。用紙を埋めつくすように花器とみられる図案を細かく描いたページも複数あり(例:27)、これも他のスケッチブックには見られないものである。

4 おわりに

5冊のスケッチブックからは、明道が図案の制作に幅広いモチーフを参照していたこと、そして創作活動に積極的に取り組んでいたことが生き生きと伝わってくる。現存作品が1点のみであり、未だその制作活動について明らかでない部分も多い明道であるが、本資料は《草花文グラヴュール硝子鉢》以外の作例を調査する上で重要な手掛かりとなると言えよう。今後、1930年代から1940年代の各務クリスタルの製品カタログや展示パンフレット等が3.3で取り上げた『GRAVUR.』以外にも見つかり、本資料と照らし合わせることが出来れば、さらに明道がデザインや制作を手掛けた作品や製品が判明することが期待される。日本の近代ガラス芸術史の最初期の研究を進める上でも重要となる明道の活動について、今後も本資料を元に調査を続けていきたいと考える。

謝辞

明道長次郎氏の作品・資料の受贈にあたり、明道正武氏より多大な ご協力を賜りました。また本稿に掲載した貴重な写真をご提供いただき ました。ここに記して深く感謝申し上げます。



図 1 明道長次郎《草花文グラヴュール硝子鉢》1940年、撮影:田中祐樹



図3 1941年10月18日撮影。左が明道長次郎、右が妻・和子、手前が長男・正武。 写真提供:明道正武氏



図2 「ドイツ人ノ師ト友ト長次郎」とアルバムに書き添えられた記念写真。前列中央がルドルフ・イェーナ、 後列左が明道長次郎。撮影年は1925年から1928年の間と推定される。写真提供:明道正武氏



図4「スケッチブック1」表紙



図5



図6



図

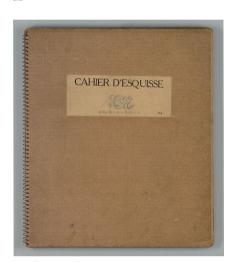


図8「スケッチブック2」表紙



図9表紙拡大



図10



図 11



図 12 『第三回文部省美術展覧会図録 第四部美術工芸』1939年(富山市ガラス美術館所蔵)より転載。



図 13



図 14



図 15「スケッチブック3」表紙



図16



図18



図 17 生駒時計店『GRAVUR.』 1933年頃、3頁(富山市ガラス美術館所蔵)より転載。本冊子は発行 年が記載されていないが、裏見返しに1933(昭和8)年6月から1934(昭和9)年5月までの「七 曜表」(カレンダー)が掲載されていること、前文に販売会が夏の開催であることが示唆されている ことから、1933年の発行と推定した。



図19



図20「スケッチブック4」表紙



図21



101

図22



図23



図24「スケッチブック5」表紙

図25





図26



Abstract

New Materials Relating to MYODO Chojiro NAKASHIMA Haruka

MYODO Chojiro (1911–1944) joined the South Manchurian Glass Co., Ltd. in 1925 where he learned the technique of glass engraving. In 1930 he joined the Kagami Crystal Glass Institute (the forerunner of Kagami Crystal Works), established in Takinogawa, Tokyo. While engaging in engraving work at the institute, he also actively produced his own glass artworks. He was conscripted in 1941 and died a premature death in the war in 1944.

In 2023, Myodo's family gifted to the Toyama Glass Art Museum a number of items including *Glass Bowl with Engraved Design of Grass and Flowers*, the only glass artwork by Myodo confirmed to still exist, and sketchbooks containing his designs and drawings, which were added to the museum's collection. In this report, we introduce the contents of the sketchbooks belonging to Myodo, about whom little has been written do date. One of the designs is thought to be for *Glass Bowl with Engraved Design of Flowers*, which was selected for the Third Ministry of Education Fine Arts Exhibition (Bunten) in 1939. In the future, we hope to pursue research on Myodo's creative activities based on these materials.

(Translated by Pamela MIKI)

2023 年度

富山市ガラス美術館 記録集・研究紀要

Toyama Glass Art Museum Document Book and Bulletin 2023 Vol.9

2024年9月30日発行

執 筆:土田ルリ子 (富山市ガラス美術館館長)

渡部名祐子 (富山市ガラス美術館主任学芸員) 中島春香 (富山市ガラス美術館主任学芸員) 浅田真帆 (富山市ガラス美術館主任学芸員) 高橋由佳 (富山市ガラス美術館主任学芸員) 米田結華 (富山市ガラス美術館学芸員)

デザイン:彼谷雅光(有限会社ナチュラル・デザインスタジオ)

編 集:富山市ガラス美術館

(米田結華、櫻井美佳、小川果歩、宝田幸弘、田辺友理子)

翻 訳:ルーシー・サウス・マクレリー (ザ・ワード・ワークス) (p.5, 69(右))

クリストファー・スティヴンズ (p.35, 69(左)) パメラ三木 (p.45, 59, 64, 76,103)

写 真:末正真礼生 (pp.6-11, 28-29, 70(右), 75(1,3-5))

室澤敏晴(pp.12-17, 44) 木奥惠三(pp.18-23)

大木賢 田川紘輝 nando.inc. (pp.24-25)

柳原良平(pp.26-27, 70(左)) 田中祐樹(p.75(2), 98(1))

印 刷:能登印刷株式会社

発 行:富山市ガラス美術館

〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

toyama-glass-art-museum.jp Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310 First Edition: September 30, 2024

Texts: TSUCHIDA Ruriko (Director, Toyama Glass Art Museum)

WATABE Nayuko (Curator, Toyama Glass Art Museum)
NAKASHIMA Haruka (Curator, Toyama Glass Art Museum)
ASADA Maho (Curator, Toyama Glass Art Museum)
TAKAHASHI Yuka (Curator, Toyama Glass Art Museum)
YONEDA Yuika (Curator, Toyama Glass Art Museum)

Design: KAYA Masamitsu (Natural Design Studio)

Edit: Toyama Glass Art Museum

(YONEDA Yuika, SAKURAI Mika, OGAWA Kaho, TAKARADA Yukihiro,

TANABE Yuriko)

Translation: Ruth South McREERY (The Word Works, Ltd)(p.5, 69(right))

Christopher STEPHENS (p.35, 69(left))
Pamela MIKI (p.45, 59, 64, 76,103)

Photographs: SUEMASA Mareo (pp.6-11, 28-29, 70(right), 75(1,3-5))

MUROSAWA Toshiharu (pp.12-17, 44)

KIOKU Keizo (pp.18-23)

Ken OHKI Hiroki TAGAWA nando, Inc. (pp.24-25)

YANAGIHARA Ryohei (pp.26-27, 70(left))

TANAKA Yuuki (p.75(2), 98(1))

Printed by Noto Printing Corporation

Published by Toyama Glass Art Museum

Nishicho 5-1, Toyama City, Toyama 930-0062, Japan

toyama-glass-art-museum.jp

本書の無断転写、転載、複製を禁じます。

©2024 富山市ガラス美術館および著作者

©2024 Toyama Glass Art Museum and the authors

All rights reserved.

No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or by no means,

without prior permission in writing from the publisher.

Printed in Japan